

第四百四條 答辯書ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作リ且被控訴人ノ一定ノ申立及ヒ其主張セントスル新ナル事實及ヒ證據方法ヲ掲ケ可シ

參考 民訴一〇五條乃至一〇八條 四一五條、四〇七條。民訴印一〇條、一一條

第四百五條 被控訴人ハ自己ノ控訴ヲ撤廢シタルトキ又ハ控訴期間ノ經過シタルトキト雖モ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴四〇〇條一項、四〇七條

第四百六條 附帶控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトニ付テハ第三百九十八條ノ規定ニ從フ

參考 民訴一七七條一項、一三三條二項

第四百六條 左ノ場合ニ於テハ附帶控訴ハ其效力ヲ失フ

第一 控訴ヲ不遵法トシテ判決ヲ以テ棄却シタルトキ

參考 民訴四一九條

第二 控訴ヲ取下ケタルトキ

參考 民訴三九九條、一九八條

然レトモ被控訴人カ控訴期間内ニ附帶控訴ヲ爲シタルトキハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス

參考 民訴四〇〇條一項、四一九條

第四百七條 答辯書ニ新ナル事實若クハ證據方法ヲ掲ケ又ハ附帶控訴ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ掲ケタルトキハ之ヲ控訴人ニ送還ス可シ

參考 民訴四〇四條、四〇五條一、三三六條以下

第四百八條 右ノ外控訴ノ訴訟手續ニハ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ノ規定ヲ準用ス但本條ノ規定ニ依リ差異ノ生スルモノハ此限ニ在ラス

參考 民訴一九〇條乃至三三二條、四〇九條乃至四三一條、四八四條乃至四九六條

第四百九條 當事者ノ雙方ヨリ控訴ヲ起シタルトキハ其附帶控訴ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ同時ニ爲ヌテ以テ選例トス

參考 民訴一一八條

第四百十條 口頭辯論ハ其期日ニ於テ被控訴人ノ控訴期間ノ未タ經過セザルトキハ其申立三回ノ期間ノ満了マテ之ヲ延期ス

參考 民訴四〇〇條一項

第四百十條 附帶控訴ヲ受ケタル原告若クハ被告ヨリ其判決ニ對シテ附帶控訴ヲ起シタルトキハ其控訴ニ付テ辯論及ヒ裁判ハ附帶控訴ノ完結マテ廢止ヲ以テ之ヲ延期ス

參考 民訴二四七條、二四八條、二五五條、三九六條、一五九條二項、二六〇條

(全文ニ關係)民訴五一一條二項

第四百十一條 控訴裁判所ニ於ケル訴訟ハ不服ノ申立ニ因リテ定マリタル範圍内ニ於テ之ヲ辯論ス

參考 民訴三三二條、四〇一條二項

第四百十二條 當事者ハ其控訴ノ申立及ヒ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ當否ヲ明確ナラシムル爲メ必要ナル限りハ口頭辯論ノ際第一審ニ於ケル辯論ノ結果ヲ演述ス可シ

演述ノ不正確又ハ不完全ナル場合ニ於テハ裁判長ハ其更正若クハ補充ヲ爲サシメ又必要ナル場合ニ於テハ辯論ヲ再開シテ之ヲ爲サシム可シ

第四百十三條 訴ノ變更ハ相手方ノ承諾アルトキト雖モ之ヲ許サス

參考 民訴一九五條二項三項、四一六條。人訴八條、二六條、三九條三項

第四百十四條 妨訴ノ抗辯ハ職權ヲ以テ調査ス可カラサルモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサリシコトヲ說明スルトキニ限り之ヲ主張スルコトヲ得

民事訴訟法

第四百十五條 當事者ハ第一審ニ於テ主張セザリシ攻擊防禦ノ方法殊ニ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

參考 民訴二〇七條一項

第四百十六條 新ナル請求ハ第九十六條第二號及ヒ第三號ノ場合又ハ相殺スルコトヲ得ヘキモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサリシコトヲ證明スルトキニ限り之ヲ起スコトヲ得

參考 民訴三三〇條

第四百十七條 事實又ハ證據ニ付キ第一審ニ於テ爲ササリシ陳述又ハ拒ミタル陳述ハ第二審ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第四百十八條 第一審ニ於テ爲シタル裁判上ノ自由ハ第二審ニ於テモ亦其效力ヲ有ス

第四百十九條 控訴裁判所ハ控訴ヲ許ス可キヤ否ヤ又控訴ヲ法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ起シタルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ調査ス可シ若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ不適法トシテ棄却ス可シ

第四百二十條 第一審ノ裁判ハ變更ヲ申立テタル部分ニ限リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四百二十一條 第一審ニ於テ是認シ又ハ非認シタル請求ニ關スル點テノ爭點ニシテ申立ニ從ヒ辯論及ヒ裁判ヲ必要トスルモノハ第一審ニ於テ此等點ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ササルトキト雖モ控訴裁判所ニ於テ其辯論及ヒ裁判ヲ爲ス

第四百二十二條 控訴裁判所ハ左ノ場合ニ於テ事件ニ付キ尙ホ辯論ヲ必要トスルトキハ其事件ヲ第一審裁判所ニ送付ス

第四百二十三條 第一審ニ於テ訴訟手續ニ付テノ規定ニ違背シタルトキハ控訴裁判所ハ其判決及ヒ違背シタル訴訟手續ノ部分ヲ廢棄シ事件ヲ第一審裁判所ニ送戻ス可トナ

第一 不服ヲ申立テラレタル判決カ兩席判決ナルトキ
第二 不服ヲ申立テラレタル判決カ兩席判決ニ對スル故障ヲ不適法トシテ棄却シタルモノナルトキ
第三 不服ヲ申立テラレタル判決カ妨訴ノ抗辯ノミニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ
第四 請求カ其原因及ヒ數額ニ付キ爭アル場合ニ於テ不服ヲ申立テラレタル判決カ先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ
第五 不服ヲ申立テラレタル判決カ證據訴訟及ヒ爲替訴訟ニ於テ敗訴ノ被告ニ別訴訟ヲ以テ進行ヲ爲スルヲ留保シタルモノナルトキ

傳

第四百二十四條 控訴ノ理由ヲシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ノ棄却ヲ宣渡ス可シ

第四百二十五條 判決ヲ控訴人ノ不利益ニ變更スルコトハ相手方カ控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ以テ判決ニ付キ不服ヲ申立テタル部分ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十六條 第二百十條ノ規定ニ從ヒテ防禦ノ方法ヲ却下スルトキハ其防禦ノ方法ヲ主張スル權ハ之ヲ被告ニ留保ス可シ

判決ニ此留保ヲ稱ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ從ヒテ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得

留保ヲ稱ケタル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ終局判決ト看做ス

第四百二十七條 防禦ノ方法ニシテ被告ニ其主張ヲ留保スルモノニ付テハ其訴訟ハ第二審ニ繫屬ス

爾後ノ手續ニ於テ訴ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ願ハルルトキハ前判決ヲ廢棄シテ其訴ヲ棄却シ且申立ニ因リ判決ニ基キ支拂ヒタルモノ又ハ給付シタルモノヲ返還ス可キコトヲ宣渡シ且ニ費用ニ付キ裁判ヲ爲ス可シ

第四百二十八條 控訴人カ口頭辯論ノ期日ニ出席セサルトキハ出席シタル被告ノ申立ニ因リ附帶判決ヲ以テ控訴ノ棄却ヲ宣渡ス可シ

第四百二十九條 被控訴人口頭辯論ノ期日ニ出席セサル場合ニ於テ出席シタル控訴人ヨリ兩席判決ノ申立ヲ爲ストキハ第一審裁判ノ證據ト爲リタルモノニ低價セサル控訴人ノ事實上ノ供述ハ被控訴人之テ自由シタルモノト看做シ且第一審裁判所ノ事實上ノ確定ヲ補充シ若クハ廢棄スル爲メ控訴人ノ申立テタル適法ノ證據ハ既ニ之ヲ爲シ及ヒ其結果ヲ得タルモノト看做シ兩席判決ヲ爲ス

第四百三十條 防禦ノ方法ニシテ被告ニ其主張ヲ留保スルモノニ付テハ其訴訟ハ第二審ニ繫屬ス

第四百三十一條 二二六條、三九條、五九條

第四百二十條 判決中の事實の指示に付テハ前審の判決ヲ引用スルコトヲ得

參考 民訴三三六條

第四百二十一條 控訴裁判所ノ審記ハ控訴狀ノ提出ヨリ二十四時間ニ第一審裁判所ノ審記ニ訴訟記録ノ送付ヲ求ム可シ

控訴完結ノ後其記録ハ第二審ニ於テ爲シタル判決ノ認證アル附本ト共ニ第一審裁判所ノ審記ニ之ヲ返還ス可シ

第二章 上告

第四百三十二條 上告ハ地方裁判所及ヒ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテ之ヲ爲ス

參考 裁判三七條二號、五〇條一號(イ)。民訴二〇七條二項、二二八條二項、三九四條、四九一條二項

第四百三十三條 終局判決前ニ爲シタル裁判ハ亦上告裁判所ノ判斷ヲ受ク但此法律ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得スト明記シタルトキ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

參考 民訴三九七條註

第四百三十四條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴四三五條

第四百三十五條 法則ヲ適用セズ又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタルモノトス

參考 民訴四三六條

第四百三十六條 裁判ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法律ニ違背シタルモノトス

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

參考 裁判一一條、三二條、四〇條、四一條、五七條、五八條、六〇條乃至六二條、六四條、六五條、六七條乃至七二條、八一條。民訴三三二條

第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除外セラレタル判事ハ裁判ニ參與シタルトキ但是違ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除外ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ此限ニ在ラス

參考 民訴三三條、三三條一項、三八條

第三 判事力忌避セラレ且忌避ノ申請理由アリト認メタルニ拘ハラズ裁判ニ參與シタルトキ

參考 民訴三三條、三八條

第四 裁判所カ其管轄又ハ管轄送テ不當ニ認メタルトキ

此上告狀ニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 上告セラルル判決ノ表示

第二 此判決ニ對シ上告ヲ爲ス旨ノ陳述

此他上告狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り替ニ判決ニ對シ如何ナル程度ニ於テ不服ナルヤ及ヒ判決ニ付キ如何ナル程度ニ於テ被毀ヲ爲ス可キヤノ申立ヲ掲ケ且法則ヲ適用セス若クハ不當ニ適用シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其法則ノ表示又ハ訴訟手續ニ付テノ規定ニ違背シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其欠缺ヲ明カニスル事實ノ表示又ハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シ若クハ違反シ若クハ提出シタリト看做シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其事實ノ表示ヲ掲ケ可シ

參考 民訴一〇五條乃至一〇八條、四三四條、四三五條、四四六條、四四七條

第四百三十九條 上告裁判所ハ上告人ヲ呼出シ其陳述ヲ聽キ上告ヲ許ス可カラサルモノナルトキ又ハ法律上ノ方式及ヒ期間ニ於テ起ササルトキ又ハ第四百三十四條ノ規定ニ依ラサルトキハ判決ヲ以テ之ヲ送却ス可シ

參考 民訴四三三條、四三四條、四三七條、四三八條二項。民訴印二條、五條、一一條

參考 裁判一四條、二六條、三七條、三八條。民訴九條乃至二四條

第五 訴訟手續ニ於テ原告者クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ

參考 民訴四三條、四六條、四七條、六三條乃至七〇條

第六 訴訟手續ノ公行ニ付テノ規定ニ違背シタル口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲シタルトキ

參考 憲五九條。裁判一〇三條乃至一一二條

第七 裁判ニ理由ヲ付セザルトキ

參考 民訴三三六條三號

第四百三十七條 上告期間ハ一個月トス此期間ハ不變期間ニシテ判決ノ送達ヲ以テ始マル

參考 民訴一六六條、一六八條二項、一七〇條、一七四條、一八六條一項、一八八條一項、二三八條、二三六條以下

判決ノ送達前ニ提起シタル上告ハ無效トス

第四百三十八條 上告ノ提起ハ上告狀ヲ上告裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス

參考 民訴印二條、五條、一一條

上告人カ呼出ノ期日ニ出頭セザルトキハ上告ヲ取下ケタルモノト看做ス但出頭セザリシコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ十分ナル理由ヲ以テ辯解シタルトキハ更ニ期日ヲ定ム

参考 三九九條二項、四五四條二款

第四百四十四條 上告狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニ存スルコトヲ要スル時間ニ付テハ第四百九十四條ノ規定ヲ適用シ答辯書ヲ送出不可キ期間ノ催告ニ付テハ第四百九十九條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テモ亦第二百三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四百四十一條 答辯書ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作リ且一定ノ申立ヲ掲ク可シ

参考 民訴一〇五條乃至一〇八條、四三八條三項、民訴印一〇條、一一條

第四百四十二條 被上告人ハ附帶上告ヲ爲スコトヲ得此附帶上告ニ付テハ附帶控訴ノ規定ヲ準用ス

参考 民訴四〇五條、四〇六條

第四百四十三條 答辯書ニ附帶上告ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ掲ケタルトキハ之ヲ上告人ニ送達ス可シ

参考 民訴一三六條以下、四四二條

第四百四十四條 右ノ外上告ノ訴訟手續ニハ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ノ規定ヲ準用ス但本章ノ規定ニ依リ差異ノ生スルモノハ此限ニ在ラス

参考 民訴一九〇條乃至三七二條、四八四條乃至四九六條、四四五條乃至四五四條

第四百四十五條 上告裁判所ハ當事者ノ爲シタル申立ノニ付キ調査ヲ爲ス

参考 民訴二二二條

第四百四十六條 上告裁判所ハ裁判ヲ爲スニ付キ控訴裁判所カ其裁判ノ證據トシタル事實ヲ標準トス此事實ノ外ハ第四百三十八條第三項ニ掲ケタル事實ニ限リ之ヲ斟酌スルコトヲ得

證據調子必要トスルトキハ上告裁判所ハ之ヲ命ス可シ

参考 民訴二七三條以下

第四百四十七條 上告ヲ理由アリトスルトキハ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ破毀ス可シ

参考 民訴四四八條乃至四五五條

訴訟手續ニ關スル規定ニ違背シタルニ因リ判決ヲ破毀スルトキハ其違背シタル部分ニ限リ訴訟手續ヲモ亦破毀ス

可シ

第四百四十八條 判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ第四百五十一條ノ規定ヲ除ク外更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ控訴裁判所ニ差戻シ又ハ之ヲ他ノ同等ナル裁判所ニ移送ス可シ

参考 民訴四四七條

事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス

参考 民訴四四九條、四五〇條

第四百四十九條 當事者ハ破毀セラレタル判決ノ以前ニ於ケル口頭辯論ニ當リ提出スルコトヲ得ヘカクシ事項ヲ新口頭辯論ニ際シ提出スル權利アリ

参考 民訴四一五條乃至四一七條

第四百五十條 事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ上告裁判所ノ爲シタル法律ニ係ル判斷ニシテ判決ヲ破毀スル基本ト爲シタルモノヲ以テ新ナル辯論及ヒ裁判ノ基本ト爲ス義務アリ

参考 裁法四八條

第四百五十一條 上告裁判所ハ左ノ場合ニ於テ事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可シ

第一 確定シタル事實ニ法律ヲ適用スルニ當リ法律ニ違背シタル爲ニ判決ヲ破毀シ且其事件カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ

第二 無訴權ノ爲メ又ハ裁判所ノ管轄違ナル爲ニ判決ヲ破毀スルトキ

参考 民訴二〇六條二項一號二號

第四百五十二條 上告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ差却ス可シ

第四百五十三條 裁判カ其理由ニ於テ法律ニ違背シタルトキト雖モ他ノ理由ニ因リ裁判ノ正當ナルトキハ上告ヲ差却ス可シ

第四百五十四條 左ノ諸件ニ關スル控訴ノ規定ハ上告ニ之ヲ準用ス

第一 兩席判決ニ對スル不服ノ申立

参考 民訴三九八條、四〇五條二項

第二 控訴ノ取下

参考 民訴三九九條

第三 當事者ノ雙方ヨリ控訴ヲ起シタル場合ニ於ケル訴訟手續及ヒ控訴ト故障トヲ同時ニ爲シタルトキノ訴訟手續

參考 民訴四〇九條、四一〇條二項

第四 口頭辯論ノ延期

參考 民訴四一〇條一項

第五 口頭辯論ノ際ニ於ケル當事者ノ演述

參考 民訴四一二條

第六 妨訴ノ抗辯ニ付テノ辯論

參考 民訴四一四條

第七 控訴ヲ起シタル者ノ不利益ト爲ル裁判ヲ爲スコ

カラサルコト

參考 民訴四二五條

第八 記録ノ送付並ニ返還

參考 民訴四三一條

第三章 抗告

第四百五十五條 抗告ハ訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論

ヲ經シテ却下シタル裁判ニ對シ其他此法律ニ於テ特ニ

掲ケタル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

參考 裁判二六條二號、三七條三號、五一條一號(ロ)

民訴(訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經シテ却

下シタル裁判)二八條、五二條、一〇一條、一七一條

五三四條、五四七條、五四九條、五六五條、七三五條

七四一條、七五六條、七五七條、七六一條、七六五條

(此法律ニ於テ特ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ハキ明文アル

場合)三八條、四一條、四六條、五二條、五七條、八三

條、八五條、一〇二條、一八九條、一九二條、二四一

條、二五三條、二五七條、二九四條、三〇一條、二〇

一條、三三三條、三三八條、三〇五條、三三三條、三

九三條、四〇二條、四七六條、五五八條、六八〇條、

七五四條、七六九條

第四百五十六條 抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ

爲ス

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ

抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコト

ヲ得ス

第四百五十七條 抗告ハ不服ヲ申立テラシムル裁判ヲ爲シ

タル裁判所又ハ裁判長ノ屬スル裁判所ニ抗告狀ヲ提出シ

テ之ヲ爲ス

參考 民訴四六條一號、一一條、民訴四六一條、四五

九條

訴訟カ區裁判所ニ聚屬シ若クハ審判聚屬シタルトキ又ハ

證人、鑑定人ヨリ若クハ證據ヲ提出スル義務アリト宣誓

圖スルコトヲ得

抗告裁判所ハ抗告ニ付テノ裁判ヲ爲ス前ニ不服ヲ申立テ

ラシムル裁判ノ執行中止ヲ命スルコトヲ得

第四百六十一條 抗告ハ急迫ナル場合ニ限リ直チニ抗告裁

判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴四五七條一項

抗告裁判所ハ裁判ヲ爲ス前ニ不服ヲ申立テラシムル裁判

ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ノ意見及ヒ記録ヲ要求スル

コトヲ得

參考 民訴四五九條

抗告裁判所ハ事件ヲ急迫ナラスト認ムルトキハ不服ヲ申

立テラシムル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ其事件

ヲ送付シ且其旨ヲ抗告人ニ通知ス可シ

參考 民訴四六六條二項

第四百六十二條 抗告裁判所ハ口頭辯論ヲ經シテ裁判ヲ

爲スヲ以テ通例トス

抗告裁判所ハ抗告人ト反對ノ利害關係ヲ有スル者ニ抗告

ヲ通知シテ書面上ノ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

陳述ハ口頭ヲ以テ抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テハ亦口頭

ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

ヲ受ケタル第三者ヨリ抗告ヲ爲スコトキハ口頭ヲ以テ之ヲ

爲スコトヲ得

參考 民訴二三五條、二九四條、三〇一條、三〇二條

三三三條、三三八條、三四二條、三四三條、民訴印一

條、六條一號、一一條

第四百五十八條 抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ憑

據ト爲スコトヲ得

參考 民訴四一五條

第四百五十九條 不服ヲ申立テラシムル裁判ヲ爲シタル裁

判所又ハ裁判長カ再度ノ考案若クハ新ナル提供ニ基キ抗

告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ點ヲ更正シ又理由ナ

シトスルトキハ裁判所又ハ裁判長ハ意見ヲ付シテ三日ノ

期間内ニ抗告ヲ抗告裁判所ニ送付シ又適當トスル場合ニ

於テハ訴訟記録ヲ送付ス可シ

參考 民訴四五七條、四五八條、一七〇條

第四百六十條 抗告ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル

場合ニ限リ執行停止ノ效力ヲ有ス

參考 民訴二九四條、三〇一條、三〇二條、六八〇條

然レトモ不服ヲ申立テラシムル裁判ヲ爲シタル裁判所又

ハ裁判長ハ抗告ニ付テノ裁判アルマテ其執行ノ中止ヲ命

抗告裁判所ハ口頭辯論ノ爲ニ當事者ヲ呼出スニトテ待
參考 民訴四七五條二項

第四百六十三條 抗告裁判所ハ抗告ヲ許ス可キ否又法
律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ提出シタルヤ否ヤ
ヲ酌量シ以テ調査ス可シ

參考 民訴二抗告ヲ許スヘキヤ否ヤニ付テ(四五五條、
四五七條、四六五條、)法律上ノ方式ニ從ヒ提出シタ
ルヤ否ヤニ付テ(四五七條、)其期間ニ於テ提出シタ
ルヤ否ヤニ付テ(四六六條、民訴印一條、六條一號、
一一條

若シ此案件ノ一ヲ缺クトキハ抗告ヲ不合法トシテ棄却ス
可シ

第四百六十四條 抗告ヲ適法ニシテ且理由アリトスルトキ
ハ抗告裁判所ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ廢棄シテ自
ラ更ニ裁判ヲ爲シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シ
タル裁判所又ハ裁判長ニ委任シテ裁判ヲ爲サシムルコト
ヲ得

參考 民訴四六三條
抗告裁判所ノ裁判ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シメ
ル裁判所又ハ裁判長ニ之ヲ通知ス可シ

第四百六十五條 受命判事若クハ受託判事ノ裁判又ハ裁判
所書記ノ處分ノ變更ヲ求ムルニハ先ツ受訴裁判所ノ裁判
ヲ求ム可シ

參考 民訴四六六條四項、(受命判事又ハ受託判事ノ裁
判)(一七二條、二六七條、二六九條、二七八條、二八
二條、三一九條、(書記ノ處分)(二三四條、四九九條、
五二六條、五一七條、五三三條、五六二條

抗告ハ受訴裁判所ノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
參考 民訴四五五條
第一項ノ規定ハ大審院ニモ亦之ヲ適用ス
參考 民訴四四六條

第四百六十六條 即時抗告ノ場合ニ於テハ左ノ特別ノ規定
ニ從フ

參考 民訴三八條、四一條、五二條、五七條、八三條、
八五條、一八九條、一九二條、二四一條、二五三條、
一五七條、三〇一條、三〇五條、三三二條、三三三條、
四〇二條、四七六條、五五八條、六八〇條、七五四條、
七六九條

抗告ハ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲スコシ其期間ハ裁判ノ
送達ヨリ始マリ第二百五十三條、第六百八十條及七百七

百六十九條第三項ノ場合ニ於テハ裁判ノ自渡ヨリ始マル
抗告裁判所ニ抗告ヲ提出シタルトキハ急迫ナラスト認メ
タル場合ニ於テモ亦不變期間ヲ保存ス

參考 民訴一六四條乃至一七二條、一三條六以下、二
四五條、四六一條

再審ヲ求ムル訴ニ付テハ要件存スルトキハ不變期間ノ滿
了後ト雖モ此訴ノ爲メ定メタル期間内ハ抗告ヲ爲スコト
ヲ得

參考 民訴四六八條、四六九條、四七四條

前條第一項ノ場合ニ於テハ抗告提出ノ爲メ定メタル方法
ニ依リ不變期間内ニ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ要
ス受訴裁判所ハ其申請ヲ正當ト認メサルトキハ之ヲ抗告
裁判所ニ送付ス可シ

參考 民訴四五七條、四六六條一項、四五六條一項

第四百六十七條 確定ノ終局判決ヲ以テ終結シタル訴訟ハ
取消ノ訴又ハ原狀回復ノ訴ニ因リ之ヲ再審スルコトヲ
得

參考 民訴一〇七條二項、一三八條二項、三九六條、
四二六條三項、四三三條、四九一條三項

當事者ノ一方又ハ雙方ヨリ此兩訴ヲ起シタルトキハ原狀
回復ノ訴ニ付テハ辯論及ヒ裁判ハ取消ノ訴ニ付テハ裁判
カ確定スルマテ之ヲ中止ス可シ

參考 民訴一八九條

第四百六十八條 左ノ場合ニ於テハ取消ノ訴ニ因リ再審ヲ
求ムルコトヲ得

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

參考 民訴四三六條一號註、四六八條二項

第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除外セラレタル判事

カ裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以

テ除外ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ此

限ニ在ラズ

參考 民訴四三六條二號註

第三 判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請カ理由アリト認

メラレタルトキ但ハラス裁判ニ參與シタルトキ

參考 民訴四三六條三號註、四六八條二項

第四 訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ

從ヒ代理セラレザリシトキ

參考 民訴四三六條五號註、四七四條四項

第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テ上訴若クハ故障ヲ以テ取

消テ主張シ得ヘカリシトキハ取消ノ訴ヲ許サス
第四百六十九條 左ノ場合ニ於テハ原狀回復ノ訴ニ因リ再
審ヲ求ムルコトヲ得

第一 刑法ニ掲ケタル職務上ノ義務ニ違背シタル罪ヲ
訴訟ニ關シ犯シタル判事カ裁判ニ參與シタリシト
キ

參考 刑二七三條乃至二九一條

第二 原告若クハ被告ノ法律上代理人若クハ訴訟代理
人又ハ相手方若クハ其法律上代理人若クハ訴訟代理
人カ罰セラル可キ行爲ヲ訴訟ニ關シテ爲シタリシト
キ

參考 刑一九四條乃至二二六條

第三 判決ノ證據ト爲リタル證書カ偽造又ハ變造ナリ
シトキ

參考 刑二〇二條乃至二二二條

第四 証人若クハ鑑定人カ供述ニ因リ又ハ通譯カ判決
ノ證據ト爲リタル通譯ニ因リ偽證ノ罪ヲ犯シタリシ
トキ

參考 刑二二三條乃至二二五條

第五 判決ノ證據ト爲リタル刑事上ノ判決カ他ノ確定

ト爲リタル刑事上ノ判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラ
レタリシトキ

參考 刑二五〇條乃至二九二條、三〇一條乃至三〇
九條

第六 原告若クハ被告カ同一ノ事件ニ付テノ判決ニシ
テ前ニ確定ト爲リタルモノヲ發見シ其判決カ不服ヲ
申立テラレタル判決ト抵觸スルトキ

第七 相手方若クハ第三者ノ所爲ニ依リ以前ニ提出ス
ルコトヲ得サリシ證書ニシテ原告若クハ被告ノ利益
ト爲ル可キ裁判ヲ爲スニ至ラシム可キモノヲ發見シ
タルトキ

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ罰セラル可キ行爲ニ付
テ判決カ確定ト爲リタルトキ又ハ證據欠缺外ナル理由ヲ
以テ刑事訴訟手續ノ開始若クハ實行ヲ爲シ得サルトキニ
限リ再審ヲ求ムルコトヲ得

第四百七十條 原狀回復ノ訴ハ原告若クハ被告カ自己ノ過
失ニ非スシテ前訴訟手續ニ於テ殊ニ故障又ハ控訴者カハ
附帶控訴ニ依リ原狀回復ノ理由ヲ主張スルコト能ハサリ
シトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

參考 刑四六九條

第四百七十一條 不服ヲ申立テラレタル判決前ニ同一ノ裁
判所又ハ下級ノ裁判所ニ於テ爲シタル裁判ニ關スル不服
ノ理由ハ再審ヲ求ムル訴ト共ニ之ヲ主張スルコトヲ得但
不服ヲ申立テラレタル判決カ其裁判ニ根據スルトキニ限
ル

參考 民訴(不服ヲ申立テラレタル判決前ニ之ニ爲シ
タル裁判)一一三條乃至一二六條、一二八條、二〇三
條、二二〇條、二二七條、二六六條、二七四條二項、
三五一條

第四百七十二條 再審ヲ求ムル訴ハ不服ヲ申立テラレタル
裁判ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス

參考 (全文ニ關係)民訴三一一條二號

同一ノ事件ニ付キ一分ハ下級ノ裁判所又一分ハ上級ノ裁
判所ニ於テ爲シタル數箇ノ判決ニ對スル訴ハ上級ノ裁判
所ノ管轄ニ專屬ス

督促手續ニ依リテ區域裁判所ノ發シタル執行命令ニ對シ再
審ヲ求ムル訴ハ其命令ヲ發シタル區域裁判所ノ管轄ニ專屬
ス然レトモ其請求カ區域裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ請
求ニ付テノ訴訟ヲ管轄スル裁判所ニ專屬ス

參考 民訴三九三條

第四百七十三條 訴ノ提起及ヒ其後ノ訴訟手續ニハ以下各
條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル限りハ其訴ニ付キ辯論及
ヒ裁判ヲ爲ス可キ裁判所ノ訴訟手續ニ關スル規定ヲ適用
ス

參考 民訴一九〇條乃至二七二條、二七三條乃至三三
一條、三九六條乃至四三三條、四三三條乃至四五四條

第四百七十四條 訴ハ一個月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ
參考 民訴一六六條、一六八條二項、一七〇條、一七
四條、一八六條一項、一八八條一項

此期間ハ原告若クハ被告カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヲ以
テ始マル若シ原告若クハ被告ハ判決ノ確定前ニ不服ノ理
由ヲ知リタルトキハ判決ノ確定ヲ以テ始マル

參考 民訴四六八條末項、四七〇條

判決確定ノ日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ訴ヲ爲スコ
トヲ得ス

前二項ノ規定ハ第四百六十八條第四號ノ場合ニ之ヲ適用
セス此場合ニ於テ其訴ノ提起ノ期間ハ原告若クハ被告又
ハ其法律上代理人カ送達ニ因リ判決アリタルコトヲ知リ
タル日ヲ以テ始マル

民事訴訟法 第一編 第二章 訴訟 第一節 訴訟の開始 第一

第一 取消又は原状回復ノ訴ヲ受ケル判決ノ表示

第一 取消又は原状回復ノ訴ヲ受ケル判決ノ表示

第二 取消又は原状回復ノ訴ヲ起ス旨ノ陳述

民事訴訟法 第四六八條、四六九條、二二〇條

此他訴状ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作
リ且不服ノ理由ヲ表示、此理由及ヒ不變更期間ノ遵守ヲ明
白ナラシムル事實ニ付テノ證據方法又如何ナル程度ニ於
テ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ廢棄若クハ破毀ス可キヤ
ノ申立又本案ニ付キ更ニ如何ナル裁判ヲ爲ス可キヤノ申
立ヲモ掲ク可シ

民事訴訟法 一〇五條乃至一〇八條

第四百七十六條 判決許シ可カラサル訴又ハ判決法律上ノ

方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル訴ハ裁判
長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下ス可シ

民事訴訟法 四六七條一項、四

六八條乃至四七〇條、(判決法律上ノ方式ニ適セスル

訴 四七五條一項一號二號、(判決期間ノ經過後ニ起

シタル訴) 四七四條一項三項、民事訴訟法 一一條

此却下ノ命令ニ對シテハ、即時抗告ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法 四六六條

第四百七十七條 原告ハ口頭辯論ノ期日ニ於テ相手方ノ陳

述ノ有無ニ拘ハラズ再審ヲ求ムル理由及ヒ法律上ノ期間
ノ遵守ヲ明白ニスル事實ヲ疏明ス可シ

民事訴訟法 四六八條、四六九條、二二〇條

民事訴訟法 四七六條註

第四百七十九條 本案ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ不服申立ノ

理由ノ存スル部分ニ限り更ニ之ヲ爲ス可シ

裁判所ハ本案ニ付テノ辯論前ニ再審ヲ求ムル理由及ヒ許

否ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本

案ニ付テノ辯論ハ再審ヲ求ムル理由及ヒ許否ニ付テノ辯

論ノ履行ト看做ス

第四百八十條 原告ノ不利益ト爲ル判決ノ變更ハ相手方カ

再審ヲ求ムル訴ヲ起シテ變更ヲ申立テタルトキニ非サル

ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

民事訴訟法 三二一條一項、四二五條

第四百八十一條 訴カ上告裁判所ニ屬スルトキハ上告裁判

所ハ再審ヲ求ムル理由及ヒ其許否ニ付テノ辯論ノ完結カ

係争事實ノ確定及ヒ斟酌ニ繫ルトキト雖モ其完結ヲ爲ス

可シ

第四百八十二條 上訴ハ訴ニ付キ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ

判決ニ對シ一般ニ爲スコトヲ得ヘキトキニ限リ之ヲ爲ス

コトヲ得

第四百八十三條 第三者カ原告及ヒ被告ノ共謀ニ因リ第三

者ノ債權ヲ侵害スル目的ヲ以テ判決ヲ爲サシメタルト主

張シ其判決ニ對シ不服ヲ申立シルトキハ原状回復ノ訴ニ

因レル再審ノ規定ヲ準用ス

民事訴訟法 四六九條以下

此場合ニ於テハ原告及ヒ被告ヲ共同被告ト爲ス

第五編 證據訴訟及ヒ爲替訴訟

第四百八十四條 一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有

價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ハ其請求ヲ

起ス理由タル證據ノ必要ナル事實ヲ證據ニ依リ證明スルコ

トヲ得ヘキトキハ證據訴訟ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ

得

第四百八十五條 訴状ニハ證據訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述

ヲ掲ケ且證據ノ原本又ハ原本ヲ添フルコトヲ要ス

民事訴訟法 一九〇條、三三四條、三三八條、一〇七條

二項

ヲ原告ノ義務タル證據ヲ申出テ又ハ完全ニ之ヲ擧ケザル場合ニ於テハ被告カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ法律上ノ理由ナキ異議若クハ證據訴訟ニ於テ許ササル異議ノミヲ以テ訴ニ對シ抗辯シタルトキト雖モ此訴訟ニ於テハ其訴ヲ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

參考 民訴四八四條乃至四八七條

第四百九十條 證據訴訟ニ於テ適法ノ證據方法ヲ以テ被告ノ義務タル證據ヲ申出テ又ハ完全ニ之ヲ擧ケサルトキハ被告ノ異議ハ證據訴訟ニ於テ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

參考 民訴四八七條二項、四九一條

第四百九十一條 主張シタル請求ヲ争ヒタル被告ニハ敗訴ノ旨渡テ受ケタル場合ニ於テ其權利ノ行使ヲ留保ス可シ

參考 民訴四九〇條

判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ依リ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得

留保ヲ掲ケタル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ之ヲ終局判決ト看做ス

參考 民訴三九六條、四三二條、四三三條五號、四三二

三條、四四八條、四五一條

第四百九十二條 被告ニ權利ノ行使ヲ留保シタルトキハ訴訟ハ通常ノ訴訟手續ニ於テ緊縮ス

此手續ニ於テ證據訴訟ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカシコトノ顯ハルルトキハ前判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ却下シ且其生セシメタル費用ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ原告ニ負擔シ又前判決ニ基キ被告ヨリ支拂ヒ又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ申立ニ因リ原告ニ負擔ス可シ

右手續ニ於テ原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ兩席判決ニ關スル規定ヲ準用ス

參考 民訴二四六條以下

第四百九十三條 第四百二十六條及ヒ第四百二十七條ノ規定ハ證據訴訟ニ之ヲ適用セス

第四百九十四條 商法ニ規定シタル手形ニ因リ請求ヲ證據訴訟ヲ以テ主張スルトキハ爲替訴訟トシテ以下二條ニ掲グル特別ノ規定ヲ適用ス

參考 商四三四條乃至五三七條

第四百九十五條 爲替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ其普通裁判所ヲ有スル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

參考 商四四八條、四五二條、五二六條、五三〇

條七號、五三七條、民訴一〇條乃至一四條

數人ノ爲替義務者カ共同ニ之ヲ訴テ受ケ可キトキハ支拂地ノ裁判所又ハ被告ノ各人カ其普通裁判所ヲ有スル地ノ裁判所各之ヲ管轄ス

參考 民訴一五條

第四百九十六條 訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲グルコトヲ要ス

參考 民訴四八五條

訴ノ許シ可キモノナルトキハ直ニ口頭辯論ノ期日ヲ定

參考 民訴四八四條、四八五條、四九六條一項、一九

〇條

口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ少ナクモ二十四時ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

參考 民訴一九四條

第六編 強制執行

第一章 總則

第四百九十七條 強制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス

參考 民訴四九八條、五〇一條乃至五〇三條、五五九

條四二六條、四九一條

第四百九十八條 判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ満了前ニハ確定セサルモノトス

判決ノ確定ハ故障若クハ上訴ヲ其期間内ニ申立若クハ提起スルニ因リ之ヲ遮断ス

參考 (全文ニ關係) 民訴二五五條、三九八條但書、四〇〇條一項、四三七條一項、四五四條一號、

第四百九十九條 原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記録ニ基キ之ヲ付與ス

訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ緊縮中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲シタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス

判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ以テ足ル

參考 (全文ニ關係) 民訴一〇條、一一條

第五百條 原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立アルトキハ裁判

所ハ申立ニ因リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止ス可キコトヲ命ジ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ爲ス可キコトヲ命ジ及ヒ保證ヲ立テシメテ其爲シタル強制處分ヲ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

參考 民訴一七四條乃至一七七條、四六七條乃至四八二條、一八七條

保證ヲ立テシメスシテ爲ス強制執行ノ停止ハ其執行ニ因リ價フコト能ハサル損害ヲ生ス可キコトヲ證明スルトキニ限り之ヲ許ス

參考 民訴二二〇條

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百一條 左ノ判決ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 四隣ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決

參考 二二九條

第二 確證訴訟又ハ爲管訴訟ニ於テ言渡ス判決

參考 民訴四八四條乃至四九六條

第三 同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ本案

ニ付キ言渡シタル第二又ハ其後ノ開席判決

第四 假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決

參考 民訴七四五條乃至七四七條、七五六條

第五 差料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但し其提起後ノ時間及ヒ其提起前最後ノ三個月間ノ爲ニ支拂フ可キモノナルトキニ限ル

參考 民七九〇條、九五四條

(全文ニ關係)民訴四九七條、五〇四條、五〇五條、五〇七條、五〇八條

第五百一條 左ノ場合ニ於テハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 棟テノ住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取、明渡、使用、占領若クハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具

若クハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關シ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第二 占有ノモノニ係ル訴訟

第三 原主ト雇人トノ間ニ雇期限一ヶ年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

第四 左ニ掲ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若クハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起

リタル訴訟

イ 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ付テ手荷物ノ運送料

ロ 旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル手荷物、金銭又ハ有價物

第五 其他財産權上ノ請求ニ關シ金額又ハ價額ニ於テ貳拾圓ヲ超過セザル訴訟但し其物ノ價額ニ付テハ第三條乃至第六條ノ規定ヲ適用ス

參考 (全文ニ關係)民訴五〇四條乃至五〇八條、四九七條

第五百三條 前二條ニ掲ケタル外左ノ場合ニ於テハ財産權上ノ請求ニ關スル判決ニ限リ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テント申出ツルトキ

參考 民訴八七條、五二九條二項

第二 債權者カ判決ノ確定ト爲ルマテ執行ヲ中止セハ價ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受ク可キニ付テハ明スルトキ

參考 民訴二二〇條

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

參考 (全文ニ關係)民訴五〇四條乃至五〇八條、四九七條

第五百四條 債務者カ判決ノ確定ト爲ル前ニ判決ヲ執行セ

ハ回復スルコトヲ得サル損害ヲ受ク可キコトヲ證明シタルトキハ其中立ニ因リ左ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 第五百一條ノ場合ニ於テハ判決ヲ假ニ執行ス可カラサルコト

第二 第五百二條及ヒ第五百三條ノ場合ニ於テハ債權者ノ假執行ノ申立ヲ却下スルコト

參考 (全文ニ關係)民訴二二〇條、五〇七條

第五百五條 總テノ場合ニ於テ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ債權者ニ保證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ得

參考 民訴五〇一條乃至五〇三條、八七條、五〇六條

第五百七條

債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申出テサルトキ

ハ債務者ノ申立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カサルコトヲ許ス可シ

第五百六條 假執行ニ關スル申立ハ判決ニ據テスル口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲ス可シ

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法

第五百七條 假執行ニ付テハ裁判ハ判決主文ニテ掲リ可

參考 民訴五〇二條乃至五〇五條、一三三條

第五百八條 職權ヲ以テ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ場合ニ

於テ假執行ニ付テハ裁判ヲ爲サザルニキテハ判決ノ假執

行ヲ宣言ス可キ債權者ノ申立テ看過シタルトキハ第二百

四十二條及ヒ第二百四十三條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ

爲スコトヲ得

參考 民訴五〇一條乃至五〇三條、五〇四條、五〇五

條

第五百九條 第一審又ハ第二審ノ判決コシテ假執行ノ宣言

ナカリシモノ又ハ條件附ノ假執行ノ宣言アリタルモノハ

上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ限リ口頭辯論ノ進行

中ニ爲シタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ上級審ニ於テ

其判決ニ假執行ノ宣言ヲ付ス可シ

參考 民訴五〇三條一號、五〇五條一號

第五百十條 本案ノ裁判又ハ假執行ノ宣言ヲ廢棄若クハ破

毀又ハ變更スル判決ノ言渡アルトキハ假執行ハ其廢棄若

クハ破毀又ハ變更ヲ爲ス限及ニ於テ效力ヲ失フ

參考 民訴二六一條、四二〇條乃至四二五條、四四五

條乃至四四七條

假執行ノ宣言アリタル本案ノ判決ヲ廢棄若クハ破毀又ハ

變更スルトキハ判決ニ基キ被告ノ支拂又ハ給付シタル

モノノ辨濟ヲ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ原告ニ返還ス可

シ

第五百十一條 第二審ニ於テハ申立ニ因リ先ツ假執行ニ付

キ辯論及ヒ裁判ヲ爲スコシ口頭辯論ノ延期ニ付テハ第四

百十條ノ規定ハ此場合ニ於テハ之ヲ適用セス

第二審ニ於テ假執行ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ不服

ヲ申立ツルコトヲ得

第五百十二條 假執行ノ宣言ヲ付タル判決ニ對シテ故障ヲ

申立又ハ上訴ヲ起シタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用

ス

參考 民訴二五五條、三九四條、三九六條、四三三條

第五百十三條 本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ保證ヲ

立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲ス

コトヲ許シタル場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其保證

ノ地ノ區域裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ又普通裁判

所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴

管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

參考 民訴一〇條乃至一四條五六三條、裁判一四條一

號、二六條一號

第五百十五條 執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セシメテ之

ヲ爲スコシ

執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ

第一 外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ證明

セザルトキ

第二 本邦ノ法律ニ依リ強テ爲サシムルコトヲ得サル

行爲ヲ執行セシム可キトキ

第四 敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セザリシトキ但

訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ受服裁判所所屬ノ國

ニ於テ又ハ法律上ノ共助ニ依リ本邦ニ於テ本人ニ送

達セザリシトキニ限ル

第五 國際條約ニ於テ相互ニ保セザルトキ

第五百十六條 強制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ

對シテ爲ス

執行文有スル地ノ區域裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ

又ハ供託ヲ爲スコトヲ得

參考 (民訴本編ノ規定ニ從ヒ云々ノ場合)五〇〇條、

五〇三條一號、五〇五條、五二二條、五三三條二項、

五四七條二項、五四九條四項、六五六條二項、七四一

條二項、七四三條、七四五條二項、七四七條一號、七

五九條、普通裁判所一〇條乃至一四條、(執行裁判所)

五四三條、五四五條一號、五四九條三項、五五七條、

五六二條、五九五條、六二六條一號、六三三條、六四

一號、七二八條、七三三條、七三四條、七三九條、七

五〇條二項、七五七條、供一號、二號、五號、六號、

三二年大省令六號供託物取扱規程三條、五條、三三年

司省令三九號四〇號、三四年司省令一四號、一六號一

七號、二二號

保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付テハ求ニ因リ假

明書ヲ付與ス可シ

第五百十四條 外國裁判所ノ判決ニ對シテ強制執行ハ本邦

基キ之ヲ爲ス

參考 民訴五十七條、五五九條、五六〇條、五六一條、七四九條、七五〇條

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級裁判所ニ送附スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與ス

參考 民訴五六二條一項

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴一三五條、民訴印一條、六條六號、一一條

第五百十七條 執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス

參考 民訴五一六條、五一八條、五二四條、五五九條

五六〇條、五六一條

其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押シ可シ

第五百十八條 執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又

ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限り之ヲ付與ス

參考 民訴四九七條、五一六條、五五九條、五六〇條

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ要ル場合

ノ外他ノ條件ニ要ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ限り執行力アル

正本ヲ付與スルコトヲ得

參考 民訴五二〇條、五二一條、五二九條

第五百十九條 執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者

ノ承繼人ノ一ニ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債權者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但其承繼力

裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限ル

此承繼力裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載

ス可シ

參考 (全文ニ關係)民訴五二〇條、五二一條、五二二條、五二二條、五五三條、五五九條、五六〇條

第五百二十條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テハ執行力アル正本ハ裁判所ノ命令アルトキニ限

リ之ヲ付與スルコトヲ得

裁判所ハ其命令前ニ審面又ハ口頭ヲ以テ債權者ヲ審訊ス

ルコトヲ得

右命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス可シ

參考 (全文ニ關係)民訴五五八條乃至五六〇條、五六

二條二項、五六三條

第五百二十四條 執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ原本ニ

原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與

スル日時ヲ記載ス可シ

參考 民訴五一八條乃至五二〇條、五五九條、五六〇

條、五六二條一項

第五百二十五條 執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル

裁判所ノ管轄内ニ止マラス洩テ本邦ノ裁判區域内ニ及フ

モノトス

參考 民訴五五九條

第五百二十六條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強

制執行ヲ爲スモ完全ナル辨別ヲ得ル能ハサルトキハ數處

スルコトヲ得

參考 (全文ニ關係)民訴五五八條乃至五六〇條、五六

二條二項、五六三條

第五百二十七條 執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立

テタルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル

裁判所之ヲ裁判ス

參考 民訴五五九條、五六〇條、五六二條二項、五六三

條

裁判長ハ其裁判所ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立

テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ

又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ履行ス可キヲ命スルコ

トヲ得

第五百二十三條 債權者カ執行力アル正本ノ數處ヲ求メ又

ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一判決ノ正

本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與

スルコトヲ得

參考 民訴五五九條

第五百二十四條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強

制執行ヲ爲スモ完全ナル辨別ヲ得ル能ハサルトキハ數處

スルコトヲ得

參考 (全文ニ關係)民訴五五八條乃至五六〇條、五六

二條二項、五六三條

第五百二十七條 執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立

テタルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル

裁判所之ヲ裁判ス

參考 民訴五五九條、五六〇條、五六二條二項、五六三

條

裁判長ハ其裁判所ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立

テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ

ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス

參考 民訴五三三條

第五百二十七條 債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セザルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可ク

參考 民訴一四三條一項、民二四條

第五百二十八條 強制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受ケル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ際ルトキ又ハ判決ノ執行力判決ニ表示シタル債權者ノ承認人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ承認人ニ對シ爲ス可キトキハ執行ス可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

參考 民訴五二八條二項、五一九條、五五二條、五五三條

若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與セザルトキハ亦其證書ノ

原本ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

參考 民訴五一八條二項、五一九條

(全文ニ關係)民訴五五九條、五六〇條、一三六條以下

第五百二十九條 請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ際ルトキハ其日時ノ滿了後ニ限り強制執行ヲ始ムルコトヲ得

若シ執行力債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ際ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其原本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り其執行ヲ始ムルコトヲ得

參考 民訴五一八條二項、一三六條以下、三三二條大省令六號供託物取扱規程四條

第五百三十條 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ニ對シテ爲ス強制執行ハ其上級司令官邸ニ通知ヲ爲シタル後ニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

參考 民訴一一條註、五二八條、五二九條、五五六條

此官邸ハ債權者ノ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ付與ス可シ

第五百三十一條 強制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限り執達吏之ヲ實施ス

參考 民訴九四條乃至一〇〇條、民訴五三六條二項、五四四條、五五五條乃至五七五條、五八二條、五八五條、五八八條、五九四條乃至六〇二條、六〇四條、六〇五條、六〇七條乃至六四三條二項、六四四條乃至六五八條、六六〇條乃至六六二條、六七〇條乃至七〇二條、七〇六條乃至七二九條、七三三條乃至七三五條、七四八條乃至七五四條、七五六條、七五八條、七五九條以上別段ノ規定ニ依リ裁判所ニテ執行スヘキモノノ債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

第五百三十二條 執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其責ニ任ス

第五百三十三條 債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケザルトキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作り之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ

交付スルコトヲ得

參考 民訴五四四條

第五百三十四條 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得

參考 民訴五三一條、五三三條

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證明スル爲ニ之ヲ示ス可シ

第五百三十五條 執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交付ス可シ

債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラレルコト無シ

第五百三十六條 執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ倉庫ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ管轄ヲ開カシタル權利ヲ有ス

參考 憲二五條

抵抗ヲ受ケル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用井且警察上

ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ

參考 民訴五三七條、五五五條

第五百三十七條 執達吏ハ執行行為ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受ケルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行為ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

民訴五三六條二項

第五百三十八條 強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其來ニ因リ執達吏ノ記録ノ閲覧ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ原本ヲ付與スルコトヲ要ス

參考 執手規一三條一號、一四條一號末項

第五百三十九條 夜間及ヒ日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限り執行行為ヲ爲ス可トナ

得

參考 民訴一五〇條、五四四條

右許可ノ命令ハ強制執行ノ際ニテ示ス可シ

第五百四十條 執達吏ハ各執行行為ニ付キ調査ヲ作ル可シ此調査ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 調査ヲ作リタル場所、年月日

第二 執行行為ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ略記

第三 執行ニ與カリタル各人ノ表示

第四 右各人ノ署名捺印

第五 調査ヲ其各人ニ説明セ又ハ閲覧セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトノ開示

第六 執達吏ノ署名捺印

第四條及ヒ第五條ノ條件ヲ具備スルコト確ハサルトキハ其理由ヲ記載ス可シ

第五百四十一條 執行行為ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調査ニ之ヲ記載ス可シ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第三百三十九條、第四百十條及ヒ第四百十五條乃至第四百十九條ノ規定ヲ準用シテ其調査ノ原本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調査ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シ

若シ強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調査ノ原本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調査ニ記載ス可シ

總考 (全文ニ關シ) 民訴五四二條

第五百四十二條 執行行為ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

第五百四十三條 此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行為ノ處分又ハ其行為ノ共力ハ執行裁判所トシテ區域裁判所ノ管轄ニ屬ス

參考 民訴(執行行為ノ處分) 五九四條以下、六二六條以下、六四〇條以下、七二七條以下、七三二條、七三三條以下(執行行為ノ共力) 五三六條、二條、五五五條、五五六條

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區域裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス

參考 民訴(法律ニ於テ別段ニ裁判所ヨリ指定シタル場合) 五四五條一項、五四九條三項、五五七條、五六二條、五九五條、六一六條一項、六二二條、六四一條、七二八條、七三三條、七三四條、七三九條、七五〇條二項、七五七條

執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ民事訴訟法

總考 民訴五五八條

第五百四十四條 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所ニ之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命令ヲ發スル權ヲ有ス

執達吏カ執行委任ヲ受ケルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行為ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手数料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

參考 民訴五五四條、執手規。民訴六一六條

第五百四十五條 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ

參考 民訴五六三條、五四七條
右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ遅クトモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結後ニ其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限リ之ヲ許ス

參考 民訴三〇九條、二七七條、二六三條、五五九條二號五號、五六二條二項、五六二條三項

債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

第五百四十六條 前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文付與ノ際證明シタリト認メラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノナラズ又ハ認メラレタル承継者トシテキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此カ爲ニ妨ケラレルコト無シ

參考 民訴五十四條

第五百四十七條 強制執行ノ執行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケラレルコト無シ

參考 民訴五十五條、五十六條

然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見ユ且事實上ノ點ニ付キ説明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスレテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命ジ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キコトヲ命ジ又ハ其爲レタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消シ得キコトヲ命スルコトヲ得

參考 民訴四八條乃至五〇條

右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區域裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ執行裁判所ノ所在地ノ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

參考 民訴五三條

強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百五十條 強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命ジタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本

參考 民訴(執行スヘキ判決ヲ取消ス旨ヲ記載シタル裁判)四六七條以下、五一〇條一項、五四五條、五四六條、五四七條二項、五四八條一項、五四九條四項、(假執行ヲ取消ス旨ヲ記載シタル裁判)五一〇條一項、(強制執行ヲ許サストシテ宣言シタル旨ヲ記載シタル裁判)五三條一項、五四六條、五四九條、強制執行

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得

急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ経過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ續行ス

第五百四十八條 受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命令ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命令ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得

判決中前項ニ掲ケル事項ニ限リ債權者ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

右裁判ニ對スル不服ニ付テハ第五百一十一條ノ規定ヲ準用ス

第五百四十九條 第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨ケル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセザルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張ス可シ

右訴ハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス

ノ停止ヲ命ジタル旨ヲ記載シタル裁判(五四五條、五四七條二項、五四八條一項、五四九條四項)

第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命ジタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本

參考 民訴五〇條、五二條、五三條二項、五四四條一項、五四七條二項、五四九條四項

第三 執行ヲ免カレル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ證明書

參考 民訴五〇五條二項、五二條二項、三三二年大省令六號供託物取扱規程四條

第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者ガ擔保ヲ受ケ又ハ義務履行ノ擔保ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書

參考 (全文ニ關係)民訴五四四條、五四五條、舊附九八七條

第五百五十一條 前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲモ取消ス可ク第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可ク第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行為ノ取消ヲ命セザルトキニ限リ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ

參考 民訴五〇〇條、五二條、五四七條二項

第五百五十一條 強制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルトキハ強制執行ハ遺産ニ對シテ之ヲ續行ス可シ

參考 民訴五六六條、五九八條三項、六〇三條、六二五條二項、六四四條、七〇六條二項、七二七條一項、七三〇條、七三二條

債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行為ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラサルトキハ相續人ノ所在明カナラサルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺産又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ

參考 民訴五六六條三項、五九一條一項、五九八條二項、六二二條二項、六二九條、七三二條三項

第五百五十三條 強制執行ノ開始後ニ月主タリシ債務者カ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルトキハ此變更ノ生ゼシ當時債務者ノ所持シタル財産ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス

參考 民七五二條以下、九六四條
第五百五十四條 強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限リ債權者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ

參考 執手規、民訴五一六條、民訴印一〇條、民訴五四四條、五七八條

強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ其費用ハ之ヲ債權者ニ辨濟ス可シ

參考 民訴五一〇條
第五百五十五條 執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

參考 民訴五三六條二項、五五六條、五五七條
第五百五十六條 豫備、後備ノ軍種ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ兵隊及ヒ軍事用廳舎又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス

參考 民訴一一條注、五三〇條
囑託ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

第五百五十七條 外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ囑託ス可シ

參考 執手規一三三條乃至一三三條
外國駐在ノ本邦領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑託ス可シ

總考 民訴一五三條

第五百五十八條 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スルヲ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴四六六條、五四三條、五四七條、七三三條乃至七三五條、七五四條三項、七六一條三項

第五百五十九條 強制執行ハ左ノ條件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判
參考 民訴四五五條注

第二 執行命令
參考 民訴三九三條、五六一條

第三 訴ノ提起後受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事者クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲シタル和解
參考 民訴三二一條

第四 第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解

第五 公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作りタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數額ノ給付ヲ以テ目的トスル請求

ニ付キ作リタル證書ニシテ直チニ強制執行ヲ受ケ可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

參考 一九九法二號公證人規則一條乃至三條、四條、七條、二八條乃至五四條

(全文ニ關係)民訴七八條、七五六條、舊商一〇四九條、一四九六七號布告附則五八條、五九條利新二條、三三〇條二項、三三三條、執規三條、三三法四八號行政裁判法二一條、三三法六七號陸海軍法會議私訴裁判強制執行法一條、五條

第五百六十條 前條ニ掲ケタル債務名義ニ因レル強制執行ニハ第五百十六條乃至第五百十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條、第五百六十二條ノ規定ニ依リ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十一條 執行命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債權者ニ於テ承認アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

參考 民訴三九三條、三九四條、五五九條二號

請求ニ關スル異議ハ執行命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限リ之ヲ許ス
參考 民訴五四五條一項

執行交付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行交付與ノ際到來シタリト認メタル承継テ争フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區域執行所之ヲ管轄ス但其請求力區域執行所ノ管轄ニ屬セザルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起ス可シ

參考 民訴五一八條二項、五二九條、五二二條、五四五條、五四六條、裁判一四條、二二六條

第五百六十二條 公證人ノ作リタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス

參考 五一六條二項、五一七條

執行交付與ニ關スル異議ニ付テノ裁判及ヒ更ニ執行交付與ニ付テノ裁判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地方裁判所區域執行所ニ於テ之ヲ爲ス

參考 民訴五二二條、五二三條

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス

參考 民訴五四五條一項

執行交付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行交付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ際シ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ争フ訴ハ

債務者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

參考 民訴一〇條乃至一四條、五一八條三項、五二九條、五二二條、五四五條、裁判一四條、二二六條

(全文ニ關係)民訴五五九條五款

第五百六十三條 水田ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス

參考 民訴五一四條二項、五三三條一項、五四三條三項、五四四條一項、五四五條一項、五四九條三項、五六一條三項、五六二條二項四項、五九五條、六三五條、六四一條一項、七一八條、七二九條、七五〇條二項、七五七條

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節 動産ニ對スル強制執行

第一款 總則

第五百六十四條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

參考 民訴五六六條以下、五九四條以下

差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノノ外

ニ及ホスコトヲ指ス

參考 民訴四九七條、五一六條、五五九條、五六〇條

差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

參考 民訴五七二條以下、五五四條一項、五八〇條、五八一條、五八五條

第五百六十五條 第三者カ差押ヲ受ケ可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨グルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ實得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此カ爲ニ妨ケラレルコト無シ

參考 民訴二九五條乃至二九五條、三〇三條、三四二條、三三九條

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上一點ニ付キ説明アリタルトキハ裁判所ハ實得金ノ供託ヲ命ズ可シ但此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

參考 民訴三二〇條

第一款 有體動産ニ對スル強制執行

第五百六十六條 債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債權者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其效力ヲ生ス

參考 刑一七四條乃至一七六條、三九六條

執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

參考 民訴五三七條、五四一條

第五百六十七條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒メサル第三者ノ占有中ニ在ル物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

參考 民訴五四一條、五四四條、五四九條、五六五條

第五百六十八條 果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一个月内ニ非ザレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

參考 民八八條一項

第五百六十九條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及フモノトス

參考 一九九條三四號

第五百七十條 左ニ掲グル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

參考 一九九條三四號 廢世財產法一二條、一四條

民事訴訟法

百十八

- 第一 衣服、冠具、家具及ヒ厨具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可カラサルトキニ限ル
- 第二 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一ヶ月間ノ食料及ヒ薪炭
- 第三 技術者、職工、勞役者及ヒ看護ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル物
- 第四 農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農産物
- 第五 文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物並ニ身分相當ノ衣服
- 第六 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應ジテ之ヲ計算ス
- 第七 藥舖ニ在テハ調劑ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品
- 第八 勳章及ヒ名譽ノ證據

- 參考 一四年布告六三號喪葬條例。一〇年勅一六號喪葬條例。八年布告五四號勳章ヲ定ムル件（九年布告一四一號ニテ改正）。一二年勅一號勳章等級製式及大勳位菊花頭飾製式。一三年勅一號勳章等級製式及式備用式。一八年布告三五號外國勳章備用規則
 - 第九 實印其他職票ニ必要ナル印
 - 第十 神體、佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物
 - 第十一 系譜
 - 第十二 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本
 - 第十三 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍
- 然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除ケ外之ヲ差押フルコトヲ得
- 第五百七十一條 差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコシ若シ此カ爲ニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

第五百七十二條 執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競買方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可シ

第五百七十三條 競買ノ可キ物ノ中ニ高價ノモノ有ルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシム可シ

參考 執手規一三條、一七條。民訴五八〇條

第五百七十四條 差押金銀ハ之ヲ債權者ニ引渡スコシ

參考 民訴五九三條二項

第五百七十五條 差押ノ日ト競買ノ日トノ間ニハ少ナクモ七日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス但差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ債務者カ競買ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ不相應ノ費用若クハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危密ヲ避ケン爲メ競買ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ此限ニ在ラス

民訴五七九條

民事訴訟法

百十九

第五百七十六條 競買ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

參考 民訴五八五條

競買ノ日時及ヒ場所ハ之ヲ公告ス但其公告ニハ競買スコキ物ヲ表示ス可シ

第五百七十七條 最高價競買ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス

最高價競買人競買條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競買期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ヲ競買スコシ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任スコシ其高キトキハ剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百七十八條 競買ハ買得金ヲ以テ債權者ニ辨償ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ之ヲ止ム可シ

參考 民訴五六四條二項

第五百七十九條 執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カラルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

參考 民訴五七四條二項

第五百八十條 金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サス其實價マテニ購買ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

參考 民訴五七三條

第五百八十一條 執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ賣却ス可シ

參考 民訴五七二條以下

第五百八十二條 有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換テ爲サシメ及ヒ此力爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

參考 執手規一二條三號、一三條一號六號

第五百八十三條 無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ

其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此力爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

參考 執手規一二條三號、一三條一號六號

第五百八十四條 土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル買主ノ競賣ハ其成熟ノ後於メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムル權利アリ

參考 (全文ニ關係) 民訴五六八條

第五百八十五條 差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲ス可キ旨又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命スルコトヲ得

參考 民訴五七四條一項、五七五條、五七七條、五八〇條、五八一條、五八四條、五八七條、五八九條、五九〇條、五九二條

第五百八十六條 執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

參考 執手規三條

執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調査ノ團體ヲ求メテ物ノ調査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調査ヲ交付シ且該物ノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押フ可キ物アラサルトキハ調査調査ヲ作リ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

參考 民訴五八七條、執手規五條

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ法律上移轉ス

假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

參考 民訴三三七條以下、五八九條、六三〇條三項

第五百八十七條 前條ニ掲ゲタル物ノ照管手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押力取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

參考 民訴五五〇條、五五一條

第五百八十八條 通常ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲スコキコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ相當ノ命令アララントキ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

參考 民訴六三〇條三項

民事訴訟法

參考 民訴五四四條一項、五七五條

第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

參考 民訴五九〇條、五九一條

第五百九十條 前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲スコシ

參考 民訴一四三條、五二七條、民二四條、民訴一〇條、一一條

第五百九十一條 第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認許スルヤ否ヤヲ執達吏ニ申立ツ可シ

債務者力認許セサルコトヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シテ起シ其債權ヲ確定ス可シ

參考 民訴六三〇條三項

第五百九十二條 配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十三條 賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議ヲハサルトキハ其賣得金ヲ供託ス可シ

參考 民訴六二六條

數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同

參考 民訴五七四條

右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其事情ヲ執行裁判所ニ届出ツ可ク其届書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ

第三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第五百九十四條 第三者(第三債務者)ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノノ強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

參考 民訴五四三條三項、五五八條、五九五條以下

一六二六勅二六一號政府差押命令ヲ受ケル場合會計上ノ規程一條乃至七條

第五百九十五條 執行裁判所トシテハ債權者ノ普通裁判所ヲ有スル地ノ區裁判所若シ此區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債權者ニ對スル訴ヲ管轄スル區裁判所管轄權ヲ有ス

參考 民訴一〇條乃至一四條、五三三條、七三九條、七五〇條、七六二條

第五百九十六條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ

參考 民訴五九條二項、六〇〇條一項、六〇九條一項

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴一三五條、民訴印一條、一〇條、一一條

第五百九十七條 差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審判ヲ經スシテ之ヲ爲ス

第五百九十八條 金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スコカラサルコトヲ命ス可シ

差押命令ハ債權者ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ

參考 民訴一三六條以下、二四五條三項、五五八條

ト看做ス

參考 民訴六〇二條一項、六二條

第五百九十九條 抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ

參考 民訴三六九條、民訴五九八條

此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲スコシ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ併合スルコトヲ得

參考 民訴五九六條二項

裁判所ハ債務者ヲ預メタル不動産ノ所有者第三債務者ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲スコシ

參考 民訴六五一條、不登二五條以下

第六百條 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ地位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラントトテ申請スルコトヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

參考 民訴五九六條、六〇一條、六〇三條、六一〇條乃至六二二條、六一七條、六二〇條

第六百一條 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スコシ債權者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

參考 民訴六〇〇條一項、六〇九條、五三五條

第六百二條 取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノトシ但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審判シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ得其制限シタル部分ニ限リ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス

參考 民訴六〇〇條一項

右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ

參考 民訴二四五條三項

第六百三條 手形其他渡書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

參考 商三六四條、四五五條、五二九條、五三七條

民訴五九四條乃至五九八條、六〇〇條乃至六〇二條、六〇七條乃至六一五條、六一七條、六一九條乃至六二二條

第六百四條 傳給又は此項ノ總額收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限リシ差押後ニ收入ノ可キ金額ニ及ブモノトス

參考 民訴六一八條

第六百五條 職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ増俸ニ因ル收入ニモ亦及ブモノトス

第六百六條 債權者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルニ得

參考 民訴七三〇條

第六百七條 第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カシムルコトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金銀債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル效力ノミヲ有ス

參考 一六六號勅令ニ關シテ政府差押命令ヲ受タル場合會計上ノ規程一條乃至七條

第六百八條 債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可シ

參考 民訴六二〇條

第六百九條 差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシムルコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

參考 民訴五九六條一項、一六五條、一三三條以下
第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリ請求ノ有無及ヒ其種類

第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類
右ノ陳述ヲ求ムル被告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

第六百十條 債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シテ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ差押ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内閣ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

參考 民訴六〇〇條一項、一條乃至三一條、五九條
第六百十一條 債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス

第六百十二條 債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル不動產ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

權利ヲ放棄スルコトヲ得但此カ爲メ其請求ヲ害セラルルコト無シ
此規定ハ裁判所ニ届出シテ送達シテ之ヲ爲ス但其請求ハ第一債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

參考 民訴一三六條以下

第六百十三條 差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ要スル若クハ他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得

參考 民訴五九四條、五九五條

債務者内閣ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ計ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

參考 民訴二四五條、五五八條

第六百十四條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ハ以下數條ノ規定ヲ附屬シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

參考 民訴六一五條乃至六一七條

第六百十五條 有體物ノ請求ノ差押ニ付テハ其動產ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

參考 民訴五九四條乃至五九七條

民事訴訟法

參考 民訴五七二條以下

第六百十六條 不動產ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動產ヲ不動產所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

參考 民訴五九四條乃至五九七條、六二二條

引渡シタル不動產ニ付テハ強制執行ハ不動產ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

參考 民訴六四條以下

第六百十七條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得ス

參考 民訴六〇〇條一項、六一四條乃至六一六條

第六百十八條 左ニ掲クル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

參考 民訴五七〇條

第一 法律上ノ義務
參考 民訴七九〇條、九五四條、民訴五〇一條五號

第二 債權者カ發給地所ヨリ又ハ第三者ノ意思ニ因リ受クル報酬ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

民事訴訟法

參考 民訴七三三條
 第三 下士、兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料
 參考 一三三法四五號。軍人恩給法(三三三法七八號
 ニテ改正)。一四三法四四號戰役死軍人軍屬ノ遺父母
 及祖父母扶助法
 第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乘組員ニ
 關スル軍人、軍屬ノ職務上ノ收入
 參考 民訴一一條、一五四條、五三〇條註
 第五 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場
 教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料
 參考 一五五法四一號巡警看守補助例。一三三法四
 三號官吏恩給法(三三三法一〇號ニテ改正)。一三三法
 四四號官吏遺族扶助法(三三三法一一號改ニテ正)。二
 九三法三六號官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則。(三三
 三法一一號ニテ改正。一三三法四五號軍人恩給法(三三
 三法七八號ニテ改正)。一三三法省達一六號宮内省官吏
 準官吏恩給例及遺族扶助例。一九九法省達甲一號宮内
 省官吏準官吏恩給例全遺族扶助例ニ官吏恩給法及官吏
 遺族扶助法補則中通用方。一三三法九〇號市町村立小
 學校教員退職料及遺族扶助料法。一三三法九一號府縣

立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料
 法。一九九法一三號公立學校職員退職料ニ關スル件。三
 三三法七號養老ニ於テ地方現支給ノ俸給ヲ受ケル文官
 列任以上ノ學校職員ノ退職料及遺族扶助料ニ關スル件
 第六 職工、勞務者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲ニ
 受ケル報酬
 第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩
 給其他ノ收入カ一个年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超
 過額ノ半額ヲ差押アルコトヲ得
 第六百十九條 數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債
 權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス
 參考 民訴五九三條
 第六百二十條 執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ
 從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立
 ナ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出シルマテ又ハ執達吏カ賣
 得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力ア
 ル正本ニ因ラシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五
 百九十條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用
 ス
 參考 民訴五八九條、六〇三條、六〇八條、六一五條
 六一六條

支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲
 スコトヲ得ス
 參考 民訴六〇一條

右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差
 押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押力取消ト爲リタル
 トキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要
 求ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス
 參考 民訴一三三條以下、五八七條

第六百二十一條 金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケ
 タル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利アリ
 參考 六二〇條三項

第三 債務者ハ配當ニ與カルル債權者ノ求ニ因リ債
 務額ヲ供託スル義務アリ
 第三 債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判
 所ニ届出ツ可シ
 參考 民訴五九三條三項、六二六條、六二七條

第六百二十二條 請求カ不動産ニ關スルトキハ第三債務者
 ハ其不動産所在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務
 者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セ
 フレタル命令ヲ添ヘ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差

民事訴訟法

押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ
 參考 民訴六一六條、六二〇條三項

第六百二十三條 第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履
 行セザルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムル
 コトヲ得
 參考 民訴六〇〇條、六一〇條、六一五條、六一六條
 六二二條

執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原
 告ニ加ハル權利アリ
 參考 民訴四八條、五〇條
 訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共
 同訴訟人トシテ呼出アラントテ口頭辯論ノ第一期日マ
 テニ申立ツルコトヲ得
 右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ
 及ボス效力アリ
 第六百二十四條 差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執
 行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間内
 ニ取立ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラザルトキ
 ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ら取立ヲ爲スコトヲ得
 參考 民訴六二三條

第六百二十五條 不動産ノ目的トセ又前數條ニ掲ケタル

以外ノ財産権ニ對スル強制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ遂行シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

參考 民訴五九八條

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分ヲニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

第四款 配當手續

第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ

拍賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

參考 民訴五八六條乃至五九一條、五九三條、六〇二條、六一九條乃至六二二條、六三〇條三項

第六百二十七條 裁判所ハ事情屆卷ニ基キ七日ノ期間内ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ報告ス可シ

參考 民訴一七〇條二項、五九三條三項、六二二條三項、六二八條二項

第六百二十八條 前條ノ期間満了後裁判所ハ配當表ヲ作ル

可シ

參考 民訴六二九條二項

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ届書ノ旨趣及ヒ其總額並ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サズ

參考 民訴五九三條三項、六二二條三項

第六百二十九條 裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閲覧セシムル爲メ週クトモ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置ク可シ

第六百三十條 期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ

參考 民訴六二九條、六三三條

停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

參考 民訴一二七條一項

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未

多確定セサル債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

參考 民訴五八六條四項、五九三條、七三七條(以上假差押ノ場合) 五四五條乃至五四九條、六三二條(以上異議ノ場合)

配當實施ニ付テハ調査ヲ作ル可シ

參考 民訴二二九條、一三〇條、一三三條、六三二條

第六百三十一條 異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直ニ陳述ヲ爲スコシ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シ配當ヲ實施ス可シ

異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限り配當ヲ實施ス可シ

參考 民訴六三〇條、六三三條

第六百三十二條 期日ニ出席セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス

參考 民訴六三〇條一項

若シ期日ニ出席セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ナク有メルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

參考 民訴六三〇條一項

民事訴訟法

第六百三十三條 期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ経過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラズ配當ノ實施ヲ命ス可シ

參考 民訴一六五條、一〇七條、六二八條、六三四條

第六百三十四條 異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケララルコト無シ

參考 民訴一六五條、一〇七條、六二八條、六三四條

第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄スルモノトモ訴訟時カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄スルモノトモ訴訟時カ其他ノ訴ナモ亦之一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ナモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ケ可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

參考 民訴五二三條、五六三條、五九三條、六三三條、六二七條、六三三條、裁判一四條

第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄スルモノトモ訴訟時カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄スルモノトモ訴訟時カ其他ノ訴ナモ亦之一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ナモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ケ可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

參考 民訴五二三條、五六三條、五九三條、六三三條、六二七條、六三三條、裁判一四條

第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄スルモノトモ訴訟時カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄スルモノトモ訴訟時カ其他ノ訴ナモ亦之一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ナモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ケ可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

參考 民訴五二三條、五六三條、五九三條、六三三條、六二七條、六三三條、裁判一四條

第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄スルモノトモ訴訟時カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄スルモノトモ訴訟時カ其他ノ訴ナモ亦之一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ナモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ケ可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

參考 民訴五二三條、五六三條、五九三條、六三三條、六二七條、六三三條、裁判一四條

第六百三十六條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ
係争部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ
可キヤチ定ム可シ若シ之ヲ定ムコトトテ適當トセザルト
キハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ
命ス可シ

參考 民訴六三八條

第六百三十七條 異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期
日ニ出頭セザルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨
ノ兩席判決ヲ爲ス可シ

參考 民訴二四六條乃至二四八條

第六百三十八條 前二條ノ判決確定ノ證明アルトキハ配當
裁判所ハ其判決ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

參考 民訴四九七條、四九九條、六二六條

第六百三十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ
配當ヲ實施ス可シ
債權全部ノ配當ヲ受リ可キ債權者ニハ配當額支拂券ヲ交
付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證
券ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ
債權一分ノミノ配當ヲ受リ可キ債權者ニハ執行力アル正
本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返

還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金
額ヲ證罷シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス
可シ
期日ニ出頭セザル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可
シ
右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス
可シ

參考 民訴一三〇條、一三一條
第二節 不動産ニ對スル強制執行
第一款 通則

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ
之ヲ爲ス

參考 民八六條一項

第一 強制競賣

參考 民訴六四二條乃至七〇五條

第二 強制管理

參考 民訴七〇六條乃至七二六條

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ
方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得
強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

參考 民訴七三七條、七五一條、七五二條

第六百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動
產所在地ノ區域別所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其
不動産數箇ノ區域別所ノ管轄區内ニ散在スルトキハ第二
十六條ノ規定ヲ適用ス

參考 民訴五三三

強制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

參考 民訴六四二條、七〇六條

第二款 強制競賣

第六百四十二條 強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スル
コトヲ要ス

第一 債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示

第二 不動産ノ表示

第三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ

一定ノ債務名義

參考 民訴四九七條、五五九條、五六〇條

第六百四十三條 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ

添附ス可シ

參考 民訴五一六條、五一七條、五五九條、五六〇條

第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産

民事訴訟法

ニ付テハ登記簿ノ認證書

第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ
所有タルコトヲ證ス可キ證書

第三 地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反
別若クハ坪數、土地差額ニ登錄シタル地價及ヒ其地
所ニ付キ納ム可キ一年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可
キ證書

第四 建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種
類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一年ノ公課ヲ
證ス可キ證書

第五 地所、建物ニ付キ貸貸信アル場合ニ於テハ其期
限及ヒ借賃ヲ證ス可キ證書

第六 第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公稱テ
主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得

參考 二二九號三九號土地差額規則

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハザルトキハ債權
者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ
得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サ
シム可シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ其

執行記録第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有
ルトキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セス

第六百四十四條 競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ
爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ

參考 民訴五五八條

差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケ
ヌ

參考 民訴六八六條、六九四條二號

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此
送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

參考 民訴二四五條、一三三條以下

第六百四十五條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル
不動産ニ付キ強制執行ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲ス
コトヲ得ヌ

參考 民訴五八六條一項

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生
シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六
百四十九條第一項ノ規定ヲ若キサル限リハ開始決定ヲ受
ケタル效力ヲ生ス

參考 民訴五八七條

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用
セス

參考 民訴五八六條四項、六三〇條三項、六九七條、
七三七條以下

第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所
在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ
テ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

參考 民訴二四條、民訴印一〇條、一一條

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴六五八條七號、六七一條、六七六條、六八
八條

第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリ
タルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ

參考 民訴六四八條

執行力アル正本ニ因ラズシテ配當ヲ要求スル債權者アル
トキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債
權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキ
ハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ
對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

參考 民訴六三〇條三項、六九七條

第六百四十八條 左ニ掲ケル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關
係人ト爲ス

參考 民訴六四七條、六六二條、六六四條、六六七條
六七一條、六七二條、六七三條、六七四條、六八〇條
六九三條、六九五條、六九六條、七〇二條

第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要
求スル債權者

參考 民訴六四二條、六四三條、六四五條、六四六條

第二 債權者

參考 民訴六四四條

第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録
ニ備フ可キ届出ヲ爲シタル者

參考 民訴六五四條

第六百四十九條 差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル
不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ
以テ其負擔ヲ辨償スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ競
却ヲ爲スコトヲ得ヌ

參考 民訴三五條、三六九條以下

民事訴訟法

不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ
因リテ消滅ス

留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留
置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨償スル責任ヲ負フ

質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權
ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル
者ノ債權ヲ辨償スル責任ヲ負フ

參考 民二九五以下、民三五六以下

(全文ニ關係)民訴六五二條、六五四條乃至六五六條、
六六二條、六九四條三項、六九九條

第六百五十條 權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ
競賣ノ申立アリタルコトヲ知りタルトキハ差押ノ效力ニ
對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ヌ

若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ差押ヲ負擔スル
トキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限リ新所有者取得
ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラザルトキト
雖モ競賣手續ヲ履行ス可シ

競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス

第六百五十一條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際競
權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ
旨ヲ登記簿列事ニ囑託ス可シ

第六百四十四條、六八九條
登記簿前項ノ屬託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

參考 民訴六五二條

第六百五十二條 登記簿前項ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不動產上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲモ送付ス可シ

參考 民訴六四九條、六五〇條、六五三條、六五五條

第六百五十三條 債ノ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ケ可キ事實カ登記簿ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障礙ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ満了後債權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

參考 民訴六五二條

第六百五十四條 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動產ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ報告ス可シ

參考 民訴六四四條

第六百五十五條 裁判所ハ登記簿事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ

主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動產ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

參考 民訴六五二條乃至六五四條、六五八條六號、六六二條、六七二條三號、六八九條

第六百五十六條 裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動產上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ弁済シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ

參考 民訴五五四條、六四九條、六五五條

右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ弁済シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應ズル競買人ナキ場合ニ於テハ自ら其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ

參考 民訴一六五條、一六六條、八七條、六五七條

第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ負擔及ヒ費用ヲ弁済シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ債權者ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

參考 民訴六五八條乃至六六一條

第六百五十八條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 不動產ノ表示

第二 租稅其他ノ公課

第三 貸貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃

第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨

參考 民訴七〇二條

第五 競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ競落

賣ノ氏名並ニ住所

參考 民訴六五九條、六六三條

第六 最低競賣價額

參考 民訴六五五條

第七 競落期日ノ場所及ヒ日時

參考 民訴六六〇條

第八 執行記録ヲ附送シ得ヘキ場所

參考 民訴六六三條

第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動產上權利ヲ有スル

者其債權ヲ申出ツ可キ旨

參考 民訴六四八條四號

第十 利害關係人競賣期日ニ出席ス可キ旨

民事訴訟法

參考 民訴六四八條

第六百五十九條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

參考 民訴五七五條、六五七條、六五八條

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

參考 民訴六六二條乃至六六八條

第六百六十條 競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス

參考 民訴六五七條乃至六五九條

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

參考 民訴六七一條以下

第六百六十一條 競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス

第一 裁判所ノ揭示板

第二 不動產所在地ノ市町村ノ揭示板

此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得

參考 (全文ニ關係) 民訴六七二條五號、六七四條、六八一條

第六百六十二條 最低競買價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル競買却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限リ之ヲ許ス但此合意ハ競買期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴六四九條、六五五條、六五六條、六六四條、六六五條、六七〇條一項、六七八條、六八七條、六九三條、七〇五條(以上本款ニ掲ケタル競買却條件)六四八條、六六三條

第六百六十三條 競買期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閲覧ニ供シ又特別ノ競買却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告ス可シ

參考 民訴六五九條、六六二條、六六五條乃至六六七條、六七〇條

第六百六十四條 利害關係人ガ或レ競買人ヨリ保證ヲ立テシメシムコトヲ申立ツルトキハ其競買人ガ保證トシテ競買價額十分ノ一二割ノ金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サズ

右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ送フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦效力アリ

參考 (全文ニ關係)民訴六四八條、六六七條、六六八條

第六七二條八號、六七四條、六八一條、六八八條、六九四條

第六百六十五條 競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ヲ許アルマテ其申出ヲタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

參考 民訴五四五條乃至五五一條、六五〇條三項、六七二條二號、六七四條、六七六條、六七八條、六八一條、六八八條

競買ハ競買價額ヲ申出シ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ結局スルコトヲ得ス

參考 民訴六六三條、六六七條五號、六七二條七號、六七四條、六八一條

第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競買ノ結局ヲ告知ス可シ

參考 民訴六六七條六號八號、六七二條、六七四條、六八一條

他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ義務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムル權利アリ

參考 民訴六六四條、六六五條、六六七條末項、六六八條

八條

第六百六十七條 競買ニ付キ作ル可キ調査ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 不動產ノ表示

第二 差押債權者ノ表示

第三 執行記録ヲ各人ノ閲覧ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト

參考 民訴六六三條

第四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時

參考 民訴六六三條、六六五條二項、六七二條七號

第五 總テノ競買價額並ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許シ可キ競買ノ申出ヲキコト

參考 民訴六六五條

第六 競買ノ結局ヲ告知シタル日時

參考 民訴六六五條二項、六六七條六號、六七二條七號

第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト

參考 民訴六六四條

民事訴訟法

第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト

參考 民訴六六六條一項

最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人、調査ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調査ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

參考 民訴五四〇條、六四八條

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金額又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ調査ニ添附ス可シ

參考 民訴六六四條一項、六六六條二項、六六八條

第六百六十八條 執達吏ハ調査及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金額又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日內ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ

參考 民訴六六四條一項、六六六條二項、六六七條三項、六六九條、六九四條四項

第六百六十九條 最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出シ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第四百十三條第三項ノ規定ヲ適用ス

參考 民二四條、民訴六六六條一項

住所ノ遷定ハ執達吏ニ口述シ其調査ヲ作ラシメテ之ヲ為
スコトヲ得

參考 民訴六六八條

第六百七十條 競賣期日ニ於テ許シ可キ競買價額ノ申出ナ
キトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ密セサル限リハ
裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競買價額ヲ相當ニ低減シ新競
賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許シ可キ競買價
額ノ申出ナキトキモ亦同シ

參考 民訴六五五條、六六四條、六七二條二號

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

參考 民訴六六六條

第六百七十一條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係
人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ

參考 民訴六四八條、六五七條、六五八條七號、六六六
〇條一項、六九二條

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマデニ之ヲ申
立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同
シ

參考 民訴六七二條以下

第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ順序ニ基
ク

コトヲ要ス

第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ履行
ス可カラサルコト

參考 民訴五二八條乃至五三〇條、五五〇條、六四一
條乃至六四三條、六五〇條

第二 最高價競買人買買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産
ヲ取得スル能力ナキコト

參考 民訴六六六條一項、民四條、七條、一一條、一
四條

第三 法律上ノ賣却條件ニ抵觸シテ競買ヲ爲シタルコ
ト又ハ他ノ利害關係人ノ同意ヲ得ズシテ法律上ノ
賣却條件ヲ變更シタルコト

參考 民訴六六二條註

第四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要
件ノ記載ナキコト

第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リ
テ之ヲ爲ササルコト

參考 民訴六五八條乃至六六一條

第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セザリシ
コト

強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付
テハ競落ヲ許サス

參考 民訴六七七條、六八〇條

此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中競却ス可キモノヲ指定
スルコトヲ得

第六百七十六條 第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規
定ニ從ヒ全ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス
可キトキハ競落ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ

參考 民訴六七〇條、五五八條、六七二條二號乃至八
號

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

參考 民訴六七〇條

第六百七十七條 前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル
場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許ササル決定ノ言渡ヲ爲ス可
シ

參考 民訴六七九條乃至七八一號、六八四條、六九〇
條

競賣期日ノ調査ニ付テハ第三百二十九條乃至第三百三十二條
及ヒ第三百三十四條ノ規定ヲ準用ス

參考 民訴六八一條二項

第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一
項ノ規定ニ違背シタルコト

第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナ
リト呼上ケタルコト

參考 (全文ニ關係)民訴六七四條二項

第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理
由ニ基テハ之ヲ許サス

參考 民訴六七一條、六七二條

第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立テ正當トスルトキハ
競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一ア
ルトキハ競落ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於
テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルト
キ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限り第二號ノ場
合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキ
ニ限り第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ履行ニ付
キ承認セザルトキニ限ル

參考 (全文ニ關係)民訴六七六條、六七七條

第六百七十五條 競買ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於
テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ

第六百七十八條 競賣期日ノ競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

參考 民訴六六五條、六六六條、六八五條

第六百七十九條 競落ヲ許ス決定ニハ競買ヲ爲シタル不動産、競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ裏却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ掲ケ可シ

參考 民訴六七七條一項、六六二條、六六三條

右決定ハ之ヲ官渡ス外尙ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

參考 民訴六六一條

第六百八十條 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テハ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴六〇八條、四六六條、六八一條

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲

スコトヲ得

參考 民訴四六六條、六八一條

右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

參考 民訴四六〇條

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

參考 民訴六六五條

第六百八十一條 競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケル總テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴六七二條、六八〇條一項二項

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定ガ競落期日ノ嗣後ノ旨趣ニ抵觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴六七二條、六七七條二項

取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケラレルコト無シ

第六百八十二條 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ

第六百八十七條 競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サルハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

參考 民訴六八六條、六八八條

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマデ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメントコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ズ可シ

參考 民訴五四五條、五五八條

債權者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

參考 民訴五四五條、五五八條

第六百八十八條 競落人ガ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ債權者ヲ以テ不動産ノ再競買ヲ命ズ可シ

參考 民訴六九三條、六九四條

最初ノ競買ノ爲ニ定メタル最低競買價額其他賣却條件ハ再競買ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

參考 民訴六五五條、六六二條註

再競買期日ハ少ナクとも十四日後タル可シ

競落人ガ再競買期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ

參考 民訴四六二條二項

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ

參考 民訴六八〇條

第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告費ニモ亦之ヲ適用ス

第六百八十二條 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

參考 民訴六六一條、六七九條二項

第六百八十四條 競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ義務ヲ免カ

參考 民訴六六五條、六六六條、六七六條、六七七條

第六百八十五條 第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許サルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ適用ス

第六百八十六條 競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトス

參考 民訴六七七條、六八二條、六八三條、六八七條

民事訴訟法

費用ヲ支拂ヒタルトキハ再購買手續ヲ取消ス可シ
再購買ヲ爲ストキハ前ノ競得人ハ競買ニ加ハルコトヲ許
サス且再度ノ競落代價力最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ
不足ノ額及ビ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額
ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百八十九條 共有物持分ノ強制競買ニ付テハ債権者ノ
債権ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強制競買ノ申立アリタル
コトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其強制競買ノ申
立ヲ通知ス可シ

參考 民二四九條以下。民訴六五一條
最低競買價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分
ニ付キ之ヲ定ム可シ

參考 民訴六五五條

第六百九十條 競買申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シ
タルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シ
タル差押配入ノ抹消ヲ登記簿ニ關シテ可シ

參考 民訴六五〇條三項、六五六條、六七二條一號、
六七四條、六七六條、六七七條、六八五條

第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金
ハ配當ニ與カル各債権者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合

ニ於テハ民法、商法及ビ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可
シ

參考 民二九五條以下、三〇三條以下、三四二條以下
三三九條以下。商四一條。三〇年法二二號國稅徵收法
二條乃至四條。二二年法三三號地方稅及備荒儲蓄金庫
納付分ノ件。民訴六九六條

第六百九十二條 各債権者ハ競落期日マテニ其債権ノ元金
、利息、費用其他附帶ノ債権ノ計算書ヲ提出ス可シ

參考 民訴六二七條、六五八條、六六〇條、六七一條
前項ノ規定ニ從ハサル債権者ニ付テハ第六百二十八條第
二項ノ規定ヲ準用ス

參考 民訴六九六條

第六百九十三條 代金ノ支拂及ビ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ
確定後ニ裁判所カ取極ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲
ス

參考 民訴六九四條

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラヌシテ配
當ヲ要求スル債権者及ビ競得人ヲ呼出ス可シ

參考 民訴六四八條、六四七條二項

第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣

却代金ノ讓許ナルヲ定ム可シ
左ノモノヲ賣却代金トス

第一 代金

參考 民訴六七九條一項

第二 不動産カ果實其他金銭ニ見積ルコトヲ得ヘキ利
益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定官渡ヨリ代金支拂
マテノ利息

參考 民訴六八六條、六八七條

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

參考 民訴六七九條一項、六八八條

最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算
入ス

參考 民訴六六四條

第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ビ執行
力アル正本ニ因ラヌシテ配當ヲ要求スル債権者ヲ詢問シ
テ配當表ヲ確定ス可シ

參考 民訴六四七條二項、六四八條、六九三條二項、
六九六條、六九七條、六三〇條、六三三條、六九八條

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金、各債権者ノ債権ノ
元金、利息、費用及ビ配當ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載
ス可シ

參考 民訴六九四條二項、六九二條、六九一條

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ビ執行力アル正本ニ
因ラヌシテ配當ヲ要求スル債権者一致シタルトキハ其一
致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

參考 民訴六四七條二項、六四八條、六九一條

第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ビ配當表ノ
實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數
條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

參考 民訴六三〇條乃至六三九條、六九八條乃至七〇
〇條

第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債務者ハ各債権者ノ債
權ニ對シ又ハ其債権ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申
立ツル權利アリ

出頭シタル各債権者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債権者
ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

執行スルヲ得ヘキ債権ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四
十五條、第五百四十七條及ビ第五百四十八條ノ規定ニ從
ヒテ之ヲ完結ス

第六百九十九條 競得人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ
引受タル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ソルヲ

限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債
務ヲ引受ケルコトヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債
權ノ配當額ヲ買入代金ノ額ニ滿テ限リ買入代金トシ
テ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ケ可キ債務
又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルト
キハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

參考 六四九條、六六二條、六九八條、八七條

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調査及ヒ競
落決定ノ正本ヲ登記部等ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可
シ

參考 民訴六九七條、六三〇條乃至六三九條

第一 競落人ノ所有權ノ登記

第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔登記ノ抹消

第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹
消

右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔ス
可シ

第七百一條 數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動
產ノ競賣手續ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

參考 民訴六四二條、六四三條以下

第七百二條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立
ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂付命スルコト
ヲ得但入札拂付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモ
ノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

參考 民訴六五七條、六四二條乃至七〇一條

第七百三條 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ送付ス可
シ

參考 民訴六五八條、六五九條、六六三條

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 入札人ノ氏名及ヒ住所

第二 不動産ノ表示

第三 入札價額

參考 民訴七〇四條三項

第七百四條 執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之
ヲ明讀ス可シ

參考 民訴六六六條

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追
加ノ入札ヲ爲サシメ最高價額入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ
對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

參考 民訴七〇三條三項三號

第七百五條 最高價額入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六
十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求テ受ケルモ之ヲ立
テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價額入札人ト定ム
但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト
次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

第三款 強制管理

第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四
十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一
條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス

不動産力債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタル
場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス
可キ證書ハ不動産力債權者カ占有スルコトヲ證明スル證
書ヲ以テ足ル

參考 民八六條一項、二九五條以下、三三五條以下、
三五六條以下、三六九條以下、民訴二二〇條

第七百七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ
管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處
分スルコトヲ禁ジ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三
者アルトキハ其後三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キ

コトヲ命ス可シ

參考 民訴七〇五條一項、六四二條、六四三條、六四
四條一項

既ニ收據シ若クハ收據ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到
來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス

參考 民八八條

開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力
ヲ生ズ此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

參考 民訴一三六條以下、六四四條三項

第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動
產ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコト
ヲ得ス

右申立ハ執行部ニ添附スルニ依リ相當要求ノ效力ヲ生
シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開
始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ズ

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用
セス

參考 (全文ニ關係)民訴六四五條註、七一〇條

第七百九條 相當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ
所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定

シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

參考 民訴五一八條、五八九條、五九〇條、六一〇條、六四六條、七一〇條

第七百十條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタル

コトヲ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ

第七百十一條 管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

參考 民訴七二二條

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

參考 民訴五三六條

管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス

第七百十二條 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審計シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務履行ヲ監督ス可シ
裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ官徴シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

參考 民訴五五八條、七一一條一項

第七百十三條 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第七百十四條 管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ扣除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツヘシ

參考 民訴七〇六條、七〇八條、七〇九條

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作り其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

參考 民訴一三六條以下

第七百十五條 管理人ハ毎年及ヒ其業務履行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ提出ス可シ
期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
參考 民訴一六五條、一六六條

右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ金ヲ異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審計シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシム可シ

參考 民訴五四三條三項、五五八條

第七百十六條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債權者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ債權者ヲ以テ之ヲ爲ス

若シ管理履行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金額ヲ預納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

參考 民訴五五四條

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記簿等ニ強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ命ズ可シ

參考 民訴六五一條、七〇六條

第七百十七條 船舶ニ對スル強制執行
第三節 船舶ニ對スル強制執行
商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産

ノ強制執行ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

參考 商五三八條一項、五四三條、民訴六四〇條乃至七〇五條、七一八條乃至七二九條

噸舟其他標權ノミチ以テ運轉シ又ハ主トシテ標權ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

參考 商五三八條二項、民訴五六五條以下

第七百十八條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

參考 民訴六四二條、七二六條、五六三條

第七百十九條 船舶ハ執行手續申送押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

參考 民訴六四八條、七二七條、七三三條

第七百二十條 強制執行ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添付ス可シ

參考 民訴六四三條

第一 債權者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシ

船舶占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ證明スルニ足ル可キ證

書

參考 民訴三〇條

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

參考 四四〇條。民訴七二九條。三三二七〇條

船舶登記規則

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遼隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アランコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第七百二十一條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守

及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ遼遠前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス

參考 民訴六四四條

若シ此處分ヲ履行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セザルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

參考 民訴五五四條一項

第七百二十二條 船長ニ對シテ爲シタル判決ニ基キ船舶債權

者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ 此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人ト

ス 參考 民訴六四八條。七二〇條一項一號

差押後所有若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ履行ヲ妨ケ

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル

第七百二十三條 船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ在セザルトキハ其手続ヲ取消ス可シ

參考 民訴七一八條。七二六條

第七百二十四條 競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ

第七百二十五條 定緊港ノ區域外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定緊港ノ區域裁判所ニ送付シ其裁判所ノ揭示板ニ揭示ス可キコトヲ囑

託ス可シ 參考 民訴六六一條。七一八條。船四條一項

第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十一

十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定緊港ノ區域外所ノ之ヲ管轄ス

八條

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶

ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添附ス可シ

參考 民訴五九六條。六二五條。七二六條

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ

參考 商五五二條乃至五五四條。民訴一三三六條以下

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

第七百二十八條 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六

百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿

ニ登記セザル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セズ

參考 民訴六五一條。七〇〇條。船一條

第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセザル債權ニ付テノ強制

民事訴訟法

執行

第七百三十條 債務者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數

量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ

第七百三十一條 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解

キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

強制執行ノ目的物ニ非ザル動産ハ執達吏ノ之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債權者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可

シ 債權者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ

債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

參考 民訴五七二條以下。三三二六條供託物取扱法規程

第七百三十二條 引渡不可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

第七百三十三條 民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

第七百三十四條 債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第二審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其運送ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス

第七百三十五條 前二項ノ決定ハ日額積算ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

第七百三十六條 債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

第七百三十七條 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生ストナリ得

第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假ニ差押ノ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區域裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ條件ヲ掲ケ可シ

第一 請求ノ表示者シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示

第三 請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百四十二條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

第七百四十三條 債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第七百四十四條 債務者ハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ

第七百四十五條 假差押ノ理由タル事實ノ表示

第七百四十六條 假差押ノ申請ニハ左ノ條件ヲ掲ケ可シ

第一 請求ノ表示者シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示

第三 請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ

第七百四十七條 假差押ノ申請ニ付テハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百四十八條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

第七百四十九條 債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第七百五十條 債務者ハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ

第七百五十一條 假差押ノ理由タル事實ノ表示

開示可シ

異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

第七百四十五條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ

裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

參考 民訴五〇一條四號

第七百四十六條 本案ノ未ダ繫屬セザルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ

參考 民訴四五五條

此期間ヲ経過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

參考 民訴一七三條二項、五〇一條四號

第七百四十七條 債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ルコトヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ノ執行裁判所トス

參考 民訴五九五條、七三九條、七四二條一項

債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂テ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲スコトヲ得

參考 民訴五九四條以下、七四八條

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ質賣及ヒ假差押有價証券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ賣買ノ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得

參考 民訴五七二條以下

第七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

參考 民訴六四一條

第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當ナル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

參考 民訴六四〇條三項、七〇六條以下

第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當

押ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所ニ之ヲ爲ス

參考 民訴五〇一條四號、七六二條

第七百四十八條 假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

參考 民訴七四九條乃至七五四條

第七百四十九條 假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

參考 民訴五一六條乃至五二〇條

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ経過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

參考 民訴一三六條以下一六五條、一六六條

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴一三六條以下一六五條、一六六條

第七百五十條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

參考 民訴一三六條以下一六五條、一六六條

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ當

時差泊スル港ニ差泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ受守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

參考 民訴六四一條二項、七一八條、七二一條一項

第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定ムタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ

參考 民訴七四三條

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ニ債務者カ匯納セザルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

參考 民訴七六三條

假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴四六六條

第七百五十五條 係争物ニ關スル假差押ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

參考 民訴七六〇條

第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ

參考 民訴七三三條二項、七三九條乃至七四七條、七四八條、七九七條乃至五六三條、七三〇條乃至七三六條、七四九條、七五七條乃至七六三條、人訴一六條、二六條、三九條

第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス
右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴七四一條、七四二條、七四四條、七六三條
（全文ニ關係）人訴一六條、二六條、三九條
第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ限キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命ジ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
參考 民訴七三〇條乃至七三六條
假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁ジ

タルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ
參考 （全文ニ關係）人訴一六條、二六條、三九條
第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

參考 民訴七四七條一項未段、人訴一六條、二六條、三九條
第七百六十條 假處分ハ等アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ機微スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

參考 民訴七五五條、人訴一六條、二六條、三九條
第七百六十一條 急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テハ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得

參考 民訴七五七條、七六一條三項、七六二條
此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ

參考 民訴七六一條三項

右裁判ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得
參考 民訴四五五條

（全文ニ關係）人訴一六條、二六條、三九條
第七百六十二條 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ移屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

參考 民訴七三九條、七四七條二項、七五七條一項、七六一條一項、人訴一六條、二六條、三九條

第七百六十三條 急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ經セザルモノニ限り裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴七四二條一項、七五四條三項、七五七條二項、人訴一六條、二六條、三九條

第七百六十四條 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴七七七條、民一〇五八條、一〇五九條、人

第七〇條

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス
第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴一三五條、民訴印一條、一〇二條
此申立ニ付テハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴四五五條
申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲スコク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ提リ可シ

第一 申立人ノ表示
第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告
參考 民訴七六八條

第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ズ可キ失權ノ表示
第四 公示催告期日ノ指定

參考 民訴七六七條
（全文ニ關係）人訴七〇條
第七百六十六條 公示催告ニ付テハ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ掲示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シ之ヲ爲シ其他法律ニ

別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ第五百五十七條第三項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第七百六十七條 公示催告ノ旨報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクトモ二ヶ月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト爲ス

第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス

第七百七十條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ争フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出ヲ行ハズ

第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六ヶ月ノ期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ許ス

第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上新チ爲スコトヲ得

第七百七十五條 除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル創設又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十六條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ争フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出ヲ行ハズ

第七百七十七條 裁判所ハ第五百二十條ノ條件ノ存セサルトキト雖モ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

第七百七十八條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

第七百七十九條 此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限リハ之ヲ適用ス

第七百八十條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證券ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ

第七百八十一條 無記名證券ノ一ヶ月ノ不登期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知りタル日ヲ以テ

ル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ

第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六ヶ月ノ期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ許ス

第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上新チ爲スコトヲ得

第七百七十五條 除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル創設又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十六條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ争フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出ヲ行ハズ

第七百七十七條 裁判所ハ第五百二十條ノ條件ノ存セサルトキト雖モ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

第七百七十八條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

第七百七十九條 此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限リハ之ヲ適用ス

第七百八十條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證券ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ

第七百八十一條 無記名證券ノ一ヶ月ノ不登期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知りタル日ヲ以テ

第七百八十二條 無記名證券ノ一ヶ月ノ不登期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知りタル日ヲ以テ

第七百八十三條 無記名證券ノ一ヶ月ノ不登期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知りタル日ヲ以テ

第七百八十四條 無記名證券ノ一ヶ月ノ不登期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知りタル日ヲ以テ

第七百八十五條 無記名證券ノ一ヶ月ノ不登期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知りタル日ヲ以テ

參考 民四六九條、四七一條、商二八一條、一五五條
 一項、三三三條、三五五條、三五九條、三六四條、四
 三四條、四五五條、五二九條、五三七條、六二二條、
 六二九條

此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此
 申立ヲ爲ス權アリ

第七百七十九條 公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地
 ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セザルト
 キハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ
 其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時母國裁判籍ヲ有
 セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

參考 民訴一〇條乃至一四條、七六四條二項
 證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキ
 ハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七百八十條 申立人ハ申立ノ證據トシテ左ノ手續ヲ爲ス
 可シ

第一 證券ノ原本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及
 ヒ證書十分ニ認知スルニ必要ナル附件ヲ開示スル
 こと
 第二 證券ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立

ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ説明スルコト
 參考 民訴二二〇條
 (全文ニ關係)民訴七六五條一項

第七百八十一條 公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ
 裁判所ニ届出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人
 ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲ス可キ旨
 ヲ開示ス可シ

參考 民訴七六五條三項二號三號
 第七百八十二條 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示
 シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之
 ヲ爲ス

參考 民訴七六六條、七七四條二項二號
 公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ
 亦此公告ヲ揭示ス可シ

參考 民訴七七四條二項二號
 第七百八十三條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日
 ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六個月ノ時間ヲ存
 スルコトヲ要ス

參考 民訴七六七條、七七四條二項三號
 第七百八十四條 除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言

ス可シ

參考 民訴七六九條、七七〇條

除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告
 ス可シ

參考 民訴七三三條

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルト
 キハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可
 シ

第七百八十五條 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書
 ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因ル權利ヲ主
 張スルコトヲ得

第八編 仲裁手續

第七百八十六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ爭ノ判斷ヲ
 爲サシムル合意ハ當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利
 アル場合ニ限リ其效力ヲ有ス

參考 民四條、七條、一一條、一二條、一四條、六九
 五條、民訴七七七條

第七百八十七條 將來ノ爭ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利
 關係及ヒ其關係ヨリ生スル爭ニ關セザルトキハ其效力ヲ
 有セズ

參考 民訴七八六條

第七百八十八條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキ
 トキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

參考 民訴七八九條

第七百八十九條 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ
 有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ
 其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手
 續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ

參考 民訴七八八條、七九〇條

右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス
 一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

參考 民訴八〇五條

第七百九十條 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知
 ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ翻案セザル

參考 民訴七八九條一項

第七百九十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁
 人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引
 受若クハ履行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當
 事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ
 選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催

皆予爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

參考 民訴七八八條、七八九條二項、七九二條、八〇五條

第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ選定スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ選定スルコトヲ得

參考 民訴三二條乃至三四條、八〇五條、七九七條

其他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其義務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキハ亦之ヲ選定スルコトヲ得

參考 民訴七八八條、七八九條二項

無能力者、騷者、啞者及ヒ公債ノ利率又ハ停止中ノ者ハ之ヲ選定スルコトヲ得

參考 民訴四條、七條、一一條、一四條、利三二條乃至三四條

第七百九十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ確定ヲ爲サザリシトキハ其效力ヲ失フ

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人申ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其義務ノ履行ヲ不當ニ遲延シタルトキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

參考 民訴七九八條

(全文ニ關係)民訴八〇五條、七九七條

第七百九十四條 仲裁人ハ仲裁判斷ニ當事者ヲ審問シ且必要トスル限リハ爭ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ

參考 民訴八〇一條一項四號二項

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

參考 民訴七九五條、七九九條、八〇一條一項五號二項

第七百九十五條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ開問スルコトヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ

參考 民訴二八九條、三三二條、三三六條、七九六條

第七百九十六條 仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲スコシ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

參考 民訴七九五條二項、八〇五條

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命ジタル裁判所ハ證據ヲ送アルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判所亦爲ノ權アリ

參考 民訴二九四條以下、三三八條以下

第七百九十七條 仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許ス可カラザルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セザルコト、仲裁契約カ強制ス可キ事ニ關係セザルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ履行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ履行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

參考 民訴七八六條、七八七條、七九二條、七九四條乃至七九六條、八〇一條一項、八〇二條二項、八〇三條、八〇五條

第七百九十八條 數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲スコトキハ過半數ヲ以テ其判斷ヲ爲スコシ但仲裁契約ニ別段ノ定

アルトキハ此限ニ在ラス

參考 民訴七九三條二項

第七百九十九條 仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印ス可シ

參考 民訴八〇一條一項五號

民事訴訟法

仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送還シ其原本ハ送還ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ク限リ可シ

參考 民訴八〇五條、一三三六條以下

第八百條 仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス

參考 民訴五一四條、八〇一條、八〇二條

第八百一條 仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

參考 民訴八〇二條乃至八〇三條

第一 仲裁手續ヲ許ス可カラザリシトキ

參考 民訴七八六條、七八七條、七九四條乃至七九六條

第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲スコキ言ヲ發

言者ニ言渡シタルトキ

參考 民訴九〇條、民訴五一五條二號

第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理

セラレザリシトキ

參考 民訴四六八條四號、民六四四條以下

第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審問セザリシトキ

第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セザリシトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ
原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ
本條第四號及七第五號ニ據ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコ
トナ得ス

第八百三條 仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以
テ其許ス可キコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコト
ナ得

參考 民訴五一四條、八〇〇條、八〇五條
右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理
由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトナ得ス

參考 民訴八〇一條

第八百三條 執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第
八百一一條第六號ニ據ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツ
ルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於
テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコトヲ証明シタルト
キニ限ル

參考 民訴二〇〇條、八一〇條、八〇二條、八〇四條
第八百四條 仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一個

月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ

參考 民訴八〇三條

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知りタル日ヲ以テ始マル
然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執
行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ満了後
ハ此訴ヲ起スコトナ許サス

參考 民訴四七四條二項三項

仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡ス可
シ

第八百五條

仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契
約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許ス可カラサルコト、仲
裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トス
ル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區域内所又ハ地方裁
判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル
場合ニ於テ管轄ヲ有スコキ區域内所又ハ地方裁判所之ヲ
管轄ス

參考 民訴七八九條、七九一條乃至七九三條、七八六
條、七八七條、七九四條乃至七九六條、八〇一條、八
〇二條、二九條乃至三一一條

前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又

ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

民事訴訟法施行條例

(明治二十三年七月
法律第五十號)

朕民事訴訟法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律
ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟法施行條例

第一條 民事訴訟法實施前ニ提起シタル訴訟ニ付テノ留後
ノ訴訟手續ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス

第二條 民事訴訟法實施前ニ四席ノ儘言渡シタル裁判ニ對
シテハ民事訴訟法ニ依リ故除ヲ申立ツルコトヲ得
故障ノ期間ハ新法ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間
カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

民事訴訟法

第三條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ニ對スル控訴
上告期限ハ新法ノ控訴上告期間ニ依リ其實施ノ日ヨリ起
算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其
期限ニ從フ

第四條 民事訴訟法實施前ニ確定シタル裁判ニ對シテハ民
事訴訟法ニ依リ再審ヲ求ムル訴ヲ爲スコトヲ得但民事訴
訟法實施前ニ再審ノ條件生シタルトキハ其條件ノ生シタ
ル日ヨリ再審ノ期間ヲ起算ス

第五條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ強制執行ハ
民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス但シ既ニ身代限ノ揭示ヲ
爲シ又ハ公賣ニ着手シタル事件ハ其手續ノ終了マテハ舊
法ニ從フ

第六條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ執行命令ヲ
得サル場合ニ於テ民事訴訟法第四百九十九條ノ規定ニ從
ヒ證明書ヲ要スル者ハ其訴訟記録ノ存在スル裁判所ニ之
ヲ求ムルコトヲ得

第七條 民事訴訟法實施前既ニ動解ヲ出願シ未タ完結ニ至
ラサル事件ハ民事訴訟法第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區
裁判所繼續シテ之ヲ完結スルコトヲ得

第八條 民事訴訟法ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務

ハ市町村ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ屬ス

第九條 民事訴訟法ニ於テ親族ト稱スル者ハ當分ノ内刑法ノ親屬例ニ依ル

第十條 婚姻離婚及養子ノ縁組離縁ニ關スル訴ニ付テハ特別ノ價例アルモノハ當分ノ内其價例ニ從フ

第十一條 明治八年第六號布告ハ當分ノ内其效力ヲ有スルモノトス

第十二條 明治十年第十九號布告控訴上告手續第十六條中大審院トアルテ上告裁判所ト改メ該條ハ當分ノ内其效力ヲ有スルモノトス

府 縣 制

郡 制

市 町 村 制

市制町村制郡制府縣制目次

市制

| | |
|------------------------|----|
| 第一章 總則 | 二 |
| 第一款 市及其區域 | 二 |
| 第二款 市住民及其權利義務 | 二 |
| 第三款 市條例 | 四 |
| 第二章 市會 | 五 |
| 第一款 組織及選舉 | 五 |
| 第二款 職務權限及處務規程 | 九 |
| 第三章 市行政 | 二二 |
| 第一款 市參事會及市吏員ノ組織選任 | 二二 |
| 第二款 市參事會及市吏員ノ職務權限及處務規程 | 二五 |
| 第三款 給料及給與 | 一九 |
| 第四章 市有財產ノ管理 | 一九 |
| 第一款 市有財產及市稅 | 一九 |
| 第二款 市ノ歲入出豫算及決算 | 二四 |
| 第五章 特別ノ財產ヲ有スル市區ノ行政 | 二五 |
| 第六章 市行政ノ監督 | 二五 |
| 第七章 附則 | 二九 |
| 町村制 | 三〇 |

市制町村制郡制府縣制目次

◎市制町村制郡制府縣制目次

| | |
|-----------------|----|
| 第一章 總則 | 三〇 |
| 第一款 町村及其區域 | 三〇 |
| 第二款 町村住民及其權利義務 | 三一 |
| 第三款 町村條例 | 三一 |
| 第二章 町村會 | 三三 |
| 第一款 組織及選舉 | 三三 |
| 第二款 職務權限及處務規程 | 三八 |
| 第三章 町村行政 | 四一 |
| 第一款 町村吏員ノ組織選任 | 四一 |
| 第二款 町村吏員ノ職務權限 | 四三 |
| 第三款 給料及給與 | 四六 |
| 第四章 町村有財產ノ管理 | 四六 |
| 第一款 町村有財產及町村稅 | 四六 |
| 第二款 町村ノ歲入出豫算及決算 | 五一 |
| 第五章 町村內各部ノ行政 | 五一 |
| 第六章 町村組合 | 五三 |
| 第七章 町村行政ノ監督 | 五三 |
| 第八章 附則 | 五七 |
| ●郡制 | 六二 |
| 第一章 總則 | 六二 |

第二章 郡會

| | |
|----------------------|----|
| 第一款 組織及選舉 | 六三 |
| 第二款 職務權限及處務規程 | 六九 |
| 第三章 郡參事會 | 七二 |
| 第一款 組織及選舉 | 七二 |
| 第二款 職務權限及處務規程 | 七二 |
| 第四章 郡行政 | 七四 |
| 第一款 郡吏員ノ組織及任免 | 七四 |
| 第二款 郡官吏郡吏員ノ職務權限及處務規程 | 七四 |
| 第三款 給料及給與 | 七六 |
| 第五章 郡ノ財務 | 七七 |
| 第一款 財產營造物及郡費 | 七七 |
| 第二款 歲入出豫算及決算 | 七九 |
| 第六章 郡組合 | 八〇 |
| 第七章 郡行政ノ監督 | 八〇 |
| 第八章 附則 | 八三 |
| ●府縣制 | 八四 |
| 第一章 總則 | 八四 |
| 第二章 府縣會 | 八四 |
| 第一款 組織及選舉 | 八五 |

◎市制町村制郡制府縣制目次

◎市制町村制府縣制目次

| | |
|------------------------|-----|
| 第二款 職務權限及處務規程 | 九二 |
| 第三章 府縣參事會 | 九五 |
| 第一款 組織及選舉 | 九五 |
| 第二款 職務權限及處務規程 | 九六 |
| 第四章 府縣行政 | 九七 |
| 第一款 府縣吏員ノ組織及任免 | 九七 |
| 第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程 | 九八 |
| 第三款 給料及給與 | 一〇〇 |
| 第五章 府縣ノ財務 | 一〇〇 |
| 第一款 財產營運物及府縣稅 | 一〇〇 |
| 第二款 歲入出豫算及決算 | 一〇五 |
| 第六章 府縣行政ノ監督 | 一〇六 |
| 第七章 附則 | 一〇八 |

●市制町村制

(明治二十一年四月)
法律第一號

〔沿革〕二八年三月法律第六號、二八年三月法律第七號、
三一年六月法律第二〇號、三三年三月法律第四六號、三
三年三月法律第四七號、三三年三月法律第四八號改正
該地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶臣民ノ幸福ヲ増進スル
コトヲ欲シ關係團體ノ發達ヲ存重シテ益之ヲ擴張シ更ニ法
律ヲ以テ都市及町村ノ權責ヲ保護スルノ必要ヲ認メ茲ニ市
制及町村制ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

第一章 總則
第一款 市及其區域

| | |
|------------------------|--|
| 第二款 市住民及其權利義務 | |
| 第三款 市條例 | |
| 第二章 市會 | |
| 第一款 組織及選舉 | |
| 第二款 職務權限及處務規程 | |
| 第三章 市行政 | |
| 第一款 市參事會及市吏員ノ組織選任 | |
| 第二款 市參事會及市吏員ノ職務權限及處務規程 | |
| 第三款 給料及給與 | |
| 第四章 市有財產ノ管理 | |
| 第一款 市有財產及市稅 | |
| 第二款 市ノ歲入出豫算及決算 | |
| 第五章 特別ノ財產ヲ有スル市區ノ行政 | |
| 第六章 市行政ノ監督 | |

第 市制附則

市制

第一章 總則

第一款 市及其區域

第一條 此法律ハ市街地ニシテ都ノ區域ニ屬セス別ニ市ト爲スノ地ニ施行スルモノトス

第二條 市ハ法律上一箇人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡市ノ公共事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ白ラ之ヲ處理スルモノトス

第三條 本市一五條乃至一三五條、二二五年内訓令三四八號、市町村行政事務監督ノ件

第四條 凡市ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ此法律ニ準據シ可シ

第五條 東京市、京都市、大阪市ニ於テハ從來ノ區ヲ存シ其區ハ財產及營造物ニ關スル事務其他法律命令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理スルモノトス

第六條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス

東京市、京都市、大阪市ノ區ヲ廢止分合シ又ハ其境界ヲ變更スルコトアルトキ亦同シ

第二款 府縣制三條一項、郡制三條一項。

第三條 三平法七七號市町村名稱等ノ件、三〇年内令三號新

字改稱變更ノ件、二六年内訓令二三號同上ノ件、二三

年内訓令三〇號内縣報告例通稱三條、二七年内訓令一

號分合改稱報告ノ件、二四年通訓令八號同上ノ件、三

三年勅九八號人口二十萬以上ノ市區三附スル件二條、

三條

第三款 市住民及其權利義務

第六條 凡市内ニ住居ヲ占ムルモノハ均ク其市住民トス凡市住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公共ノ營造物並市有財產ヲ共有スルノ權利ヲ有シ及市ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第七條 凡市ノ住民トナリ(一)其市ノ負擔ヲ分任シ及(二)其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接間接年額賦課以上ノ納ムル者ハ其市公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經テ其市公民トシ得ルニ在ラス但特ニ依リ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第八條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス

第九條 凡市ノ住民トナリ(一)其市ノ負擔ヲ分任シ及(二)其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接間接年額賦課以上ノ納ムル者ハ其市公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經テ其市公民トシ得ルニ在ラス但特ニ依リ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第十條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス

第十一條 凡市ノ住民トナリ(一)其市ノ負擔ヲ分任シ及(二)其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接間接年額賦課以上ノ納ムル者ハ其市公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經テ其市公民トシ得ルニ在ラス但特ニ依リ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第十二條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス

第十三條 凡市ノ住民トナリ(一)其市ノ負擔ヲ分任シ及(二)其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接間接年額賦課以上ノ納ムル者ハ其市公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經テ其市公民トシ得ルニ在ラス但特ニ依リ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第十四條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス

第十五條 凡市ノ住民トナリ(一)其市ノ負擔ヲ分任シ及(二)其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接間接年額賦課以上ノ納ムル者ハ其市公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經テ其市公民トシ得ルニ在ラス但特ニ依リ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第十六條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス

第十七條 凡市ノ住民トナリ(一)其市ノ負擔ヲ分任シ及(二)其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接間接年額賦課以上ノ納ムル者ハ其市公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經テ其市公民トシ得ルニ在ラス但特ニ依リ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第十八條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス

第十九條 凡市ノ住民トナリ(一)其市ノ負擔ヲ分任シ及(二)其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接間接年額賦課以上ノ納ムル者ハ其市公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經テ其市公民トシ得ルニ在ラス但特ニ依リ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第二十條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス

第二十一條 凡市ノ住民トナリ(一)其市ノ負擔ヲ分任シ及(二)其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接間接年額賦課以上ノ納ムル者ハ其市公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經テ其市公民トシ得ルニ在ラス但特ニ依リ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第二十二條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス

第二十三條 凡市ノ住民トナリ(一)其市ノ負擔ヲ分任シ及(二)其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接間接年額賦課以上ノ納ムル者ハ其市公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經テ其市公民トシ得ルニ在ラス但特ニ依リ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第二十四條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス

第二十五條 凡市ノ住民トナリ(一)其市ノ負擔ヲ分任シ及(二)其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接間接年額賦課以上ノ納ムル者ハ其市公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經テ其市公民トシ得ルニ在ラス但特ニ依リ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第二十六條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス

警察本官ノ裁決ニ不服アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 市公民タル者第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フト

キハ其公民タルノ權ヲ失フモノトス

市公民タル者公權停止中又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス家分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルト

キハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪罪刑ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ其裁判ノ

確定ニ至ルマテ亦同シ

第九條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第十條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第十一條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第十二條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第十三條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第十四條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第十五條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第十六條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第十七條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第十一條 市會議員ハ其市ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ

之ヲ選舉ス其定員ハ人口五萬未満ノ市ニ於テハ三十人ト

シ人口五萬以上ノ市ニ於テハ三十六人トス

人口十萬以上ノ市ニ於テハ人口十萬ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ

増シ六十人ヲ定限トス

議員ノ定員ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得但

定限ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 市公民(第七條)ハ總テ選舉權ヲ有ス但其公民權

ヲ停止セラレタル者第八條第三項第九條第二項)及第九條

第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

第十三條 本制五三條、五八條一項

凡內國人ニシテ公權ヲ有シ直接市稅ヲ納ムル者其額市公

民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一人ヨリ多キトキハ第

七條ノ要件ニ當ラズト雖モ選舉權ヲ有ス但公民權ヲ停止

セラレタル者及第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラ

ズ

第十四條 市制町村制法律

ル者ニシテ本條第三項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

第十五條 市公民タル者第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フト

キハ其公民タルノ權ヲ失フモノトス

市公民タル者公權停止中又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス家分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルト

キハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪罪刑ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ其裁判ノ

確定ニ至ルマテ亦同シ

第十六條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第十七條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第十八條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第十九條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第二十條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第二十一條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第二十二條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第二十三條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

第二十四條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明

文ナク又ハ特別ノ規定アルコトヲ許スル事項ハ各市ニ於テ

市制町制郡制警察制

以下選舉區ヲ設ケルコトヲ得但特ニ二級若クハ三級選舉ノ爲メ之ヲ設ケルモ妨ケナシ

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區ヲ以テ市會議員ノ選舉區トス

選舉區ノ數及其區域並各選舉區ヨリ選出スル議員ノ員數ハ市條例ヲ以テ選舉人ノ員數ニ準シ之ヲ定ム可シ

選舉人ハ其住居ノ地ニ依テ其所屬ノ區ヲ定ム其市内ニ住居ナキ者ハ課税ヲ受ケタシ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若シ數選舉區ニ亙リ納税スル者ハ課税ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム可シ

選舉區ヲ設ケルトキハ其選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツ可シ

被選舉人ハ其選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

第十五條 選舉權ヲ有スル市公民(第十二條第一項)ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ市會議員タルコトヲ得ス

- 一 所屬府縣ノ官吏
二 有給市吏員
三 檢察官及警察官吏
四 神官僧侶及其他諸宗教師

於テ其多數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 議員中議員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補選舉行ヲ可シ若シ定員三分ノ一以上議員アルトキ又ハ市會、市參事會若クハ府縣知事ニ於テ臨時補選ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補選舉行ヲ可シ

補選議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補選舉行トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之ヲ選舉ナ行フ可シ

第十八條 市長ハ選舉ナ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製ス可シ但選舉區ヲ設ケルトキハ每區各別ニ原簿及名簿ヲ製ス可シ

市制町制郡制警察制

選舉人名簿ハ七日間市役所又ハ其他ノ場所ニ於テ之ヲ閱係者ノ雜覽ニ供ス可シ若シ閱係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ市長ニ申立ツ可シ

市長ハ市會ノ議決(第三十五條第一項)ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選舉前十日ヲ限リ之ヲ修正ナ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登録セラレタル者ハ何人ナリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ無效トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ爲ストキモ又之ヲ適用ス

五 小學校教員

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

地方官官制一條。二二年開令一八號市制、町村制一五條ノ官吏ノ件。本制五〇條、五二條、五八條三項、五九條、六〇條一項但並及三項。裁判所構成法六六條、七條。小學校令三六條

代官人ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事務ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ハ議員ニ選舉セラレルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ市會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

市參事會員トシテ間父子兄弟タルノ緣故アル者ハ之ト同時ニ市會議員タルコトヲ得ス若シ議員トシテ其餘故アル者市參事會員ノ任ヲ受クルトキハ其餘故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條 議員ハ名譽職トシ其任期ハ六年トシ每三年各級

參事 (全文ニ關係)二二年内訓令六七號選舉原簿及選舉人名簿若クハ市會、市町村會議員選舉規則一條

第十九條 選舉執行スルトキハ市長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ノ可キ議員ノ數ヲ各級各區ニ分チ選舉前七日ヲ限リ之ヲ公告ス可シ

各級ニ於テ選舉ナ行フノ順序ハ先ツ三級ノ選舉ナ行ヒ次ニ二級ノ選舉ナ行ヒ次ニ一級ノ選舉ナ行フ可シ

第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ市長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ市長若クハ其代理者ハ掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其ノ會場ノ取締ニ任ズ但選舉區ヲ設ケルトキハ每區各別ニ選舉掛ヲ設ク可シ

參考 市町村會議員選舉規則一〇條乃至一二條

第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人ナリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議スルハ勸

議ヲ爲スコトヲ得ス

府縣制一七條一項但書。郡制一四條一項但書。市町村會議員選舉規則九條乃至一二條。一五條、一七條

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ提出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス選舉人投票ナ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ハ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ覆ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票終ル送之ヲ閉クコトヲ得ス

第二十三條 投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無効トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ左ノ投票ハ無効トス

一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
二 被選舉人ノ何人タルヲ確證シ難キモノ
三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ
四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ
投票ノ受理並效力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ提出スコトヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選舉權ナ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ內國人ニシテ公權ナ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ設トス可シ

參考 (全文ニ關係) (代人) 法定代理人。委任代理人。(法定代理人) 未成年者及禁治產者ノ後見人。會社其他ノ代表。合名會社ノ社員。合資會社ノ無限責任社員。株式會社ノ取締役。株式合資會社ノ無限責任社員。社團又ハ財團法人ノ理事。府縣ノ知事。郡ノ郡長。市町村ノ市町村長等。(委任代理人) 法定代理人以外ノ代理人

第二十五條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤ヲシテ其當選ヲ定ム
同時ニ補員數名ヲ選舉スルトキハ(第十七條)投票數ノ最多キ者ヲ以テ當任期ノ最長キ前任者ノ補員ト爲シ其數

相同シキトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

參考 (全文ニ關係) 三五年法五〇號年算計算ニ關スル件

第二十六條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ頭末ヲ記録シ選舉終リタル後之ヲ別紙シ選舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

參考 (全文ニ關係) 二二年内訓令六七號選舉錄書式ノ件

第二十七條 選舉ヲ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ノ辭セントスル者ハ五日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ數級又ハ數區ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十八條 選舉人選舉ノ效力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得(第三十五條第一項)

第二十八條 職務權限及處務規程

第三十條 市會ハ其市代表シ此法律ニ準據シテ市ニ關スル一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラレル事件ヲ議決スルモノトス

參考 府縣制一〇九條。二三年法七七號市町村名稱等ノ件二條。本制六六條

第三十一條 市會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

市長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ府縣知事ニ報告シ府縣知事ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス府縣知事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得

選舉ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又ハ被選舉人申其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシム可シ

參考 (全文ニ關係) 本制一二〇條。(選舉ノ定規) 本制二章一款中選舉ニ關スル條ノ規定

第二十九條 當選者申其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ效力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市會之ヲ議決ス

參考 本制七條、九條、一五條。市町村會議員選舉規則一八條

- 一 市條例及規則ヲ改訂修正スル事
 參考 本制一〇條、一一條一號、一二條一號、一三條一號
- 二 市費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第七十四條ニ掲グル事務ハ此限ニ在ラス
 參考 地方學事通則
- 三 歳入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事
 參考 本制一〇七條乃至一〇九條
- 四 決算報告ヲ認定スル事
 參考 本制一一二條
- 五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、市税及大役現品ノ賦課徴收ノ法ヲ定ムル事
 參考 本制八四條、八八條二項乃至一〇三條、一二二條二項乃至四號、一二三條六號乃至九號、三五年法二二號課税標準及税額計算ニ關スル件四號、戶籍法一三條、六六條、一七四條、三一年省令二三號戶籍法ニ依リ手数料金額ノ件、砂防法一一條、河川法三七條等臨海防法五條、三二年勅令二四二號船員手帖等手数料ノ件、船員法施行細則四九條
- 六 市有不動産ノ買収交換讓渡並買入賣入ヲ爲ス事
 參考 民八六條一項、三四二條、三六九條、五四九條、五五五條、五八六條、本制一一三條三號、登錄税法一九條二號
- 七 基本財産ノ處分ニ關スル事
 參考 本制八一條、一二三條二號
- 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
- 九 市有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
- 十 市吏員ノ身元保証金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事
 參考 本制五八條四項
- 十一 市ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事
 參考 民六九五條、六九六條
- 十二 市會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル市吏員ノ選舉ヲ行フ可シ
 參考 本制五一條、五八條、六〇條二項、六一條三項、小學校令六二條、傳染病預防法一五條、二六年勅令三三號警察區及徵兵委員ニ關スル件七條
- 十三 市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計畫書ヲ檢閱シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス

市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十四條 市會ハ官廳ノ諮詢アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

參考 本制四條、一一三條、二三年法七七號市町村名稱ニ關スル件一條、小學校令九條、一一條

第三十五條 市住民及公民タル權利ノ有無、選舉權及被選舉權ノ有無、選舉人名簿ノ正否並其等級ノ當否、代理ヲ以テ執行スル選舉權(第十二條第二項)及市會議員選舉ノ效力(第二十八條)ニ關スル訴訟ハ市會之ヲ裁決ス

市會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣選舉委員會ニ訴願シ其府縣選舉委員會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得

本條ノ訴訟及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

參考 (全文ニ關係)本制一一六條、訴訟法及行政裁判法

第三十六條 凡議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委託ヲ受テ可カラサルモノトス

參考 三四年法三七號液職法

第三十七條 市會ハ毎半年ノ初メ一周年ヲ限リ議長及其代理者各一名ヲ互選ス

第三十八條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ放障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ放障アルトキハ市會ハ市長ノ議員ヲ以テ議長ト爲ス可シ

第三十九條 市會議員ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辯明スルコトヲ得

第四十條 市會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ招集ス若シ議長四分ノ一以上ノ請求アルトキ又 市長若クハ市會議會ノ請求アルトキハ必ズ之ヲ招集ス可シ其招集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急務ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ會議ノ三日前タル可シ但市會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

市會議員ハ市會ノ會議ニ招集スルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第四十一條 市會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ズ但同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十二條 市會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ市會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ズ議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開ケル定數ニ滿タサルトキハ府縣參事會市會ニ代テ議決ス

第四十四條 市會ニ於テ市吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取リ之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其ノ二名ヲ取リ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其ノ他ハ第二十二條、第二十三條、第二十四條第一項ヲ適用ス

コトヲ得

第四十五條 市會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聴ヲ禁スルコトヲ得

第四十六條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ整理シ開會閉會並延會ヲ命ジ議場ノ秩序ヲ保持シ若シ傍聴者ノ公然贊成又ハ排斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起スモノアルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十七條 市會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ期未進出席議員ノ氏名ヲ記録セシム可シ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ市會ハ議事録ノ謄寫又ハ原書ヲ以テ其議決ヲ市長ニ報告スヘシ

市會ノ書記ハ市會之ヲ選任ス

第四十八條 市會ハ其會議細則ヲ設ケ可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設ケルコトヲ得

第三章 市行政

第一款 市參事會及市吏員ノ組織選任

第四十九條 市ニ市參事會ナ盛キ左ノ吏員ヲ以テ之ヲ組織

一 市長 一名

二 助役 東京ハ三名京都大阪ハ各二名其他ハ一名

三 名譽參事會員 東京ハ十二名京都大阪ハ各九名其他ハ六名

助役及名譽參事會員ハ市條例ヲ以テ其定員ヲ増減スルコトヲ得

第五十條 市長ハ有給吏員トス其任期ハ六年トシ内務大臣市會ヲシテ候補者三名ヲ推薦セシメ上奏認可ヲ請フ可シ若シ其認可ヲ得サルトキハ再推薦ヲ爲サシム可シ再推薦ニシテ猶認可ヲ得サルトキハ追テ推薦セシム或リテ得ルニ至ルノ間内務大臣ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市吏員ヲ官吏ヲ派遣シ市長ノ職務ヲ管掌セシム可シ

參考 二八年內訓令八五號市長任期滿限等ノ節申報方

第五十一條 助役及名譽參事會員ハ市會之ヲ選舉ス其選舉ハ第四十四條ニ依リ行フ可シ但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス府縣參事會之ヲ決ス可シ

第五十二條 助役ハ有給吏員トシ其任期ハ六年トス助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス若シ其

認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲ス可シ再選舉ニシテ猶認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間府縣知事ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市吏員ヲ官吏ヲ派遣シ助役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第五十三條 市長及助役ハ其市公民タル者ニ限ラス但其任ヲ受クルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十四條 名譽參事會員ハ其市公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス其任期ハ四年トス任期滿限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

名譽參事會員ハ每二年其半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ選任セシム初回ノ選任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但選任者ハ再選セラルコトヲ得

若シ副員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル爲メ直ニ補選選舉ヲ爲ス可シ

參考 三五年法五〇號年齡計算ニ關スル件

第五十五條 市長及助役其他參事會員ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ヲ添ヌルコトヲ得同條第四項ニ掲載スル者ハ名譽參事會員ニ選舉セラルコトヲ得ス

受于兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ市参事會員タルコト
ヲ得ス若シ其縁故アル者市長ノ任ヲ受ケルトキハ其縁故
アル市参事會員ハ其職ヲ退ケ可シ其他ハ第十五條第五項
ヲ適用ス

市長及助役ハ三箇月前ニ申立ツレトキハ隨時退職ヲ求ム
ルコトヲ得此場合ニ於テハ退職料ヲ受ケルノ權ヲ失フモ
ノトス

第五十六條 市長及助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又株式
會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ府縣知
事ノ許可ヲ得ルニ非サルハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十七條 名譽副参事會員ノ選舉ニ付テハ市参事會自ラ
其效力ノ有無ヲ議決ス

富選者中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ
又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ富選ハ效力
ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市参事會員之ヲ議決ス其
議決ニ不服アル者ハ府縣参事會ニ訴願シ其ノ府縣参事會
ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得其
他ハ第三十五條末項ヲ適用ス

參考 (全文ニ關係) 本制一六條。訴願法及行政裁判

區ニ附屬員並使丁ヲ置クコトヲ得

東京市、京都市、大阪市及人口二十萬以上ノ市ハ市會ノ
議定ニ依リ區ニ區收入役ヲ置クコトヲ得

前項區收入役ハ區附屬員中ニ就キ市参事會員之ヲ命ス

參考 (全文ニ關係) 本制一三三條。三三三條九八號人
口二十萬以上ノ市區ニ關スル件

第六十一條 市ハ市會ノ議決ニ依リ臨時ハ常設ノ委員ヲ
置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ市参事會員又ハ市會議員ヲ以テ之ニ充テ又ハ市参
事會員及市會議員ヲ以テ之ヲ組織シ又ハ會員議員ト市公
民中選舉權ヲ有スル者トナシ以テ之ヲ組織シ市参事會員一
名ヲ以テ委員トス

委員中市會議員ヨリ出ツル者ハ市會之ヲ選舉シ選舉權ヲ
有スル公民ヨリ出ツル者ハ市参事會之ヲ選舉シ其他ノ委
員ハ市長之ヲ選任ス

常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設
クルコトヲ得

參考 (全文ニ關係) 小學校令六二條。傳染病預防法一
五條

第六十二條 區長及委員ニ職務取扱ノ爲メニ要スル實費

市制町村制部制府縣制

第五十八條 市ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ市参事會ノ推
薦ニ依リ市會之ヲ選任ス

收入役ハ市参事會員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

收入役ノ選任ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケルコトヲ得ス其他
ハ第五十一條、第五十二條、第五十三條、第五十五條及
第七十六條ヲ適用ス

收入役ハ身元保證金ヲ出ス可シ

第五十九條 市ニ書記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ相當
ノ給料ヲ給ス其人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ市参事
會之ヲ任用ス

第六十條 凡シハ職務便宜ノ爲メ市参事會ノ意見ヲ以テ之
ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得
區長及其代理者ハ名譽職トス但東京京都市大阪及人口二十
萬以上ノ市ニ於テハ區長ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

區長及其代理者ハ市會ニ於テ其職務クハ附屬員ノ公民中選
舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區會(第百十三條)ノ設ク
ル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス但東京京都市大阪及
人口二十萬以上ノ市ニ於テハ市参事會之ヲ選任ス
東京京都市大阪及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ前條ニ依リ

辨償ノ外市會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スル
コトヲ得

第六十三條 市吏員ハ任期滿限ノ後再選セラルコトヲ
得

市吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外
隨時解職スルコトヲ得

第六十四條 市参事會ハ其市ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任
ス

市参事會ノ擔任スル事務ノ數目左ノ如シ

一 市會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ市會
ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益
ヲ害スト認ムルトキハ市参事會ハ自己ノ意見ニ因リ
又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行
ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ
府縣参事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律
命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於
テ府縣参事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出
訴スルコトヲ得

參考 一七年内訓令一一九號發案權ニ關スル件。本制

- 一一六條。訴訟法及行政裁判法
- 二 市ノ設置ニ係ル營造物ノ管理ニ事者ソ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事
- 一 參考 本制六九條二項、七二條二項、七三條
- 三 市ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算表其他市會ノ議決ニ依テ定メタル收入支出命令シ會計及出納ヲ監視スル事
- 四 市ノ權利ヲ保護シ市有財産ヲ管理スル事
- 五 市吏員及使丁ヲ監督シ市長ヲ除クノ外其他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ懲責及十圓以下ノ過意金トス
- 六 市ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事
- 七 外部ニ對シテ市代表シ市ノ名義ヲ以テ其駐地地租解ニ關シ又ハ他種若クハ人民ト商議スル事
- 八 法律勅令ニ依リ又ハ市會ノ議決ニ從テ使用料、手数料、市税及夫役現品ヲ賦課徴收スル事
- 一 參考 法律勅令ニ依ル手数料(月額法)一三條、六六條
- 二 二七條。二二年前省令一三號月額法ニ依ル手数料、件三二年前勅三四三號船員手帳等ノ手数料ノ件、船員法

- 九 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ市參事會ニ委任シタル事務ヲ處理スル事
- 一 參考 三三平勅九八號人口二十萬以上ノ市ニ關スル件
- 二 條、三條。二九平勅三三一號河川權三關スル件
- 〇條、一一條
- 第六十五條 市參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽會員定員三分ノ一以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコト得
- 其議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル
- 議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記ス可シ
- 市參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ市長ハ自己ノ意見ニ出リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ附シテ議決ノ執行ヲ停止シ府縣參事會ノ議決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 一 參考 (全文ニ關係)本制一一六條。訴訟法及行政裁判法

- 第六十六條 第四十三條ノ規定ハ市參事會ニモ亦之ヲ適用ス但同條ノ規定ニ從ヒ市參事會正當ノ會議ヲ開クコトヲ得サルトキハ市會之ニ代テ議決スルモノトス
- 第六十七條 市長ハ市政一切ノ事務ヲ指揮監督シ職務ノ遂行ニ關シトシ市長ハ市參事會ヲ召集シ之ヲ召集シタル市長故降アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ
- 市長ハ市參事會ノ議事ヲ準備シ其議決ヲ執行シ市參事會ノ名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲シ及之ニ署名ス
- 第六十八條 急務ニ要スル場合ニ於テ市參事會ヲ召集スルノ限ナキトキハ市長ハ市參事會ノ事務ヲ專決處分シ次同ノ會議ニ於テ其處分ヲ報告ス可シ
- 第六十九條 市參事會員ハ市長ノ職務ヲ補助シ市長故降アルトキ之ヲ代理ス
- 市長ハ市會ノ同意ヲ得テ市參事會員ヲシテ市行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ名譽職員ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得
- 市條例ヲ以テ助役及名譽職員ノ特別ナル職務並市長代理ノ順序ヲ規定ス可シ若シ條例ノ規定ナキトキハ府縣知事ノ定ムル所ニ從ヒ上席者之ヲ代理スヘシ

- 第七十條 市收入役ハ市ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル
- 第七十一條 書記ハ市長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス
- 第七十二條 區長及其代理者(第六十條)ハ市參事會ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル市行政事務ヲ補助執行スルモノトス
- 東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區長ハ市長市參事會又ハ市收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依リ市ノ公共事務及法律命令ヲ以テ市ニ屬シタル事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ管掌ス
- 前項ノ區長ハ市參事會ノ監督ヲ受ケ區ニ屬スル事務ヲ處理ス
- 區收入役ハ區ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル
- 區收入役ハ市收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依リ區内ニ關スル市收入役ノ事務ヲ管掌ス
- 一 參考 (全文ニ關係)三三平勅九八號人口二十萬以上ノ市ノ區ニ關スル件五條乃至九條。地方學事通則二條四項。小學校令六一條
- 第七十三條 委員ハ(第六十一條)市參事會ノ監督ニ屬シ市

市制町村制郡制府縣制

十八

行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督
シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス
市長ハ隨時委員會ニ列席シテ議決ニ加ハリ其議長タルノ
權ヲ有ス常設委員ノ職務權限ニ關シテハ市條例ヲ以テ別
段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得
參考 (全文ニ關係) 小學校令六三條。同施行規則一八
三條。傳染病預防法一五條
第七十四條 市長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管理ス
一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理
ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警
察事務ヲ管理セシムルトキハ此限ニアラス
參考 刑訴四七條二項五號
二 浦役場ノ事務
參考 九年大達一七號浦役場浦役人ノ件
三 國ノ行政並府縣ノ行政ニシテ市ニ屬スル事務但別ニ
吏員ノ設ケアルトキハ此限ニアラス
參考 府縣制一〇條。一一條。一五條。一六條。二〇
條。二三條。八〇條。三三年内令三一號府縣會議員選
舉ニ關スル納稅證明ノ件。國稅徵收法五條。府縣稅收
收ニ關スル件一條。戶籍法二條。衆議院議員選舉法四
條。五條。一八條乃至二二條。二四條。二五條。二七
條。三三條。三四年内令一六號警察廳名簿ニ關ス
ル件四條。傳染病預防法四條。一五條。一七條。精神
病者監護法六條。墓地埋葬取締規則四條。徵兵令二五
條。徵兵事務條例二二條。徵發令六條。七條。二九年
法六六號馬匹調査及検査ニ關スル件二條。陸軍召集條
例八條。二四條。海軍召集條例二〇條。二二條。二三
條。二五條。小學校令六〇條。寄嶽除障預防法三條乃
至六條。耕地整理法六五條。船員法七九條。三二年選
令二六號市町村長ヲシテ管海官廳事務ヲ執行セシムル
ノ件。行旅病人及行旅死亡人取扱法二條。七條。八條
獸疫預防法二條。土地收用法一〇條。二二條。河川法
二三條二項。關稅法八九條。九〇條。水難救護法一條
乃至三條。六條乃至一一條。一四條乃至一八條。二四
條乃至三〇條。三三年勅一四四號教育所タル孤兒ノ財
務執行ニ關スル件。消防組規則六條。三〇年内令一九
號汽車検査規則二條。三〇年内令二〇號船舶検査規則
七條
右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ市參事會員
ノ一名ニ分掌セシムルコトヲ得

東京市、京都市、大阪市ノ市長ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ
本條ノ事務ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得
本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルガ爲ニ要スル費用ハ市ノ
負擔トス
第三款 給料及給與

第七十五條 各職職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除ク
ノ外職務取扱ノ爲メニ要スル賃金ノ辨償ヲ受ケルコトヲ
得賃金辨償額及報酬額ハ市會之ヲ議決ス
參考 本制一一六條。薪額法及行政裁判法
第七十六條 市長助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ市會
ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

市會ノ議決ヲ以テ市長ノ給料額ヲ定ムルトキハ内務大臣
ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス若シ之ヲ許可ス可カラスト認
ムルトキハ内務大臣之ヲ確定ス
市會ノ議決ヲ以テ助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ府縣知事
ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス府縣知事ニ於テ之ヲ許可ス可
カラスト認ムルトキハ府縣知事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確
定ス
市長助役其他有給吏員ノ給料額ハ市條例ヲ以テ之ヲ規定
スルコトヲ得

市制町村制郡制府縣制

十九

第七十七條 市條例ノ規定ヲ以テ市長其他有給吏員ノ退職
料ヲ設ケルコトヲ得
第七十八條 有給吏員ノ給料退職料其他第七十五條ニ定ム
ル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ府縣
參事會之ヲ議決ス其府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行
政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第七十九條 退職料ヲ受ケル者官職又ハ府縣都市町村及公
共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受ケルトキハ其間之ヲ停止シ
又ハ更ニ退職料ヲ受ケルノ權ヲ得ルトキ其額若シ退職料ト
同額以上ナルトキハ舊退職料ハ之ヲ廢止ス
第八十條 給料、退職料、報酬及辨償ハ總テ市ノ負擔トス
第四章 市有財産ノ管理
第一款 市有財産及市稅
第八十一條 市ハ其不動産積立金數等ヲ以テ基本財産ト爲
シ之ヲ維持スルノ義務アリ
臨時ニ收入シタル金數ハ基本財産ニ加入ス可シ但附金
等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス
參考 (全文ニ關係) 地方學事規則九條乃至一一條。二
三年内訓令三〇號內務報告例第六條
第八十二條 凡市有財産ハ全市ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用

入スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條 敷市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ市税ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノミ課税ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得税法第三條ニ掲グル所得ハ市税ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲グル物件ハ市税ヲ免除ス

- 一 政府、府縣都市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徴收スルハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ市税例ニ依リ年月ヲ限リ免除スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外市税ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ

皇族ニ係ル市税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現

令ノ例ニ依ル

第九十九條 敷個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ市内ノ一區ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一區ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第十條 (全文ニ關係)本則一二三條八號

第十條 (削除)

第一百條 市公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得但學藝、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

第十條 憲二十七條二項

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接市税ヲ率率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ

第十條 本則一二三條九號、一三一號、二二一年大告九五

五條乃至二九條

第一百零一條 地租ノ附加税ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル市税ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第一百零二條 地租條例一二條

第一百零三條 市税ノ賦課ニ對スル訴訟ハ賦課令狀ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ市議會ニ申立ツ可シ此期限ヲ超過スルトキハ其年度内減稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第一百零四條 市税ノ賦課及市ノ營造物、市有財產並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴訟ハ市議會之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一百零五條 市議會ニ不服アル者ハ府縣議會ニ訴訟シ其府縣會議會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一百零六條 市ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償

法

第九十九條 市ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償

法

第九十九條 市ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償

賦直接稅額別ノ件。皆益驅除預防法五條

夫役ヲ課セラレタル者ハ其他便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一百零七條 市ニ於テ徵收スル使用料、手数料(第八十九條)市税(第九十條)夫役ニ代フル金額(第一百零一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他市ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ市議會ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セザルトキハ

國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ノ爲スニハ市税例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第一百零八條 國稅徵收法一〇條乃至三〇條。同施行規則二三條乃至三一條。三四年內令二六號若其外ニ滯納處分處

託ノ件

納稅者中無實力ナル者アルトキハ市議會ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ市議會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

第一百零九條 國稅徵收法一二條乃至四條。府縣制一一六條三項

第一百十條 會計法一八條。一九條。地租條例二

遺スル爲メ又ハ天災時等已ムテ得サル支出若クハ市ノ永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ其市住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

市會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ割合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ

定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラズ其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノトス但此場合ニ於テハ市會ノ議決ヲ要セス

參考 (全文ニ關係) 一〇年太布六六六號利息制限法。本制一二三條一號、二六年大訓令六九二號市町村公債募集ニ要スル事項ノ件

第二款 市ノ歳入出豫算及決算

第百七條 市參事會ハ毎會計年度歳入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ年度前二箇月ニ限リ歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

參考 (全文ニ關係) 會計法一條一項。二二年内令二號

市町村歳入出豫算式ノ件

第百八條 豫算表ハ會計年度前市會ノ議決ヲ取リ之テ府縣知事ニ報告シ並地方債行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ豫算表ハ市會ニ提出スルトキハ市參事會ハ併セテ其市

ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ

第百九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ市會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ設キ市參事會ハ豫算外ノ費用ニシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ズ

第百十條 市會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ

其附屬ヲ以テ之ヲ歳入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳者クハ參事會ノ許可ヲ受クヘキ事項アルトキハ(第百二十一條ヨリ第百二十三條ニ至ル)先ツ其許可ヲ受ク可シ

參考 本制五八條三項、七六條二項三項。地方學事規則九條三項四項。小學校令五七條二項。三一年勅一五號砂防ニ關スル行政監督ノ件三條。二九年勅二三三號河川ニ關スル行政監督ノ件三條。三三年勅二三三號市

町村行政ニ關シ主務大臣ノ職務權ヲ府縣知事ニ委任ノ件

收入役ハ市參事會(第六十四條第二項)第三項ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ズ又收入役ハ市參事會ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第九條ノ規定ニ據ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ズ

參考 本制一一八條

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

參考 本制一二五條

第百十一條 市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クモ一回臨時検査ヲ爲スコシ例月検査ハ市長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ハ市長又ハ其代理者ノ外市會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ並書類ヲ併セテ歳入役ヨリ之ヲ市參事會ニ提出シ市參事會ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ市會ノ認定ニ付ス可シ其市會ノ認定ヲ經タルトキハ市長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告ス可シ

決算報告ヲ爲ストキハ第三十八條及第四十三條ノ例ニ準

市制町村制部附屬制

市參事會員故障アルモノトス

第五章 特別ノ財政ヲ有スル市區ノ行政

第百十三條 市内ノ一區ニシテ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ府縣參事會ハ其市會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會ヲ設ケルコトヲ得其會議ハ市會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

參考 地方學事規則二條。三條。本制一二二條一號

第百十四條 前條ニ記載スル事務ハ市ノ行政ニ關スル規則ニ依リ市參事會之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章 市行政ノ監督

第百十五條 市行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

市ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ其許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

參考 (全文ニ關係) 地方學事規則一二條。二五年內令三四八號市町村行政事務監督事項ノ件。三三年勅一

二三號市町村行政ニ關シ主務大臣ノ職權ヲ府縣知事ニ委任ノ件

第百十六條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡市ノ行政ニ關スル府縣知事若クハ府縣參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

參考 此法律中規定アル場合ハ本制五條、八條四項、三五條、五七條、六四條二項一號、六五條、七八條、九一條、一〇五條、一一八條、一二四條、一二五條

市ノ行政ニ關スル訴願ハ處分若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

參考 (但書)本制一八條二項、二八條一項、一〇四條此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス
訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ市ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

參考 (但書)本制三五條三項、一〇五條三項

第百十七條 監督官廳ハ市行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務紛亂混淆セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ觀察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

參考 一五年內訓令三四九號市町村巡視規程標準。二五年內訓令三五〇號市町村事務報告例標準

第百十八條 市ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之承認セス又ハ實行セサルトキハ府縣知事ハ理由示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

市ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第百十九條 凡市會又ハ市參事會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ府縣參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第百二十條 内務大臣ハ市會ヲ解散セシムルコトヲ得解散

ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内ニ議員ヲ改選スベキコトヲ命ス可シ但改選市會ノ集會スル迄ハ府縣參事會市會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第百二十一條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

一 市條例ヲ改訂スル事
二 學藝美術ニ關シ又ハ歴史上貴重ナル物品ノ賣却讓與買入賣入交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

參考 (全文ニ關係)地方學事通則一二條。本制一〇條一項。小學校令六二條三項。三三年勅一二三號市町村行政ニ關シ主務大臣ノ職權ヲ府縣知事ニ委任ノ件

第百二十二條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

一 新ニ市ノ預備ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス

二 市特別稅並使用料、手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
三 地租五分ノ一其他直接稅百分ノ五十ヲ超過スル附

市制町村制部制府縣制

加稅ヲ賦課スル事

四 間接稅ニ附加稅ヲ賦課スル事

五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

參考 (全文ニ關係)地方學事通則一二條。本制八四條八九條、九〇條、一〇二條一項。三三年勅一二三號市町村行政ニ關シ主務大臣ノ職權ヲ府縣知事ニ委任ノ件
二六年中訓三四九號地租其他稅、制限外課稅、間接稅、附加稅、賦課等稟請方ノ件

第百二十三條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ府縣參事會ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

一 市ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並ニ改正スル事

二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)

三 市有不動産ノ賣却讓與買入賣入ヲ爲ス事

四 各個人特ニ使用スル市有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)

五 各種ノ保證ヲ與フル事
六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以

上ニ亘リ新ニ市住民ニ負擔ヲ課スル事
七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課

スル事(第九十條第二項)

八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ市内ノ一區ニ費用ヲ賦課スル事

九 第一條ノ準ニ據ラシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

參考 (全文ニ關係) 警備隊防法五條五項。三二年勅一五號抄訪ニ關スル行政監督ノ件三條一號。二九年勅二三號河川ニ關スル行政監督ノ件三條一項二號。地方學事通則九條

第九十條

府縣知事ハ市長、助役、市參事會、委員、區長其他市吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ該員及過意トス其過意金ハ二十五圓以下トス

道ヲ市吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

- 一 市參事會ノ懲戒處分(第六十四條第二項第五)ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 二 府縣知事ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 三 本條第一項ニ揭載ナル市吏員職務ニ違フコト再ニ

及ヒ文ハ其狀重キ者又ハ行狀ノ亂リ應命ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務ヲ行ハル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其職解職スルコトヲ得ヘキ者ハ(第六十三條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退職料ヲ受ケルノ權ヲ失フモノトス

四 懲戒裁判ハ府縣知事其審問ヲ爲シ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市長ノ解職ニ係ル裁決ハ上訴シテ之ヲ執行ス

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命ジ裁決料ヲ停止スルコトヲ得

第九十五條 市吏員及使丁其職務ヲ盡スス又ハ擅權ヲ施シタル事アルカ爲メ市ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但出訴ヲ爲シタルトキハ府縣參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第七章 附則

第九十六條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情狀ヲ斟酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣指定スル地ニ之ヲ施行ス

第九十七條 府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間府縣參事會ノ職務ハ府縣知事行政裁判ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十八條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付市參事會及市會ノ職務並市條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ府縣知事又ハ其指令スル官吏ニ於テ之ヲ施行スヘシ

第九十九條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セズ現行ノ例規及其ノ他習慣ニ從フ

第一百條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

參考 一三年內令三號市制町村制ニ記載スル最終調査人口ノ件

第一百零一條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第一百零二條 明治九年十月第百三十號布告各區町村金銀公借共有物取扱土木起功規則、明治十一年七月第十七號

市制町村制郡制府縣制

布告郡區町村編制法第四條、明治十七年五月第十四號布告區町村會法明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

參考 (全文ニ關係) 二一年大告九五號直接稅間接稅類別ノ件

第一百零三條 內務大臣ハ此法律實行ノ費ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ

此法律中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外東京市、京都市、大阪市及人口二十萬以上ノ市ノ區ニ關シ必要ナル一切ノ事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

參考 (全文ニ關係) 三三年勅九八號人口二十萬以上ノ市ノ區ニ關スル件

市ノ區ニ關スル件

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其區域

第二款 町村住民及其權利義務

第三款 町村條例

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選任

第二款 町村吏員ノ職務權限

第三款 給料及給與

第四章 町村有財產ノ管理

第一款 町村有財產及町村稅

第二款 町村ノ歲入ノ豫算及決算

第五章 町村内各部ノ行政

第六章 町村組合

第七章 町村行政ノ監督

第八章 附則

第一節 總則

第一款 町村及其區域

第一條 此法律ハ市制ヲ施行スル地ヲ除キ總テ町村ニ施行スルモノトス

參考 二三年法七七號市町村名稱等ノ件

第二條 町村ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔ス

凡町村公共ノ事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

參考 本制一一九條乃至一二九條、二五年內訓令三四八號市町村行政事務監督ノ件

第三條 凡町村ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス但將來其變更ヲ欲スルコトアルトキハ此法律ニ準據ス可シ

第四條 町村ノ設置分合ヲ要スルトキハ關係アル市町村會及郡縣事會ノ意見ヲ聞キ府縣事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受ク可シ

町村境界ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル町村會及地主ノ意見ヲ聞キ郡縣事會之ヲ議決ス其數部ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣事會之ヲ議決ス

町村ノ實力法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪ヘス又ハ公益上ノ必要アルトキハ關係者ノ異議ニ拘ハラズ町村ヲ合併シ又ハ其境界ヲ變更スルコトアル可シ

本條ノ處分ニ付其町村ノ財產區分ヲ要スルトキハ併セテ之ヲ議決ス可シ

參考 府縣制三條二項、郡制三條二項、二三年法七七號市町村名稱等ノ件、三〇年内令三號新ニ町村ヲ改メタル場合ノ件、一四年太達八三號字改稱規定ノ件、二六

年內訓令二三號同上ノ件、一三年內訓令三〇號內務報告例週報三條、二七年內訓令一號分合改稱報告ノ件、二四年內訓令八號同上ノ件

第五條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ郡縣事會之ヲ議決ス其數部ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣事會之ヲ議決ス其郡縣事會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣事會ニ訴願シ其府縣事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

參考 訴願法及行政裁判法。本制二二〇條

第二款 町村住民及其權利義務

第六條 凡町村内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其町村住民トス

凡町村住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公共ノ營造物並町村有財產ヲ共有スルノ權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラズ

參考 本制八二條乃至八六條、九二條乃至九五條、九九條、一〇一條

第七條 凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ年以來(一)町村ノ住民トナリ(二)其町村ノ負擔ヲ分任シ及

(三)其町村内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其町村公民トス其公役ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラズ但場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一月ヲ滿ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサル者ヲ云フ

參考 (帝國臣民)一八條、國籍法一條乃至二七條、(公權)利一〇條一號、三二條、三三條、六三條、六四條、陸利一八條一號、二八條、二九條、三五條、海利九

條一號、一七條、一九條、地租條例一二條、二二年六條九五號直接稅種類ノ件、(救助)七年太達一六二號救恤規則、六年太達七九號三子出生者養育料ノ件、彌災救助基金法二三條、一四條、三五年法五〇號年齡計算ニ關スル件、民七條、一一條、三〇年内令三號新ニ町

村ヲ置キタル場合ノ件八條

第八條 凡町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選舉セラレトノ權利アリ又其名譽職ヲ擔任スルハ町村公民ノ義務ナリトス

參考 本制二二條、一五條、二〇條、五三條、五五條

六四條、六五條

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

- 一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
- 二 營業ノ爲メニ常ニ其町村内ニ居ルコトヲ得サル者
- 三 年齢滿六十歳以上ノ者
- 四 官職ノ爲メニ町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
- 五 四年間無給ニシテ町村吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間町村議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者

六 其他町村會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者
 前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ町村會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其町村民タルノ權ヲ停止シ且同年間其負擔ス可キ町村費ノ八分一乃至四分一ヲ増課スルコトヲ得
 前項町村會ノ議決ニ不服アル者ハ郡縣參事會ニ訴願シ其郡縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條、町村民タル者第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フ

トキハ其公民タルノ權ヲ失フモノトス
 町村民タル者公權停止中又ハ租稅海關處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス家賃分放若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權奪回若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ其裁判ノ確定ニ至ル迄亦同シ
 參考 刑一〇條二號、三三條、三四條、本制一〇二條

一 項。國稅徵收法三章。府縣制一一六條二項。家賃分放法。破産法一節。一〇五五條乃至一〇五九條
 陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

參考 本制五三條一項、五六條二項、六二條三項、六四條二項、六五條二項
 町村民タル者ニ限リテ任ス可キ職務ニ在ル者ニシテ本條第一項乃至第三項ノ場合ニ當ルトキハ自ラ解職スルモノトス職ニ就キタルカ爲メ公民タルノ權ヲ得可キ職務ニ在ル者ニシテ本條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキモ亦同

前項ノ職務ニモル町村民ニシテ公權糾察若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪輕罪ノ爲メ豫審ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其職ヲ停止スルコトヲ得
 參考 刑六二條一號二號

第三款 町村條例

第十條 町村ノ事務及町村住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ各町村ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得
 參考 本制一一條但書、一四條三三條、五二條、五六條、六五條三項、七四條三項、七七條、八四條、九二條一項、九七條二項、一〇二條一項、一一四條、一二五條一號、一三一條、小學校令六二條二項三項
 町村ニ於テハ其町村ノ設置ニ係ル特種物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

參考 本制一二條七一號

町村條例及規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルトキハ地方慣行ノ公格式ニ依ル可シ

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

市制町村制部制官制

第十一條 町村會議員ハ其町村ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員ハ其町村ノ人口ニ準シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム但町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得
 一 人口千五百未満ノ町村ニ於テハ 議員八人
 一 人口千五百以上五千未満ノ町村ニ於テハ 議員十二人
 一 人口五千以上一萬未満ノ町村ニ於テハ 議員十八人
 一 人口一萬以上二萬未満ノ町村ニ於テハ 議員二十四人
 一 人口二萬以上ノ町村ニ於テハ 議員三十人

參考 (全文ニ關係)本制一三五條、一三三年内令三號市町村制ノ最終調査人口ノ件
 第十二條 町村民(第七條)ハ總テ選舉權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラルル者(第八條第三項、第九條第二項)及第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラス
 凡内國人ニシテ公權ヲ有シ直接町村稅ヲ納ムル者其額町

村公民ノ最多ク納税スル者三名中ノ一人ヨリ多キトキハ第七條ノ要件ヲ當ラスト雖モ選舉權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラルル者及第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

備考 (全文ニ關係) 本制二四條、五六條二項、六二條三項、民三三條乃至三五條、南四二條、四三條、產業組合法。銀行法

第十三條 選舉人ハ分テ二級トナス

選舉人中直接町村税ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ル可キ者ヲ一級トシ留餘ノ選舉人ヲ二級トス

一級二級ノ間納税額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納税者二名以上アルトキハ其町村內ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ離キトキハ年數ヲ以テ年數ニモ依リ離キトキハ町村長抽籤ヲ以テ之ヲ決定ス可シ

選舉人毎級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其被選舉人ハ同級內ノ者ニ限ラヌ兩級ニ通シテ選舉セラルトコトヲ得

備考 (全文ニ關係) 三五法五〇號年齡計算ニ關スル件

第十四條 特別ノ事情アリテ前條ノ例ニ依リ離キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ別ニ選舉ノ條例ヲ設ケルコトヲ得

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民第十二條第一項ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲グル者ハ町村會議員タルコトヲ得ス

- 一 所屬府縣郡ノ官吏
 - 二 有給ノ町村吏員
 - 三 檢察官及警察官吏
 - 四 紳官僧侶及其他諸宗教師
 - 五 小學校教員
- 備考 地方官官制二條、三九條、二三年閣令一八號市町村制一五條ノ官吏ノ件。本制五六條、六二條二項六三條。裁判所構成法六條、七條。小學校令三九條
- 其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ
- 代官人ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ亦テ辨スルヲ以テ棄ト爲ス者ハ議員ニ選舉セラルトコトヲ得ス

父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時々異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長若クハ助役トノ間父子兄弟タルノ縁故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其縁故アル者町村長若クハ助役ニ選舉セラレ認可ヲ受ケルトキハ其縁故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ毎三年各級

ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ離キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

退任ノ議員ハ再選セラルトコトヲ得

第十七條 議員中間員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至

リ同時ニ補選舉行フ可シ若シ定員三分ノ二以上議員アルトキハ町村會議員若クハ郡長ニ於テ臨時補選ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補選舉行フ可シ

補選議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補選選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉級ニ從テ之ヲ選舉ヲ行フ可シ

第十八條 町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限リ

選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製ス可シ

選舉人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ之ヲ關係者ノ鑑覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於テ所願セントスルトコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ町村長ハ町村會議員決第三十七條第一項ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選舉前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ數效トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス

備考 (全文ニ關係) 二三年內訓令六七號選舉原簿及選舉人名簿格式ノ件。市町村會議員選舉期則一條

第十九條 選舉ヲ執行スルトキハ町村長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス可キ議員ノ數ヲ各級ニ分チ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ

各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フ可シ

第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其代理者ハ其係長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

備考 市町村會議員選舉則則一〇條乃至一二條

第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外人ヨリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議スルハ妨礙ナラスコトヲ得ス

備考 府縣制一七條一項但書。郡制一四條一項但書。

市町村會議員選舉則則九條乃至一二條、一五條、七條

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ提出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記スルコトヲ得ス

選舉人投票ヲ提出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ後投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條 投票ニ記載ノ人員其選舉不可キ定數ニ過キ又

ハ不足アルモ其投票ヲ無効トシ其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ

左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ綴ミ違キモノ
 - 二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
 - 三 被選舉権ナキ人名ヲ記載スルモノ
 - 四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ
- 投票ノ受理並ニ效力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可シ同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ

投票ヲ提出ス可トナサス

第十二條第二項ニ依リ選舉権ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ズ代人ヲ以テス可シ其代人ハ内國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ權トスヘシ

備考 (全文ニ關係) 代人 法定代理人、委任代理人、(法定代理人) 未成年者及禁治產者ノ後見人、會社其他法人ノ重役、合名會社ノ社員、合資會社ノ無限責任社員

備考 (全文ニ關係) 三五年法五〇號年計計算ニ關スル件

第二十七條 選舉掛ハ選舉録ヲ製シテ選舉ノ願未チ記録シ選舉ヲ終リタル後之ヲ開讀シ選舉人名簿其他關係書類ヲ合算シテ之ニ署名ス可シ

備考 二年内開六七條選舉録書式ノ件
投票ハ之ヲ選舉録ニ附屬シ選舉ヲ終了スルヨリ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十八條 選舉終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ兩級ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十九條 選舉人選舉ノ效力ニ關シテ訴訟セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得(第二十七條第一項)

町村長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ部長ニ報告シ部長ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ訴訟ノ有無ニ拘ラズ郡

株式會社ノ取締役、格式合資會社ノ無限責任社員及支那人、社團又ハ財團法人ノ理事、府縣ノ知事、郡ノ郡長、市町村及區ノ市町村長等(委任代理人) 法定代理人以外ノ代理人

第二十五條 町村ノ區域廣闊ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議決ニ依リ區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設ケルコトヲ得但特ニ二級選舉人ノ區分會ヲ設ケルモ妨ケナシ

分會ノ選舉掛ハ町村長ノ選任シタル代理者ヲ以テ其長トシ第二十條ノ例ニ依リ掛長二名若クハ四名ヲ選任ス

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム

選舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開ク可シ其他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル

第二十六條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

同時ニ補選員數名ヲ選舉スルトキハ(第十七條)投票數ノ最多キ者ヲ以テ任期ノ最長キ前任者ノ補選トナシ其數相同シキトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

選舉會ニ付シテ處分ナ行フコトヲ得

選舉ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又
被選舉人中其資格ノ要件ヲ有セザル者アルトキハ其人ノ
當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシムルコトヲ得

參考 (公文ニ關係) 本制一二〇條(選舉ノ定規) 二章一
款中選舉ニ關スル總テノ規定

第三十條 當選者中其資格ノ要件ヲ有セザル者アルコトヲ
發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選
ハ效力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ町村會之ヲ議決ス
參考 本制七條、八條、九條、一五條、市町村會議員
規則

第三十一條 小町村ニ於テハ郡選舉會ノ議決ヲ經テ町村條例
ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケス選舉權ヲ有スル町村公民ノ
總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二款 職務權限及處務規程

第三十二條 町村會ハ其町村ヲ代表シ此法律ニ準據シテ町
村一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ
依リテ委任セラレル事件ヲ議決スルモノトス

參考 府縣制一〇九條、三三法七七號市町村名稱等
ノ件二條、(町村制ニ依リ議決) 本制七五條、七六條、八

三條、一〇二條、一〇八條、一〇九條、一一〇條

第三十三條 町村會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如ク
一 町村條例及規則ヲ設ケ並ニ改正スル事
參考 本制一〇條、一一五條一號、一二七條一號

二 町村會ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六十九條ニ掲ケル
事務ハ此限ニ在ラス
參考 地方學事通則七條

三 歲入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ
認定スル事
參考 本制一〇七條、一〇八條、一〇九條

四 決算報告ヲ認定スル事
參考 本制一二二條

五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手数料町村
稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事
參考 町村制八四條、八八條二項、一〇三條、一二六
條一號乃至四號一二七條六號乃至九號、三三法三三
號國稅ノ課稅標準額及稅額計算ニ關スル件四條、戶籍
法二三條、六六條、一七四條、三三法三三號戶籍
法三依リテ手数料金額ノ件、砂防法二二條、河川法三七
條並ニ砂防法五條、三三法三三號船員手續等
手数料ノ件、船員法施行規則四九條

六 町村有不動産ノ賣買交換讓渡並買入賣入ヲ爲ス
事

參考 民八六條一項、三四三條、三六九條、五四九條
五五五條、五八六條、町村制一二七條三號、登錄稅法
一九條二號

七 基本財産ノ處分ニ關スル事
參考 町村制八一條、一二七條二號

八 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ
負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

九 町村有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
十 町村吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事
十一 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事
參考 民六九五條、六九六條

第三十四條 町村會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル町村
吏員ノ選舉ヲ行フ可シ

參考 町村制五三條、六二條、六三條二項、六四條二項
六五條二項、小學校令六二條、傳染病豫防法一五條

第三十五條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ
防閑シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並
收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳
ニ送リスコトヲ得

參考 町村制一九條一項

第三十六條 町村會ハ官廳ノ詢問アルトキハ意見ヲ陳述ス
可シ

參考 町村制四條、一一四條、三三法七七號市町村
名ニ關スル件一條、府縣制三條三項、小學校令九條、
一〇條、一一條、五二條二項

第三十七條 町村住民及公民タル權利ノ有無、選舉權及被
選舉權ノ有無、選舉人名簿ノ正否並其等級ノ當否、代理
ヲ以テ執行スル選舉權(第十二條第二項)及町村會議員選
舉ノ效力(第二十九條)ニ關スル訴訟ハ町村會之ヲ議決
ス

前項ノ訴訟中町村住民及公民タル權利ノ有無選舉權
有無ニ關スルモノハ町村會ノ設ケナキ町村ニ於テハ町村
長之ヲ議決ス

町村會若クハ町村長ノ議決ニ不服アル者ハ郡選舉會ニ訴
願シ其郡選舉會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣選舉會ニ訴願
シ其府縣選舉會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴
スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ町村長ヨリモ亦訴訟及訴訟ヲ爲スコトヲ得

本條ノ訴訟及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但裁判確定スルニ非サレバ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

參考 (全文ニ關係) 町村制一三〇條七項三項、町村會ノ設キキ町村(町村制)一三〇條七項三項、行政裁判法

第三十八條 凡議員タル者ハ選舉人ノ指示若シハ委嘱ヲ受テ可ラサルモノトス

參考 三四年法三七號政令

第三十九條 町村會ハ町村長ヲ以テ其議長トス若シ町村長故障アルトキハ其代理タル町村助役ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若シハ妻子ノ一身上三四スル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトシテ其代理者之三代ハ可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲スコシ

第四十一條 町村長及助役ハ會議ニ列席シテ選舉ヲ聲明スルコトヲ得

第四十二條 町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ズ之ヲ招集ス

町村會ニ適用ス

第三條 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選任

第五十二條 町村ニ町村長及町村助役各一名ヲ設ク可シ但町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ增加スルコトヲ得

第五十三條 町村長及助役ハ町村會ニ於テ其町村公民中年齡三十歲以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

町村長及助役ハ第十五條第二項ニ規定スル職ヲ兼ヌルコトヲ得

父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ其縁故アル者助役ノ選舉ニ當ルトキハ其選舉ヲ取消シ其町村長ノ選舉ニ當リテ可ク得ルトキハ其縁故アル助役ニ其職ヲ退リ可シ

參考 (全文ニ關係) 町村制七條、一一條一項、三五年法五〇號年計算ニ關スル件

第五十四條 町村長及助役ノ任期ニ四年トス

町村長及助役ノ選舉ハ第四十六條ニ依テ行フ可シ但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラズ選舉會之ヲ決ス可シ

第五十五條 町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有

可シ其召集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急遽ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ開會ノ三日前タル可シ但町村會ノ議決ヲ以テ選舉會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

第四十三條 町村會ハ議員半數以上出席スルニ非サレバ議決スルコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付召集再回ニ至ルモ議員尙半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條 町村會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數アルトキハ再議議決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

參考 町村制一三三條

第四十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若シハ妻子ノ一身上三關ノ事件ニ付テハ町村會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此條名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ選舉會町村會ニ代テ議決ス

第四十六條 町村會ニ於テ町村吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取り更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ

得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條、第二十三條、第二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選舉ニハ町村會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

參考 (全文ニ關係) 町村制五四條一項

第四十七條 町村會ハ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聴ナシスルコトヲ得

第四十八條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分派シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ閉會閉會並運會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聴者ノ公然贊成又ハ排斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十九條 町村會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ願未並出席議員ノ氏名ヲ録記セシム可シ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ

町村會ノ書記ハ議長之ヲ選任ス

第五十條 町村會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五十一條 第三十二條ヨリ第四十九條ニ至ルノ規定ハ之

給町村長及有給助役ハ此限ニ在ラス
 町村長ハ職務取扱ノ爲メニ要スル賃費辨償ノ外勤務ニ相
 當スル報酬ヲ受クルコトヲ得助役ニシテ行政事務ノ一部
 ナ分掌スル場合(第七十條第二項)ニ於テモ亦同シ
 第五十六條 町村ノ情況ニ依リ町村條例ノ規定ヲ以テ町村
 長ニ給料ヲ給スルコトヲ得又大ナル町村ニ於テハ町村
 例ノ規定ヲ以テ助役一名ヲ有給職員ト爲スコトヲ得
 有給町村長及有給助役ハ其町村公民タル者ニ限ラス但當
 選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權ヲ得
 第五十七條 有給町村長及有給助役ハ三箇月前ニ申立ル
 トキハ隨時退職ヲ米ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退職料
 ナ受クルノ權ヲ失フコトナラズ
 第五十八條 有給町村長及有給助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼
 任シ又ハ株式会社ノ社長及重役トナルコトヲ得又其他ノ
 營業ハ郡長ノ認可ヲ得ルニ非ザレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 第五十九條 町村長及助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受ク
 可シ
 第六十條 府縣知事前條ノ認可ヲ與ヘサルトキハ府縣參事
 會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス若シ府縣參事會同意セサルモ

府縣知事ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責
 任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得
 府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服ア
 ルトキハ内務大臣ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得
 第六十一條 町村長及助役ノ選舉其認可ヲ得サルトキハ再
 選舉ヲ爲スコトヲ得
 再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ道ヲ選舉ヲ行ヒ認
 可ヲ得ルニ至ルノ間認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理
 者ヲ選任シ又ハ町村會ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役
 ノ職務ヲ管掌セシム可シ
 第六十二條 町村ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ町村長ノ推
 薦ニ依リ町村會之ヲ選任ス
 收入役ハ有給職員ト爲シ其任期ハ四年トス
 收入役ハ町村長及助役ヲ兼ムルコトヲ得又其他第五十六
 條第二項、第五十七條及第七十六條ヲ適用ス
 收入役ノ選任ハ郡長ノ認可ヲ受ク可シ若シ認可ヲ與ヘサ
 ルトキハ郡參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス郡參事會之ニ
 同意セサルモ郡長ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ
 自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得其他第六
 十一條ヲ適用ス

郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルト
 キハ府縣知事ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得
 收入支出ノ算少ナル町村ニ於テハ郡長ノ認可ヲ得テ町村
 長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ
 得
 第六十三條 町村ニ登記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ相
 當ノ給料ヲ給ス其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但
 町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ登記ノ事務ヲ委任スル
 コトヲ得
 町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任シ使丁
 ハ町村長之ヲ任用ス

委員ハ町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村公民中選舉權ヲ
 有スル者ヨリ選舉シ町村長又ハ其委任ヲ受ケタル助役ヲ
 以テ委員トス
 常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ
 設クルコトヲ得
 第六十六條 區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル賃費
 辨償ノ外町村會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給ス
 ルコトヲ得
 第六十七條 町村吏員ハ任期滿限ノ後再選セラレルコトヲ
 得
 町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ
 外隨時解職スルコトヲ得
 第六十八條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任
 ス
 町村長ノ擔任スル事務ノ概自左ノ如シ
 一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町
 村會ノ議決其權限ヲ越シ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ

第六十四條 町村ノ區域廣闊ナルトキ又ハ人口稠密ナルト
 キハ區域便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分チ
 每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理
 者ハ各職トス
 區長及其代理者ハ町村會ニ於テ其町村ノ公民中選舉權ヲ
 有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區會(第十四條)ヲ設ケル區ニ
 於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス
 第六十五條 町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委
 員ヲ置クコトヲ得其委員ハ各職トス

市制町村制附則

利益ヲ害スルト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官ニ指彈ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ監督官會ノ議決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣審事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

參考 二七年内期一八九號發案補ニ關スル件。町村制二二〇條二項三項

二 町村ノ設置ニ係ル警備物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

參考 (管理者アルトキ) 町村制七〇條二項、七四條一項

三 町村ノ歳入ヲ管理シ歳入出算表其他町村會ノ議決ニ依テ定メタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四 町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財産ヲ管理スル事

五 町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ懲罰及五圓以下ノ過怠金トス

參考 町村制二二八條二項一號

六 町村ノ請置番及公文書類ヲ保管スル事

七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟ニ並和辯ニ關シ又ハ他職若クハ人民ト商議スル事

八 法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手数料、町村税及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

參考 (法律勅令ニ依ル手数料) 戶籍法二三條、六六條

二一七條、三二年司令一三號戶籍法ニ依ル手数料金額ノ件。三二年勅二四三號船員手續等ノ手数料ノ件。船員法施行細則四九條

九 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十九條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管理ス

一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

參考 刑罰四七條二項五號

二 浦役場ノ事務

參考 九年太達一一七號浦役場浦役人ノ件

三 國ノ行政此府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニアラス

參考 府縣制九條、一二條、一五條、一六條、二〇條

二二條、八〇條、郡制一〇條、六八條、三三年内令三

一號府縣會、郡會議員選舉ニ關スル納稅證明ノ件。國

稅徵收法五條。府縣稅徵收ニ關スル件一條。戶籍法二

條。衆議院議員選舉法四條、一八條、一九條、二〇條

二六條、二七條、三四年内令一六號警察總監師名簿ニ

關スル件四條。傳染病豫防法四條、一五條、一七條。

精神病者監護法六條。墓地及埋葬規則四條。徵兵

令二五條。徵兵事務條例二一條。發令六條、七條。

二九年法六六號馬匹調査及檢査ニ關スル件二條。陸軍

召集條例八條、二四條。陸軍召集條例二〇條、二二條

二三條、二五條。小學校令六〇條。赤蠶繭豫防法三

條乃至六條。耕地整理法六五條。船員法七九條。三二

年選令二六號市町村長ヲシテ管海官廳事務ヲ執行セシ

ムルノ件。行旅病人及行旅死亡入取扱法二條、七條、八

條。獸疫豫防法二條。土地收用法一〇條、二條、二二

條。年選令郵便物ノ搬積セル船舶雜碎等ニ關シ船長ヨリ戶

長役場又ハ浦役場ニ送致シタルトキノ處分方。河川法

二三條二項。二九年勅三三二號河川運搬ニ關スル件

一〇條、一一條。關稅法八九條。水產取締法一條、六

條乃至二一條、一四條乃至一八條、二四條乃至三〇條

三三三號一四四號教育所ニアル孤兒ノ職務執行ニ關ス

ル件。消防規則六條。汽車檢査規則二條。船舶檢査

規則七條

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌

セシムルコトヲ得

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ町

村ノ負擔トス

第七十條 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ

一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

參考 五五條二項

助役ハ町村長放廢アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキ

ハ上議者之ヲ代理ス可シ

第七十一條 町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支

拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十二條 書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十三條 區長及其代理者ハ町村長ノ機關トアリ其

命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スル

モノトス

第七十四條 委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分

第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除ク

第七十六條 有給町村長有給助役其他有給吏員及使丁ノ給

第七十七條 町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退職料ヲ設

第七十八條 有給吏員ノ給料、退職料其他第七十五條ニ定

第七十九條 退職料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公

第八十條 給料、退職料、報酬及俸賃等ハ總テ町村ノ負擔

第八十一條 町村ハ其不動産、積立金等ヲ以テ基本財産

第八十二條 凡町村有財産ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ其町村有ノ

第八十四條 町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用ス

第八十五條 使用權ヲ有スル者第八十三條第八十四條ハ

可カラント認ムルトキハ郡縣議會ノ議決ニ付シテ之ヲ確

第七十七條 町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退職料ヲ設

第七十八條 有給吏員ノ給料、退職料其他第七十五條ニ定

第七十九條 退職料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公

第八十條 給料、退職料、報酬及俸賃等ハ總テ町村ノ負擔

第八十一條 町村ハ其不動産、積立金等ヲ以テ基本財産

第八十二條 凡町村有財産ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ其町村有ノ

第八十四條 町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用ス

第八十五條 使用權ヲ有スル者第八十三條第八十四條ハ

第八十六條 町村會ハ町村ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ

第八十七條 町村有財産ノ賣却及貸與又ハ建築工事及物品購

第八十八條 町村ハ其必要ナル支出及從前法律命令ニ依テ

年制一三九號政令及畜牛養核損防二關スル費用負擔
 區分ノ件一三九號。徵收令四三三號三〇號
 町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料。手数料(第八十
 九條並料。過意金其他法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル收
 入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ町村稅(第
 九十條)及夫役現品(第百一條)ヲ賦課徵收スルコトヲ得
 參考 小學校令五三三號。五八條。戶籍法二二七條。國
 稅徵收法五條二項。府縣稅徵收ニ關スル件一條二項。
 七條三項。三三三號。四三三號船員手帳ノ交付訂正等ニ
 關スル手数料ノ件。傳染病豫防法二四條。畜馬騾馬豫
 防法九條

第八十九條 町村ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ
 數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手数料ヲ徵收ス
 ルコトヲ得

參考 町村制一三六條二號。二四四號內閣令四四四號市
 町村ニ於テ維持スル公園地内使用及使用料等ノ件
 第九十條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

- 一 國稅府縣稅ノ附加稅
- 二 直接又ハ間接ノ特別稅

テ町村ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トス特別稅ハ附加稅ノ
 外別ニ町村限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ
 賦課徵收スルモノトス
 參考 町村制一三六條。二二一年大省九五號直接稅間接
 稅區別ノ件。町村制一三六條二號三號四號。一二七號
 七號。砂防法二二條。三三三號。一九三號。一九三號。行
 政監督ノ件三條一號。河川法三七條。二九三號。三五
 號。河川ニ關スル行政監督ノ件三條一號二號。酒造稅法
 三五條

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料。手
 料(第八十九條)特別稅(第九十條)一項第一項第二項及前
 町村稅ニ關スル細則ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其
 條例ニハ料率四九五錢以下ノ。罰則ヲ設クルコトヲ
 得

參考 (全文ニ關係)二二年内閣令九四號町村稅ニ關シ
 テ細則ヲ設クル件

第九十二條 三箇月以上町村内ニ滞在スル者ハ其町村稅ヲ

納ムルモノトス但其課稅ハ滞在ノ初ニ過リ徵收ス可シ

第九十三條 町村内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三箇月以上滞在ス
 ルコトナシト雖モ町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ

爲ス者(店舖ノ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業者
 クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムルモノトス其
 法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限
 ニ在ラス

第九十四條 所得稅ニ附加稅ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ
 所得稅ヲ賦課セントストキハ納稅者ノ町村外ニ於ケル
 所有ノ土地家屋又ハ營業(店舖ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨ
 リ收入スル所得ハ之ヲ除外ス可キモノトス

第九十五條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條
 ノ町村稅ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其
 一部分ニノミ課稅ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入ス
 ル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得稅法第三條ニ掲グル所得ハ町村稅ヲ免除
 ス

參考 (所得稅法第三條)現行所得稅法第五條
 第九十七條 左ニ掲グル物件ハ町村稅ヲ免除ス
 一 政府。府縣都市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ

共スル土地。營造物及家屋

二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝。美術及慈善ノ
 用ニ供スル土地。營造物及家屋

三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益
 ニ係ル事業ヲ起シ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ
 其費用ヲ徵收スルハ此限ニ在ラス
 新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限リ免稅スルコ
 トヲ得

第九十八條 前二條ノ外町村稅ヲ免除ス可キモノハ別段ノ
 法律勅令ニ定ムル所ニ從フ皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ道
 ヲ法律勅令ヲ以テ定ムル現令ノ例ニ依ル
 參考 三三三號。三三四號砂防法ニ依リ地租其他公課減
 免ノ件二條。森林法二八條。酒造稅法三五條

第九十九條 數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルト
 キハ其修繕及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ
 町村内ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其部
 内ニ住居シ若ハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舖
 ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修繕及保存ノ
 費用ヲ負擔ス可シ但其一部ノ所有財產アルトキハ其收入
 ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第百一十條 (全文ニ關係) 町制第一一四條、一二七條八號

第百一十條 町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納税者ニ賦課スルコトヲ得但學費、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

參考 憲二七條二項 夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村稅ヲ準率ト爲シ且ツ之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ

參考 町制第一二七條九號、一三三條、二二一年大告九五號 直接稅間接稅區分ノ件。舊縣廢除豫防法五條 夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人口ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百一十條 町村ニ於テ徵收スル使用料、手数料(第八十九條)町村稅(第九十條)夫役ニ代フル金額(第九一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他町村ノ收入ヲ定期内ニ納メザルトキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セザルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得 參考 國稅徵收法一〇條乃至三〇條。同施行規則一三

條乃至三一條。三四年内令二六號府縣外ニ滯納處分屬

納税者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越セル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取得權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

參考 國稅徵收法二條乃至四條。府縣制一一六條三項 郡制九四條三項。會計法一八條、一九條。地租條例二五條乃至二九條

第百一十條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納税者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村稅ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

參考 地租條例一二條 第百一十條 町村稅ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス 第百一十條 町村稅ノ賦課及町村ノ禁道物、町村有ノ財產並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス

但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラズ

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ郡縣會ニ訴願シ其郡縣會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣議會ニ訴願シ其府縣議會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得 本條ノ訴願及裁決ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

參考 (全文ニ關係) 町制第一二〇條二項三項

第百一十條 町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變害已ムチ得サル支出若クハ町村永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ町村長ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ 定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノトス

參考 (全文ニ關係) 一〇年大布六六號利息制限法。市

制一〇六條三項併齊。町制第一二六條一號。三六六年大 訓令六九二號市町村公債募集ニ要スル事項ノ件

第百一十條 町村ノ歲入出豫算及決算

第百一十條 町村長ハ毎會計年度歲入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見越シ年度前二箇月ヲ限リ歲入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得 參考 (全文ニ關係) 會計法一條一項。二二年内令二號

市町村歲入出豫算表ノ件 第百一十條 豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取リ之ヲ郡長ニ報告シ並ニ地方債行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ其町村事務報告書及財產明細表ヲ提出ス可シ

第百一十條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ町村會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ町村長ハ豫メ町村會ノ認定ヲ受クスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第四百十條 町村會ニ於テ預算表ヲ議決シタルトキハ町村長
 其預算表ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表ニ監
 督官署名クハ監事會ノ許可ヲ受テ可キ事項アルトキハ
 第四百二十五條ヨリ第四百二十七條ニ至ルハ先ツ其許可ヲ受
 テ可シ

第四百十一條 町村ノ出納ハ毎月何日ヲ定メテ検査シ及毎年
 少クモ一回臨時検査ヲ爲ス可シ何月何日ハ町村長又ハ其
 參事 町村制一二九條

第四百十二條 町村ノ出納ハ毎月何日ヲ定メテ検査シ及毎年
 少クモ一回臨時検査ヲ爲ス可シ何月何日ハ町村長又ハ其
 參事 町村制一二九條

代理者之ヲ爲シ臨時検査ハ町村長又ハ其代理者ノ外町村
 會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第四百十三條 決算報告ヲ爲ストキハ第四十條ノ例ニ準シテ
 議長代理者共ニ故障アルモノトス

第四百十四條 町村內ノ區(第六十四條)又ハ町村內ノ一部若
 クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ
 爲スモノ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其ノ一
 區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ該區會
 會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財產及營造物ニ
 關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設ケルコトヲ得其會
 議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第四百十五條 町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依
 リ監督官廳ノ許可ヲ得テ非町村ノ組合ヲ設ケルコトヲ
 得

第四百十六條 町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依
 リ監督官廳ノ許可ヲ得テ非町村ノ組合ヲ設ケルコトヲ
 得

第四百十七條 町村組合ヲ設ケルノ協議ヲ爲ストキハ(第百
 十六條第一項)組合會議ノ組織、事務ノ管理方法並其費用
 ノ支辨方法ヲ合セテ規定ス可シ

第四百十八條 町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ
 之ヲ解散コトヲ得

第四百十九條 町村ノ行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第
 二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ內務大臣之
 ナ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ該參事會及府縣
 參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第四百二十條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町

村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡委員會議決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會議決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

參考 (此法律中規定アル場合)本制五條、八條四項、三七條三項四項、六八條二項一號、七八條、九〇條二項、一〇五條二項、一二三條二項、一二八條二項一號、一二九條

町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分若クハ裁決若クハ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

參考 (但書)本制一八條二項、二九條一項、一〇四條此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會議ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決若クハ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス
訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其

停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

參考 (但書)本制三七條五項、一〇五條三項

第百二十一條 監督官廳ハ町村ノ行政ノ法律命令ニ背反セタル事務紛糾紛糾ヲサレバ或レハ監視ス可シ監督官廳ハ之ヲ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ或實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

參考 一五年内訓令三四九號市町村巡視規程標準。二五年内訓令三五〇號市町村事務報告標準

第百二十二條 町村又ハ其組合ニ於テ法律命令ニ依テ預備シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定數豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セザルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會議ニ訴願シ其府縣參事會議ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百二十三條 凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セザルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第百二十四條 内務大臣ハ町村會ヲ解散セシムルコトヲ得

解散ノ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ改選ス可キコトヲ命ス可シ但改選町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第百二十五條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 町村條例ヲ設ケ或改正スル事
- 二 學務、美術ニ關シ又ハ歴史上貴重ナル物品ノ賣却豫算買入書入交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事
- 參考 (全文ニ關係)學務規則一二條、町村制一〇條一項、小學校令六二條二項三項、三三年勅一二號市町村行政ニ關シ主務大臣ノ職權ヲ府縣知事ニ委任ノ件

第百二十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ
- 但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス
- 二 町村特別稅並使用料、手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
- 三 地租五分ノ一其他直接稅百分ノ五十ヲ超過スル附

加稅ヲ賦課スル事

四 間接稅附加稅賦課スル事

五 法律命令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第百二十七條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 町村ノ營造物ニ關スル規則設ケ或改正スル事
- 二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)
- 三 町村有不動産ノ賣却豫算買入書入ヲ爲ス事
- 四 各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)
- 五 各種ノ保證ヲ與フル事
- 六 法律命令ニ依テ負擔スル義務ニ非シテ向五箇年以

七 均一ノ稅率ニ據ラシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)

八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事

九 第一條ノ準ニ據ラシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

備考 (全文ニ關係) 寄附金除豫防法五條五項。三二年勅一五號豫防ニ關スル行政監督ノ件三條一項二號。地方學本道則九條

第二百二十八條 府縣知事郡長ハ町村長、助役、委員、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ事實及過意金トシ郡長ノ處分ニ係ル過意金ハ十圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ二十五圓以下トス

追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

一 町村長ノ懲戒處分(第六十八條第二項第五)ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二 郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府

縣知事ノ懲戒處分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 本條第一項ニ揭載スル町村定員職務ニ違フコト第三ニ及ビ又ハ其情狀重キ者又ハ其行狀ヲ亂リ廢職ヲ失フ者 財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務ヲサレシメ懲戒處分ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其職時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十七條)懲戒處分ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非ラズシテ職務ヲ執ルニ堪ハサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退職料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡長會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣知事會ニ訴願シ其府縣知事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命ジ或ニ給料ヲ停止スルコトヲ得

第二百二十九條 町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ擅限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡長會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決後

ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタリヨリ七日以内ニ府縣知事會ニ訴願シ其府縣知事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但訴願ヲ爲シタルトキハ郡長會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第八條 附則

第二百三十條 郡長會、府縣知事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡長會ノ職務ハ郡長、府縣知事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ判官ニ於テ之ヲ行フ可シ

第二百三十一條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付町村長及町村會ノ職務並町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長又ハ其指令スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第二百三十二條 此法律ハ北海道、沖縄縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セシムルニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

備考 一 二二年初一號町村制ヲ施行セサル島嶼ノ件。三〇年初一五八號北海道制。三〇年初一五九號北海道一級町村制。三〇年初一六〇號北海道二級町村制。二九年勅一九號沖繩縣區制。三二年初三五二號沖繩縣區切島規程

第二百三十三條 前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡長會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ

此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアル可シ

第二百三十四條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セズ現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ

第二百三十五條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ナク

備考 一 三二年内令三號市制町村制ニ記載スル最終調査人口ノ件

第二百三十六條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トシテ可キ類別ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

備考 一 二二年初九五號直接稅、間接稅類別ノ件

第二百三十七條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第二百三十八條 明治九年十月第百三十號布告各區町村會數公債共有物取扱土木起功規則、明治十一年七月第十七號布告各區町村編制法第六條及第九條俱齊、明治十七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ抵触スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

市制町村制郡府縣制

第二百二十九條 内務大臣ハ此法律實行ノ爲ニ任シ之カ爲メ
必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ

市制條文ハ町村制條文ト殆ト其意義共通ナルヲ以テ更
ニ市制ニ參照條文ヲ掲出スルノ煩ヲ省キ左ニ示ス對照
條數ニ依リ町村制ノ條項ノ下ニ之ヲ索覽スルコトトシ
唯町村制ニ比シ特別ナル條項ノミニ之ヲ掲示スルコト
トセリ

市制町村制條文對照

町村制條數

市制條數 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

町村制條數 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三

三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

市制町村制郡府縣制

三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二

三十五 三十六 三十七 三十八 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 〇 〇 〇 〇

五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二

五十六 五十八 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

市制町村制郡制存縣制

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|
| 七十三 | 七十四 | 七十五 | 七十六 | 七十七 | 七十八 | 七十九 | 八十 | 八十一 | 八十二 | 八十三 | 八十四 | 八十五 | 八十六 | 八十七 | 八十八 | 八十九 | 九十 | 九十一 | 九十二 |
| 七十四 | 六十九 | 七十五 | 七十六 | 七十七 | 七十八 | 七十九 | 八十 | 八十一 | 八十二 | 八十三 | 八十四 | 八十五 | 八十六 | 八十七 | 八十八 | 八十九 | 九十 | 九十一 | 九十二 |

六十

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|
| 九十三 | 九十四 | 九十五 | 九十六 | 九十七 | 九十八 | 九十九 | 一百 | 一百一 | 一百二 | 一百三 | 一百四 | 一百五 | 一百六 | 一百七 | 一百八 | 一百九 | 一百十 | 一百十一 | 一百十二 | 一百十三 |
| 九十三 | 九十四 | 九十五 | 九十六 | 九十七 | 九十八 | 九十九 | 一百 | 一百一 | 一百二 | 一百三 | 一百四 | 一百五 | 一百六 | 一百七 | 一百八 | 一百九 | 一百十 | 一百十一 | 一百十二 | 一百十三 |

市制町村制郡制存縣制

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 百十四 | 百十五 | 百十六 | 百十七 | 百十八 | 百十九 | 百二十 | 百二十一 | 百二十二 | 百二十三 | 百二十四 | 百二十五 | 百二十六 | 百二十七 | 百二十八 | 百二十九 | 百三十 | 百三十一 | 百三十二 | 百三十三 | | |
| 百十五 | 百十九 | 百二十 | 百二十一 | 百二十二 | 百二十三 | 百二十四 | 百二十五 | 百二十六 | 百二十七 | 百二十八 | 百二十九 | 百三十 | 百三十一 | 百三十二 | 百三十三 | 百三十四 | 百三十五 | 百三十六 | 百三十七 | 百三十八 | 百三十九 |

六十一

市制町村制郡制縣制

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|
| 七十三 | 七十四 | 七十五 | 七十六 | 七十七 | 七十八 | 七十九 | 八十 | 八十一 | 八十二 | 八十三 | 八十四 | 八十五 | 八十六 | 八十七 | 八十八 | 八十九 | 九十 | 九十一 | 九十二 |
| 七十四 | 六十九 | 七十五 | 七十六 | 七十七 | 七十八 | 七十九 | 八十 | 八十一 | 八十二 | 八十三 | 八十四 | 八十五 | 八十六 | 八十七 | 八十八 | 八十九 | 九十 | 九十一 | 九十二 |

六

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|
| 九十三 | 九十四 | 九十五 | 九十六 | 九十七 | 九十八 | 九十九 | 一百 | 一百一 | 一百二 | 一百三 | 一百四 | 一百五 | 一百六 | 一百七 | 一百八 | 一百九 | 一百 | 一百一 | 一百二 | 一百三 |
| 九十三 | 九十四 | 九十五 | 九十六 | 九十七 | 九十八 | 九十九 | 一百 | 一百一 | 一百二 | 一百三 | 一百四 | 一百五 | 一百六 | 一百七 | 一百八 | 一百九 | 一百 | 一百一 | 一百二 | 一百三 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 百十四 | 百十五 | 百十六 | 百十七 | 百十八 | 百十九 | 百二十 | 百二十一 | 百二十二 | 百二十三 | 百二十四 | 百二十五 | 百二十六 | 百二十七 | 百二十八 | 百二十九 | 百三十 | 百三十一 | 百三十二 | 百三十三 | | |
| 百十五 | 百十九 | 百二十 | 百二十一 | 百二十二 | 百二十三 | 百二十四 | 百二十五 | 百二十六 | 百二十七 | 百二十八 | 百二十九 | 百三十 | 百三十一 | 百三十二 | 百三十三 | 百三十四 | 百三十五 | 百三十六 | 百三十七 | 百三十八 | 百三十九 |

市制町村制郡制縣制

- 一 所屬府縣ノ官吏及有給吏員
- 二 其ノ郡ノ官吏及有給吏員
- 三 檢事警察官吏及收稅官吏
- 四 神官僧侶其ノ他諸宗教師
- 五 小學校教員

參考 郡制一九九條三項

前項ノ外ノ官吏ニシテ常選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受テヘシ
 選任事務ニ關係アル吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ経過セザル者亦同シ

參考 郡制一〇七條、七二條

郡ノ爲諸員ヲ爲ス者又ハ郡ノ爲諸員ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ郡ノ郡會議員ノ被選舉權ヲ有セス
 第七條 郡會議員ハ名譽職トス
 郡會議員ノ任期ハ四年トス
 議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲メハ議員ノ罷免更正シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 郡會議員中議員ノ及郡會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲メハ議員ノ罷免更正シタル爲議員ノ選舉ヲ要スルトキハ三箇月以内ニ之ヲ行フヘシ

補選議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補選議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選舉セラレタル議員ハ次ノ改選期マテ在任ス

第九條 郡會議員ノ選舉ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區投票ヲ行フヘキ日時及選舉ノヘキ議員ノ員數ヲ記載シ新ニ選舉人名簿ヲ編製シテ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ少クテモ七十日前其ノ他ノ場合ニ於テハ少クテモ十四日前ニ之ヲ發スヘシ

第十條 郡會議員ノ選舉ハ町村長之ヲ管理ス但シ町村長以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ郡長ノ指定シタル町村長之ヲ管理ス

第十一條 町村長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ編製スヘシ但シ町村ノ區域ニ依リ選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選舉ヲ管理スル町村長ニ之ヲ送付スヘシ

選舉人名簿ヲ住所有スル町村外ニ於テ直接開稅ヲ納ムルトキハ前項ノ期日マテニ當該行政區ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ町村長ニ届出ラセシ其期限內ニ届出ナラザルトキハ其納稅ハ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セ

參考 民二一條、三三二年內令三一號納稅處出方ノ件

選舉ヲ管理スル町村長ハ選舉前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間町村役場又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ覽覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前項ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セラレサルトキハ覽覽期限內ニ之ヲ町村長ニ申立アルコトヲ得此場合ニ於テハ町村長ハ其申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

參考 郡制一〇九條六項八項

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡選舉會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ府縣選舉會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

參考 郡制一〇九條二項乃至四項八項

前項ノ裁決ニ關シハ府縣知事郡長町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

町村長ハ第三項異議ノ決定ニ依リ又ハ第四項訴願ノ裁決確定シ若ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ヲ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ期日前七日マテニ修正、加ヘテ確定名簿ト爲スヘシ

參考 (裁決確定)行政訴訟提起期限經過

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ郡内ノ各選舉區ニ送リ同時ニ編製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ適用ス其郡内一部ノ選舉區限リ編製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ該選舉區ニ於テノミ行フ選舉ニ之ヲ適用ス但シ名簿確定後訴願ノ裁決若ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ヲ修正ヲ要スルトキハ選舉期日前七日マテニ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其要領ヲ告示スヘシ
 確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決若ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セザルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス
 異議ノ決定若ハ訴訟ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ編製スヘシ其ノ名簿編製ノ期日覽覽修正及確定ニ關スル期限等ハ

府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

參考 (決定ノ確定) 縣願提出期限ノ經過

第十二條 選舉會ハ町村役場若ハ選舉ナ管理スル町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

町村長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ四日前ニ選舉會ノ場所ヲ定メ關係町村長ニ通知スヘシ

選舉會ノ場所ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ三日日前町村長ニ於テ之ヲ告示スヘシ

特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ選舉分會ヲ設ケ其ノ選舉ニ期シ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

參考 (全文ニ關係) 三二年内令二〇號郡會議員選舉ニ關スル件

第十三條 選舉ナ管理スル町村長ハ臨時ニ選舉人中ヨリ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ選任シ其ノ町村長ハ選舉長トナル

選舉立會人ハ名譽職トス

參考 (全文ニ關係) 郡制八一條

第十四條 選舉人ノ外選舉會場ニ入レコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者選舉會場ヲ監視スル職務ヲ有ス

ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

參考 (全文ニ關係) 郡制二八條 市町村會議員選舉則九條、一〇條、一五條、一七條 事務從事者ハ助役

併記其他附屬員監視者ハ内務大臣、知事、郡長、及其命ヲ受ケタル部下官吏、警察官ヲ含ム

第十五條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿ノ對照シ投票票額ニ捺印シ投票スヘシ

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用井サルモノ

二 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

第二十條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當

選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉票ノ寫ヲ給ヘ當選者ノ住所氏名ヲ郡長ニ報告スヘシ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヲ否テ郡長ニ申立ツヘシ一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ郡長ニ申立ツヘシ

定期改選増員選舉補選選舉等ナ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選舉ニ當リタルトキハ前項ノ例ニ依ル

前三項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭ンタルモノト看做ス

第六條第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十日以内トス

第二十一條 郡會議員ノ當選ニ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選ヤサリシ者ヲ以テ當選トス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其當選

力確定スルニ至ルマテ保存スヘシ

參考 (效力確定) 縣議、縣願訴訟ノ提出期限經過。但

郡制一一條七項

第十九條 選舉長ハ選舉票ヲ製シテ選舉ノ額末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ期滿シ選舉立會人二名以上ト共ニ之

ニ署名シ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉ノ效力確定スルニ至ルマテ保存スヘシ

參考 (效力確定) 縣議、縣願訴訟ノ提出期限經過。但

郡制一一條七項

四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職身身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 投票ノ拒否以效力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第十八條 郡會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

同時ニ補選員數名ヲ選舉スルトキハ投票ノ數多キ者、投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

參考 (全文ニ關係) 三五年法五〇號年齡計算ニ關スル件

第十九條 選舉長ハ選舉票ヲ製シテ選舉ノ額末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ期滿シ選舉立會人二名以上ト共ニ之

ニ署名シ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉ノ效力確定スルニ至ルマテ保存スヘシ

參考 (效力確定) 縣議、縣願訴訟ノ提出期限經過。但

郡制一一條七項

者ヲ定ム
 二人以上投票同数ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セザリシ者ヲ以テ當選トス但シ抽籤ノ爲當選セザリシ者二人以上アルトキハ選舉長抽籤シテ其當選者ヲ定ム
 參考 (全文ニ關係) 三五年法五〇號年數計算ニ關スル件

第二十二條 當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ
 第二十三條 選舉人選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ申立シテ其ノ當選ヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ郡長ニ付スヘシ
 郡長ニ於テ選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項ノ申立ノ有無ニ拘ラス第二項第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ郡長ニ付スルコトヲ得
 本條郡長ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長選舉管理シ町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 參考 (全文ニ關係) 郡制一〇九條
 第二十四條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トス但シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモハ此ノ限ニアラス
 當選者ニシテ被選舉權ヲ有セザルトキハ其ノ當選ヲ無効トス
 參考 (全文ニ關係) 郡制二八條。市町村會議員選舉規則一八條

第二十五條 選舉若ハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲メハ選舉ノ際被選舉權ヲ有セザル爲當選無効ト確定シタルトキハ第十八條及第二十條ノ例ニ依ル
 第二十六條 郡會議員ニシテ被選舉權ヲ有セザル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ郡長ニ付スルコトヲ得

郡會議員ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セザル者アリト認ムルトキハ之ヲ郡長ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ聲明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ス

ルコトヲ得

郡長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡長ニ付スルコトヲ得
 本條郡長ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其ノ決定若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二十八條 郡會議員ノ選舉ニ付テハ市町村會議員選舉ニ關スル規則ヲ準用ス
 參考 一三年法三九號市町村會議員選舉規則

第二十九條 郡會ノ議決ニキ事件左ノ如シ
 職務權限及處務規程

市制町村制部制官制

一 歳入出豫算ヲ定ムル事

第二 決算報告ニ關スル事
 參考 郡制一〇二條
 三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
 參考 郡制八六條、九二條

四 不動産ノ處分並買受讓受ニ關スル事
 參考 民八六條一項、五四九條、五五五條。處分ノ買却贈與交換、取毀及地上權、永小作權、地役權、賃權、抵當權ノ設定等

五 積立金積立金ノ設置及處分ニ關スル事
 六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
 七 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

八 其ノ他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項
 第三十條 郡會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ郡長ニ委任スルコトヲ得
 第三十一條 郡會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

參考 郡制三五條、三六條、五四條、四三條

第三十二條 郡會ハ郡ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ郡長若ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

第三十三條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

郡會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ郡會招集ニ應ゼス若ハ成立セズ又ハ意見ヲ提出セザルトキハ官廳官廳ハ其ノ意見ヲ依テ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 郡會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委嘱ヲ受ケヘカラス

第三十五條 郡會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉ス

議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第三十六條 議長故除アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故除アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉ス

第三十七條 郡長及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏職員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ

非サレハ其ノ請事ニ參與スルコトヲ得ス

第四十三條 法律命令ノ規定ニ依リ郡會ニ於テ選舉ヲ行フ

トキハ一名毎ニ兩名投票ヲ爲シ有効投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り同年

月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第十五條乃至第十七條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ選舉ニ付テハ郡會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推薦若ハ選名投票ノ法ヲ用ヅルコトヲ得其ノ選名投票ノ法ヲ用ヅル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

參考 (全文ニ關係)三五年法五〇號年齡計算ニ關スル件

第四十四條 郡會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 郡長ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 郡長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキ

市制町村制郡制府縣制

許スヘシ但シ之ヲ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得

第三十八條 郡會ハ臨時會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ十四日以内トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ關リ之ヲ開ク其ノ會期ハ五日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急務ヲ要スル事件アルトキハ郡長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

參考 (全文ニ關係)本制七二條二項三項

第三十九條 郡會ハ郡長之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日ヨリ少クとも十日前ニ告示スヘシ但シ急務ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

郡會ハ郡長之ヲ閉閉ス

第四十條 郡會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第四十一條 郡會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ハ決スル所ニ依ル

第四十二條 議長及議員ハ自己若ハ父母祖父母兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ郡會ノ同意ヲ得ルニ

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第四十五條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定ム其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第四十六條 郡會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第四十七條 會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハザルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第四十八條 傍聴人公然可否ヲ表シ又ハ喧嘩ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハザルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聴席廢止ナルトキハ議長ハ總テノ傍聴人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第四十九條 議員ノ秩序ヲ案リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第三十七條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第五十條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ録事ヲ添テ事務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十一條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シ會議ノ議案及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ郡會ニ於テ之ヲ定ム

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ郡長ニ報告スヘシ

第五十二條 郡會ハ會議規則及出席人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ

會議規則ニハ此ノ法律並會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ郡會ノ議決ニ依リ三日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設ケルコトヲ得

第三章 郡委員會

第一款 組織及選舉

第五十三條 郡ニ郡委員會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 郡長
二 名譽郡委員會員 五名

第五十四條 名譽郡委員會員ハ郡會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

郡會ハ名譽郡委員會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ

名譽郡委員會員中議員アルトキハ郡長ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補充ス其ノ順序ハ選舉同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同時ナルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ニ依リ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依リ仍

補充員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補選選舉ヲ行フヘシ

補充員ハ前任者ノ任期満在任ス

名譽郡委員會員及其ノ補充員ハ郡會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ名譽郡委員會員ハ後任者就任ノ日マテ在任ス

第五十五條 郡委員會ハ郡長ヲ以テ議長トシ郡長故障アルトキハ出席會員中ヨリ臨時議長ヲ互選スヘシ

第五十六條 郡委員會ノ職務制限左ノ如シ

一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時議長ヲ選シ郡長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ郡會ニ代テ議決スル事
三 郡長ヨリ郡會ニ提出スル議案ニ對シ意見ヲ述フル事
四 郡會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事
五 郡長ヲ以テ改選スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限リニアラス
六 郡ニ係ル訴訟訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事
七 其ノ他法律命令ニ依リ郡委員會ノ權限ニ屬スル事項

第七十三

第六十一條 郡委員會ノ議長及名譽職委員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ閉クコトヲ得ス

第五十六條 第二ノ議決ヲ爲ストキハ議長ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

郡委員會ノ議決ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

會議ノ願末ハ之ヲ會議録ニ記載シ議長及名譽職委員二名以上之ニ署名スヘシ

第六十二條 第四十二條ノ規定ハ郡委員會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ議長ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第五十四條第三項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ副員ヲ補充スヘシ

第四章 郡行政

第一款 郡吏員ノ組織及任免

第六十三條 郡ニ有給ノ郡吏員ヲ置クコトヲ得其ノ定員ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ議長之ヲ定ム

前項ノ郡吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

參考 (全文ニ關係)郡制一一九條三項

第六十四條 郡ニ郡出納吏ヲ置キ官吏員ノ中ニ就キ議長之ヲ命ス

第六十五條 郡ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任期等ニ關スル事項ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ議長之ヲ定ム

參考 (全文ニ關係)郡制一一九條三項

第二款 郡官吏郡吏員ノ職務權限及職務規程

第六十六條 議長ハ郡ヲ統轄シ郡ヲ代表ス

議長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 郡費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事

二 郡會及郡委員會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事

三 財産及營運物ヲ管理スル事但シ特ニ之ヲ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

四 收入支出命令シ及會計ヲ監督スル事

五 證書及公文書類ヲ保管スル事

六 法律命令又ハ郡會若ハ郡委員會ノ議決ニ依リ使用料

手取料郡費及夫役現品ノ賦課徵收スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ議長ノ職權ニ屬スル事項

第六十七條 議長ハ議案ヲ郡會ニ提出スル前之ヲ郡委員會ニ審査シ付シ若シ郡委員會ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ郡委員會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ

第六十八條 議長ハ郡ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

議長ハ郡ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第六十九條 郡會若ハ郡委員會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背リト認ムルトキハ議長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ

前項取消處分ニ不服アル郡會若ハ郡委員會ハ府縣知事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事議長ヨリハ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

市制町村制郡制存廢

郡會若ハ郡委員會ノ議決公益ニ背アリト認ムルトキハ議長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣知事ニ具申シテ指揮ヲ請フヘシ

前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡委員會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

參考 (全文ニ關係)郡制一〇九條

第七十條 郡會若ハ郡委員會ニ於テ郡ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ議長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セヌシテ直ニ府縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡委員會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

參考 (全文ニ關係)郡制一〇九條二項

第七十一條 議長ハ期日ヲ定メテ郡會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第七十二條 郡會若ハ郡委員會召集ニ應ゼニ又ハ成立セザルトキハ議長ハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決

スハキ事件ヲ處分スルコトヲ得第四十二條第六十二條ノ
 場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ
 郡會若ハ郡參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セシ
 又ハ郡會ニ於テ其ノ招集前告示セラレタル事件ニ關シ議
 案ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル
 郡參事會ノ決定若ハ議決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一
 項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル郡長ノ處分ニ關シ
 テハ各本條ノ規定ニ準シ 訴訟及訴訟ヲ提起スルコトヲ
 得
 本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ郡會若ハ郡參事會ニ報
 告スヘシ

第七十三條 郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急務
 ナリシ郡長ニ於テ之ヲ招集スルノ限ナシト認ムルトキハ
 郡長ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ郡參事會ニ
 報告スヘシ
 參考 (郡參事會ノ權限ニ屬スル事件) 郡制五六條二號
 ナ含ム

第七十四條 郡參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依
 リ郡長ニ於テ專決處分スルコトヲ得
 第七十五條 官吏ノ郡行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中

規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ
 例ニ依ル

參考 二六年勅一六二號地方官官制三九條乃至四八條
 第七十六條 郡出納吏ハ出納事務ヲ掌ル
 第七十七條 郡吏員ハ郡長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス
 第七十八條 委員ハ郡長ノ指揮監督ヲ承ケ財産右ハ營造物
 ナ管理シ其ノ他郡行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委
 託ニ依リ事務ヲ處理ス

第七十九條 郡ノ事務ニ關スル處務規程ハ郡長之ヲ定ム
 第三款 給料及給與

第八十條 有給郡吏員ノ給料額並放費額及其ノ支給方法ハ
 府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム
 第八十一條 郡會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職
 務ノ爲メスル費用ノ辨償ヲ受ケルコトヲ得
 費用辨償額及其ノ支給方法ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ
 許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム若シテ許可スヘカラスト認ムル
 トキハ府縣知事之ヲ定ム
 第八十二條 有給郡吏員ノ退職料退職給與金遺族扶助料及
 其ノ支給方法ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡
 長之ヲ定ム若シテ許可スヘカラスト認ムルトキハ府縣知事ノ

ヲ定ム

參考 三三年内令一四號退職料退職給與金等支給規定
 ノ件

第八十三條 退職料退職給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給
 與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得
 前項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ其決定ニ不
 服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ
 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟及訴訟
 ヲ提起スルコトヲ得

參考 (全文ニ關係) 郡制一〇九條
 第八十四條 給料及放費退職料退職給與金遺族扶助料費用
 辨償其ノ他諸給與ハ郡ノ負擔トス

第五款 郡ノ財務
 第一款 財政營造物及郡費
 第八十五條 郡ハ發立金穀等ヲ設ケルコトヲ得

參考 郡制一一六條一號
 第八十六條 郡ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財産ノ使
 用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ
 付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

市制町村制郡制府縣制

參考 郡制一一四條二號。三三二年勅三二五號府縣郡行
 政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項ノ件

第八十七條 此法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手
 數料ニ關スル細則ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得
 テ郡長之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料二圓以下ノ罰則ヲ設ケ
 ルコトヲ得
 過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ郡長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不
 服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ
 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起
 スルコトヲ得

參考 郡制一〇九條
 第八十八條 郡ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ警備若
 ハ補助ヲ爲スコトヲ得

參考 郡制一一六條七號。砂防法一九條。二〇條。河
 川法三五條。三六條。小學校令五三條

第八十九條 郡ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令ニ依リ郡ノ
 負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ
 參考 郡制ノ規定ニ基ク費用。小學校令五三條。徵收
 令四條。三〇條。砂防法一五條。一七條。一九條。二

○條 河川法二十九條、三三條、三五條、三六條
前項ノ負擔ハ財産ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ充ツルモノトシテ之ヲ郡内各町村ニ分賦スヘシ

第九十條 郡費分賦ノ割合ハ其ノ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル各町村ノ直接間接府縣稅ノ徵收額ニ依レ但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ郡長ハ郡會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

參考 二一年太政官九五號直接間接稅類別ノ件 三五
年法四〇號郡費ノ分賦ニ關スル件

第九十一條 郡内ノ一部ニ對シテ利益アル事件ニ關シテハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

參考 砂防法二二條、三一年勅一五號砂防ニ關スル行政監督ノ件三條一號、河川法三七條、二九年勅二三五號河川ニ關スル行政監督ノ件三條一項二號

第九十二條 郡ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ郡内一部ノ町村ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ケ外金額ニ算出シテ賦課ス

夫役及現品ヲ賦課セラルル町村ハ急迫ノ場合ヲ除ケ外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

參考 (全文ニ關係) 郡制一一六條四號

第九十三條 使用料手数料ノ徵收ニ關シテ告知ヲ受ケタル者其ノ告知ニ違法若ハ錯誤アリト認ムレトキハ告知書ノ交付後三箇月以内ニ郡長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得郡費ノ分賦ニ關シテ其分賦ニ違法若クハ錯誤アリト認ムレトキハ其告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以内ニ郡長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ郡會ニ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣郡會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十四條 使用料手数料材料其ノ他郡ノ收入ヲ定期内ニ納メザル者アルトキハ明稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

參考 國稅徵收法一〇條乃至三三條、二四年內令二六

稅管轄外ニ滯納處分屬托ノ件。郡村ニ對スル分賦金及夫役現品支出金(本項ヲ適用セス町村制一二二條ニ依ル)民事關係ノ收入(本項ヲ適用セス民事訴訟法ニ依ル)

本條ニ記載スル徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取權權ヲ有シ其ノ追徵運付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

參考 府縣制一一六條三項、會計法一九條

本條第一項ノ場合ニ於テ町村吏員ノ身分ニ不服アル者ハ郡會ニ訴願シ其ノ裁決ハ郡長ノ身分ニ不服アル者ハ府縣郡會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村吏員ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

參考 郡制一〇九條

本條第一項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第九十五條 郡ハ其ノ負擔ヲ償還スル爲メ郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變等ノ爲メ必要ナル場合ニ限リ郡會ノ議決ヲ經テ郡費ヲ起スコトヲ得郡費ヲ起スニ付郡會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

市制町村制府縣制

郡ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラズ郡會ニ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

參考 (全文ニ關係) 郡制一一五條、一〇年太布六六號利息制法律

第九十六條 郡長ハ毎會計年度歲入出豫算ヲ編製シ年度開始前郡會ノ議決ヲ經ハシ

郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ財産表ヲ提出スヘシ

參考 (全文ニ關係) 會計法一條一項、三二年內令六六號府縣郡豫算編製式ノ件、二四年內令一二號同上ノ件

第九十七條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第九十八條 郡費ヲ以テ支拂スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ經テ其ノ年開始各年度ノ支出額ヲ定メ豫算下ト爲スコトヲ得

參考 郡制一一六條四號

第九十九條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲

豫備費ヲ設クヘシ但シ郡會ノ否決シタル費額ニ充ツルコトヲ得ス

第百條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百一條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設ケルコトヲ得

參考 郡制一六六條六號

第百二條 決算ハ翌年度ノ通算會ニ於テ之ヲ郡會ニ報告スヘシ

郡長ハ決算ヲ郡會ニ報告スル前郡會事務會ノ審査ニ付スヘシ若シ郡長ト郡會事務會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ郡會事務會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ

決算ハ之ヲ府縣知事ニ報告シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百三條 豫算調製ノ式並其ノ流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

參考 三三二年内令六號府縣豫算調製式等ノ件、二四二年内令一一號同上ノ件、三三三年内令七號府縣豫算目流用並財務ニ關スル件二六條

第百四條 郡吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 郡組合

第百五條 特定ノ事務ヲ共同處理セシムル必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル郡會事務會ノ意見ヲ徵シ府縣事務會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合ヲ設置スルコトヲ得郡組合ノ廢止若シ變更ニ付テモ亦同シ

第百六條 郡組合ヲ設置スルトキハ府縣知事ハ關係アル郡會事務會ノ意見ヲ徵シ府縣事務會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合ノ組織事務ノ管理方法並其ノ費用ノ支辨方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

第百七條 郡組合ハ法人トス
郡組合ニ關シテハ本意中規定スルモノヲ除ク外此ノ法律ノ規定ヲ準用ス但シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七章 郡行政ノ監督

第百八條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第百九條 此ノ法律中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外郡ノ行政ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ規定スル異議若シハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定

若シハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ此ノ法律中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

參考 郡制一三三條三項、一三六條三項、九三條一項二項

此ノ法律ニ規定スル行政訴訟ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ

決定書若シ裁決書ノ交付ヲ受ケザル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ翌日ヨリ起算ス

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

此ノ法律ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付スヘシ

前項異議ノ決定書ハ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

此ノ法律ニ規定スル異議ノ申立若シハ訴願ノ提起ニ關スル期間ノ計算並其ノ場合ニ於ケル特例ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

參考 民訴一六四條乃至一六七條、一七四條、一七五條

異議ヲ申立テ又ハ訴願訴訟ヲ提起スル者アルトキハ行政

市制町村制郡制府縣制

府及行政裁判所ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限リ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

參考 郡制九四條五項

第百十條 監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背反セザルヤ又ハ公益ヲ害セザルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲行

政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ若シ該地ニ就キ事務ヲ觀察シ出納ノ檢閱スルノ權ヲ有ス

監督官廳ハ郡行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第百十一條 監督官廳ハ郡ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第百十二條 内務大臣ハ郡會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

郡會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

解散後始メテ郡會ヲ招集スルトキハ郡長ハ第三十八條第一項ノ規定ニ拘ラス府縣知事ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第百十三條 郡吏員ノ職務規律ハ内務大臣之ヲ定ム

參考 三三三年内令二號府縣郡吏員職務規律

第百十四條 左ニ掲グル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

一 學藝美術又ハ歴史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事

二 使用料手数料新設シ増額シ又ハ變更スル事

參考 (全文ニ關係)三二年勅三二五號府縣郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セザル事項ノ件

第百十五條 郡債ヲ起シ或起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ之ヲ變更スルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス但シ第九十五條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第百十六條 左ニ掲グル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

- 一 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事
- 二 寄附若ハ補助ヲ爲ス事
- 三 不動産ノ處分ニ關スル事
- 四 第九十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 五 繼續安テ定メ若ハ變更スル事
- 六 特別會計ヲ設ケル事

參考 (全文ニ關係)三二年内令三三號府縣郡吏員服務紀律(公職)郡吏員ニ縣會議員選舉立會人等

參考 (全文ニ關係)三二年勅一五號砂防ニ關スル行政監督ノ件四條、五條、二九年勅二三五號河川ニ關スル行政監督ノ件四條、五條、小學校令五三條

第百十七條 郡ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ監督官廳ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第百十八條 郡ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ其ノ權限ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

參考 三二年勅三二五號府縣郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セザル事項ノ件

第百十九條 府縣知事ハ郡吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ懲戒二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ郡吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命ジ或給料ヲ支給セザルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ郡ノ公職ニ選舉セラレ若ハ任命セラレルコトヲ得ス

參考 (全文ニ關係)三二年内令三三號府縣郡吏員服務紀律(公職)郡吏員ニ縣會議員選舉立會人等

第八章 附則

第百二十條 此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十六號郡制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第百二十一條 郡内總町村ニ屬スル事業或ハ其ノ財產營造物ハ小學校ヲ除ク外此ノ法律施行ノ日ヨリ郡ニ移ルモノトス

第百二十二條 此ノ法律ノ規定ニ依リ府縣知事府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其事件ヲ管理スヘキ府縣知事及府縣參事會ヲ指定スヘシ

第百二十三條 島嶼ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ島嶼ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第百二十四條 明治二十三年法律第三十六號郡制ノ規定ニ依リ選舉セラレタル郡會議員郡參事會員ハ此法律施行ノ日ヨリ其職ヲ失フ

本注發布後施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ明治二十三年法律第三十六號郡制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ郡會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス

第百二十五條 此ノ法律施行ノ際郡會及郡參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急務ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ルマテノ間郡長之ヲ行フ

第百二十六條 此ノ法律ニ定ムル府縣參事會ノ職務ハ府縣制ヲ施行シ府縣參事會ノ成立ニ至ルマテノ間府縣知事之ヲ行フ

第百二十七條 此ノ法律ニ定ムル直接税ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

參考 三二年内令六九號直接税種類ノ件

第百二十八條 明治十一年法律十七號市制町村制法其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ地ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第百二十九條 此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

府縣制

(明治三十三年三月)
法律第六十四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ、府縣制改正法律ヲ制定シ、茲ニ之ヲ公布セシム

府縣制

第一章 總則

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及庶務規程

第三章 府縣參事會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及庶務規程

第四章 府縣行政

第一款 庶務吏員ノ組織及任免

第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及庶務規程

第三款 給料及給與

第五章 府縣ノ財務

八十四

第一款 財產營造物及府縣租

第二款 出入預算及決算

第六章 府縣行政ノ監督

第七章 附則

府縣制

第一章 總則

第一款 府縣ノ從來ノ區域ニ依リ、都市及島嶼ヲ包括ス

第二款 府縣ハ法人トシテ、官ノ監督ヲ承ケ、法律命令ノ範圍内ニ於テ、其ノ公共事務並ニ從來法律命令及慣例ニ依リ、及將來法律命令ニ依リ、府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三款 府縣ノ應置分會又ハ境界變更ヲ要スルトキハ、法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣ノ境界ニ涉リテ、都市町村境界ノ變更アリタルトキハ、府縣ノ境界モ亦自ラ變更ス所屬未定地ヲ、都市町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付、財產處分ヲ要スルトキハ、內務大臣ハ關係アル府縣都市參事會及町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム、但シ、特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

參考 (全文ニ關係) 郡制三條、市町村制四條

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第四條 府縣會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ノ都市ノ區域ニ依リ、但シ東京市京都市大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ、區ノ區域ニ依リ

第五條 府縣會議員ハ府縣ノ人口七十萬未満ハ、議員三十人ヲ以テ定ム、七十萬以上百萬未満ハ、五萬ヲ加フルル毎ニ

一人ヲ増シ、百萬以上ハ、七萬ヲ加フルル毎ニ一人ヲ増ス

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ數ハ、府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ、府縣知事之ヲ定ム

前項議員ノ配當方法ニ關スル必要ナル事項ハ、內務大臣之ヲ定ム

參考 (全文ニ關係) 三二二條、三二五條、市部會、郡部會、特例ニ關スル件三二二條、三二三年內令一七號、府縣會議員配當ノ件

第六條 府縣内ノ市町村公民ニシテ、市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ、且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ、府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス

府縣内ノ市町村公民ニシテ、市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ、且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ、府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス

市町村制七條、一二條、選舉法施行令四條、府縣制四〇條、選舉法一〇二條、地租條例一二條、借家賃相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ、其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ、其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

參考 民九六四條、九八六條

府縣會議員ハ住所ヲ移シタル爲、市町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ、其ノ住所同府縣内ニ在ルトキハ、之カ爲、其ノ職ヲ失フコトナシ

參考 民二二條

府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ノ要件中、其ノ年限ニ關スルモノハ、府縣都市町村ノ應置分會若ハ境界變更ノ爲、中斷セラルルコトナシ

參考 府縣制三條、市町村制四條

左ニ掲ケル者ハ、府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス、其ノ之ヲ罷免スル後、一箇月ヲ經過セザル者亦同シ

一 其ノ府縣ノ官吏及有給吏員

二 檢察官、警察官吏及收稅官吏

三 神官、僧侶、其ノ他諸宗教師

市町村制、郡制、府縣制

八十五

四 小學校教員

府縣制八一條三項
前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應キントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ
選舉事務ニ關係アル官吏其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ナリ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

府縣制一四條、一五條一項。地方官官制四七條
一項。市制六九條、七二條。町村制七〇條、七二條
府縣ノ公職員ヲ爲ス者又ハ府縣ノ公職員ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ府縣ノ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス

參考 商二九條、五六條、一〇九條、一六四條、一八〇條、二二六條、二二九條

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼スルコトヲ得ス

參考 衆議院議員選舉法一七條

第七條 府縣會議員ハ名譽職トス

府縣會議員ノ任期ハ四年トス

議員ノ定數ニ異動ナシタル爲メ又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲メ任ナ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 府縣會議員中議員アルトキ及府縣會議員ノ定數ニ

異動ナシタル爲メ又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲メ議員ノ選舉ナ要スルトキハ三箇月以内ニ之ヲ行フヘシ
補選議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス
補選議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選舉セラレタル議員ハ次ノ改選期マテ在任ス

第九條 町村長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ其ノ町村内ノ選舉人名簿ニ本條ニ關シ其ノ一本ヲ十月一日マテニ郡長ニ送付スヘシ

第十條 市長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ十月十五日マテニ其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

參考 府縣制三九條一項

第十一條 選舉人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ九月十五日マテニ當該行政機關ニ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ市町村長ニ届出シ其ノ期限内ニ届出ナラザルキハ其ノ納稅ハ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

參考 民二二條。三二年内令三一號納稅届出方ノ件。

府縣制三九條一項

第十二條 郡市長ハ十月二十日ヨリ十五日間其ノ郡市役所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ鑑定ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セラレサルトキハ鑑定期限内ニ之ヲ郡市長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡市長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

參考 府縣制三九條一項、二二八條四項乃至六項

前項郡市長ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

參考 府縣制三九條一項、二二八條一項乃至三項六項
前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

參考 府縣制三九條一項、二二八條二項三項

選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月十四日マテ之ヲ据置クヘシ

府縣參事會ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ヲ修正スルトキハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正スヘシ
參考 府縣制三九條一項(裁決確定)行政訴訟提起期限

市制町村制附屬條例

經過

本條ニ依リ郡市長ニ於テ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ安否ヲ告示シ郡市長ハ本人住所地ノ町村長ニ通知シ町村長ハ之ヲ告示スヘシ

參考 府縣制三九條一項

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ確定裁決審者ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラズ

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定者ハ訴訟ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効トナリタルトキハ九月十五日ノ現在ニ依リ更ニ名簿ヲ調製スヘシ但シ名簿調製ノ期日マテニ選舉權ヲ失ヒタル者ハ名簿ニ登錄スル限ニ在ラス

前項名簿調製ノ期日經修正及確定ニ關スル期限等ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區投票ヲ行フヘキ

日時及選挙人ハ、議員ノ員數ヲ記載シ選挙ノ日ヨリ少ク
一モ二十日前ニ之ヲ發シヘシ

第十四條 府縣會議員ノ選挙ハ、都市長之ヲ管理ス

参考 府縣制三九條一項

第十五條 投票所ハ、市役所町村役場又ハ市町村長ノ指定シ
タル場所ニ於テ之ヲ設ケ市町村長其ノ事務ヲ管理ス

前項投票所ハ、市町村長ニ於テ選挙ノ日ヨリ少クトモ五日
前ニ之ヲ告示スヘシ

特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ二倍以上ノ投票所
ヲ設ケ其ノ投票ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

参考 (全文ニ關係)三二年内令一九號府縣會議員選挙
投票ノ件 府縣制三九條一項

第十六條 市町村長ハ、臨時ニ其ノ管理スル投票區域内ニ於
クル選挙人中ヨリ投票立會人二名乃至四名ヲ選任スヘシ

投票立會人ハ、名譽職トス

参考 (全文ニ關係)府縣制三九條一項、四〇條 選挙
法九九條 府縣制九四條

第十七條 選挙人ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ス但シ投票所
ノ事務ニ從事スル者投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ

此ノ限ニ在ラス

選挙人ハ投票所ニ於テ協議スルハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 選挙ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選挙人ハ選挙ノ當日自ラ投票所ニ到リ選挙人名簿ノ對照
ヲ經投票簿ニ捺印シ投票スヘシ

選挙人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選挙人一名ノ氏
名ヲ記載シテ投票スヘシ

投票用紙ニハ選挙人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス
自ラ被選挙人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲
スコトヲ得ス

投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用フヘ
シ

第十九條 投票ノ可否ハ投票立會人之ヲ議決ス可旨同數ヲ
以テキハ市町村長之ヲ決スヘシ

参考 府縣制三九條一項

第二十條 市町村長ハ投票簿ヲ製シ投票ニ關スル願末ヲ記
載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

参考 府縣制三九條一項

第二十一條 投票ヲ終リタルトキハ市町村長ハ其ノ指定シタ
ル由チ選挙簿ニ記載スヘシ但シ場合ニ依リ選挙會ハ都ニ
於テハ投票箇到達ノ日市ニ於テハ投票ノ日之ヲ開クコト
ヲ得

前項ノ計算終リタルトキハ選挙長ハ選挙立會人ト共ニ投
票ヲ點檢スヘシ

参考 (全文ニ關係)府縣制三九條一項

第二十六條 選挙人ハ其ノ選挙會ニ参加ヲ求ムルコトヲ得

参考 (全文ニ關係)府縣制三九條一項

第二十七條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用ササルモノ

二 一投票中二人以上ノ被選挙人ヲ記載シタルモノ

三 被選挙人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四 被選挙人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五 被選挙人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ得位
職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此
限ニ在ラス

第二十八條 投票ノ效力ハ選挙立會人之ヲ議決ス可旨同數
ナルトキハ選挙長之ヲ決スヘシ

第二十九條 府縣會議員ノ選挙ハ有效投票ノ最多數ヲ得タ
ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取リ
同年月ナルトキハ選挙長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

市制町村制附則

投票立會人ト共ニ直ニ投票箇及投票簿ヲ選挙會場ニ送
知スヘシ

第二十二條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事
ハ適宜ニ其ノ投票期日ヲ定メ選挙會ノ期日マテニ其ノ投
票簿ヲ送致セシムルコトヲ得

参考 府縣制三三條

第二十三條 選挙會ハ都府所市役所又ハ都市長ノ指定シタ
ル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

前項選挙會ノ場所ハ都市長之ヲ告示スヘシ

参考 (全文ニ關係)府縣制三九條一項

第二十四條 都長ハ各投票所ヨリ投票立會人ノ
中ヨリ抽籤ヲ以テ選挙立會人二名乃至六名ヲ定ムヘシ

市長ハ選挙人中ヨリ選挙立會人二名乃至六名ヲ選任スヘ
シ

選挙立會人ハ名譽職トス

参考 府縣制三九條一項、四〇條、九四條 選挙法九
九條

第二十五條 都市長ハ選挙長ト爲リ都ニ於テハ投票箇ノ總
テ到達シタル翌日市ニ於テハ投票ノ翌日選挙立會人立會
ノ上投票箇ヲ開キ投票ノ總數ヲ投票人ノ總數トシ計算ス
ヘシ若シ投票ノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其

市制町村制附則

同時ニ補選員數名ヲ選舉スルトキハ投票ノ數多キ者、投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

參考 三五年法五〇號年終計算ニ關スル件

第三十條 選舉長ハ選舉員ヲ製シテ選舉ノ順序ヲ記載シ選舉員終リタル後之ヲ期日シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十一條 選舉員終リタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉員ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

定期改選増員選舉補選選舉等同時ニ行ハタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選舉ニ當リタルトキハ前項ノ例ニ依ル

第三項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シ

タルモノト看做ス

第六條第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十日以内トス

第三十二條 府縣會議員ノ當選ノ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長者ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選セザリシ者ヲ以テ當選トス但シ年少ニ由テ當選セザリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セザリシ者ヲ以テ當選トス但シ抽籤ノ爲當選セザリシ者二人以上アルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

參考 三五年一二月法五〇號年終計算ニ關スル件

第三十三條 當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第三十四條 選舉人選舉長ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ府縣知事會ノ決定ニ付スヘシ

府縣知事ニ於テ選舉長ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラズ第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣知事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

本條府縣知事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

參考 (全文ニ關係) 府縣制三八條、三九條一項、二二八條

第三十五條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トス但シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラズ

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

參考 府縣制四〇條、表選一〇一條

第三十六條 選舉者ハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ選舉ノ際被選舉權ヲ有セサル爲當選無効ト確定シタルトキ

ハ第二十九條及第三十一條ノ例ニ依ル

第三十七條 府縣會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ府縣知事會之ヲ決定ス

參考 (異議決定) 本條三項ノ場合ニ限ル

府縣知事ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ聲明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣知事會ノ決定ニ付スヘシ府縣知事ニ於テ被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキ亦同シ

參考 府縣制二二八條三項

本條府縣知事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ列席シ及發言スルノ權ヲ失ハス第三十八條 本條ニ規定スル異議ノ決定及訴訟ノ裁決ハ其

ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘ
第三十九條 第四條第二項但書ノ市ニ於テハ市長トアルハ
區長又市トアルハ區市役所トアルハ區役所ト看做シ本款
ノ規定ヲ準用ス

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ
之ヲ一町村ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉
スル刑則ヲ準用ス

參考 選舉法八六條乃至一〇三條

第一款 職務權限及職務規程

第四十一條 府縣會議員ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 歲入出豫算ヲ定ムル事

參考 府縣制一一八條、一一九條

二 決算報告ニ關スル事

參考 府縣制二二四條

三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料府縣稅
及火役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

參考 府縣制九九條、一〇〇條一項、一〇三條乃至一
一二條

四 不動産ノ處分或受讓受ニ關スル事

參考 民八六條一項、五四九條、五五五條。(處分)賣
却、贈與、交換及地上權、質權、抵當權ノ設定、取毀
等

五 積立金等ノ設置及處分ニ關スル事

參考 府縣制九八條

六 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負
担ヲ爲シ及權利ノ擔當ヲ爲ス事

七 財産及發造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中
別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

參考 罹災救助基金法一六條。市町村立小學校教員退
隱料及遺族扶助料法一四條。二四年法令七號小學校教
員恩給基金管理規則

八 其ノ他法律命令ニ依リ府縣會議員ノ權限ニ屬スル事項

參考 府縣制七七條、九四條

第四十二條 府縣會議員ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣參事會
ニ委任スルコトヲ得

參考 府縣制四七條、四八條、六六條、五五條

第四十三條 府縣會議員ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

參考 府縣制四七條、四八條、六六條、五五條

第四十四條 府縣會議員ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書

ナ府縣知事若ハ内務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第四十五條 府縣會議員ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申ス
ルコトヲ得

府縣會議員ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣會
招集ニ應ゼス若ハ成立セシメ又ハ意見ヲ呈出セザルトキハ
當該會議員ハ其ノ意見ヲ俟タズシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ
得

第四十六條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委託ヲ受ケ
ルコトヲ得

第四十七條 府縣會議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉
スヘシ

議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第四十八條 議長副議長アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議
長共ニ職務アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉ス
ルコトヲ得

第四十九條 府縣知事及其ノ委任若ハ委託ヲ受ケタル官吏
吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決
ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ
許スヘシ但シ之カ會議員ノ發議ヲ中止セシムルコトヲ得

第五十條 府縣會議員及臨時會トス

臨時會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ三十日以内トス臨
時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限リ之ヲ開ク其ノ
會期ハ七日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開
會中急遽ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ其
ノ會議ニ付スルコトヲ得

參考 (全文ニ關係)府縣制八五條二項三項

第五十一條 府縣會議員府縣知事之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日ヨリ少クモ十四日前ニ告示スヘシ但シ
急遽ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

府縣會議員府縣知事之ヲ開閉ス

第五十二條 府縣會議員定員ノ半數以上出席スルニ非
ズレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十三條 府縣會議員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナ
ルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己若ハ父母祖父母兄弟弟
姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ府縣會議ノ同意ヲ得ル
ニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第五十五條 法律命令ノ規定ニ依リ府縣會ニ於テ選舉ナ行

フトキハ一名ニ限名投票ノ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得
メル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最
多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム
其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アレトキハ年長者ヲ取り同
年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於
テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ
年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其
ノ他ハ第十八條 第二十七條及 第二十八條ノ規定ヲ准用
ス

前項ノ選舉ニ付テハ府縣會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推薦若
ハ連名投票ノ法ヲ用リソコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用
ルル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依リ

第五十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限
ニ在ラス
一 府縣知事ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタメトキ
二 議長若ハ議員二名以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止ヲ可決

シタルトキ
前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決ス
ヘシ
第五十七條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其
ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス
第五十八條 府縣會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用非又ハ他人
ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス
第五十九條 會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議
場ノ秩序ヲ紊ル議員アレトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發
言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ
終シマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナ
レ場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中
止シ又ハ之ヲ閉ソコトヲ得

第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧嘩ニ涉リ其ノ他會
議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルト
キハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處
分ヲ求ムルコトヲ得
傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ傍聽人ヲ退場セシメ
必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者
ルトキハ議員若ハ第四十九條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚
起スルコトヲ得

第六十二條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隷屬シテ庶務ヲ處
理セシム
書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十三條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シ會議ノ議案並
出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議録ハ議長及議員二
名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ府縣會ニ於テ之ヲ
定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ
第六十四條 府縣會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ內
務大臣ノ許可ヲ受ケヘシ
會議規則ニハ此ノ法律並會議規則ニ違フシタル議員ニ對
シ府縣會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設
ケルコトヲ得

第三章 府縣參事會

第六十五條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事府縣高等官
二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

市制町村制部制府縣制

府ノ名譽職參事會員ハ八名トシ縣ノ名譽職參事會員ハ六
名トス
府縣高等官ニシテ府縣參事會員タルヘキ者ハ內務大臣之
ヲ命ス

參事 府縣制一四〇條 三三二二八五城市部會、郡
部會等ノ特例ニ關スル件一條、四條。三三二二八五
城市部參事會、郡部參事會ヲ設ケヘキ府縣ノ件

第六十六條 名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之
ヲ選舉スヘシ
府縣會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ
名譽職參事會員中議員アレトキハ府縣知事ハ補充員ノ中
ニ就キ之ヲ補充ス其ノ順序ハ選舉同時ナルトキハ投票數
ニ依リ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキ
ハ抽籤ニ依リ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依
ル仍議員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補充選舉ヲ行フヘ
シ

補充員ハ前任者ノ殘任期間在任ス
名譽職參事會員及其ノ補充員ハ府縣會議員ノ定期改選毎
ニ之ヲ改選スヘシ但シ名譽職參事會員ハ後任者就任ノ日
マテ在任ス

三十五年法五〇號年計算ニ關スル件

第六十七條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス府縣知事放障アルトキハ高等官參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第二款 職務權限及處務規程

第六十八條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

參考 府縣制四二條

二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急務ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決スル事

參考 府縣制四一條、七三條

三 府縣知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニ付府縣知事ニ對シ意見ヲ述ブル事

參考 府縣制七八條二項二號、七九條。(議案審問)報告ヲ含マズ

四 府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事

五 府縣會ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此

ノ限ニ在ラス

六 府縣ニ係リ訴願訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

參考 (訴願訴訟)府縣會、府縣參事會又ハ府縣知事トシテ訴願訴訟ヲ含マス。(訴訟)行政訴訟民事訴訟共ニ含ミ又原告タルト被告タルトナ間ハス

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事

參考 府縣制中本條ノ外ニ規定シタル府縣參事會ノ權限事項。郡制三條三項、一一條四項、一三條四項、二六條四項、六九條二項、八三條二項、八七條二項、九三條三項、九四條三項、一〇五條、一〇六條、町村制四條、五條、八條四項、三七條三項、六八條二項一號、七八條、一〇五條二項、一一〇條二項、一一三條二項

一一八條二項四號、一二九條。市制中ノ規定ハ町村制ト概シテ同一ニ付略ス。(三三)年法七七號市町村名稱等ノ件一號。水利組合條例二三條、三三條二號三號、四六條、五一條。三〇年勅四四〇號地方森林會規則八條二項六號。土地收用法三八條二項。三三(三)年勅八一號府縣稅徵收ニ關スル件三條等

上之三署名スヘシ

第七十四條 第五十四條ノ規定ハ府縣參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第六十六條第三項ノ順序ニ依リ臨時ニ之ヲ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ副員ヲ補充スヘシ

議長及其ノ代理者共ニ除席セラレタルトキハ議長ノ會員ヲ以テ假議長ト爲スヘシ

參考 (全文ニ關係)府縣制八五條一項三項、三五(三)年法五〇號年計算ニ關スル件

第四章 府縣行政

第一款 府縣吏員ノ組織及任免

第七十五條 府縣ニ有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得

前項ノ府縣吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

參考 (全文ニ關係)河川法一五條。府縣制八一條三項

第七十六條 府縣ニ府縣出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第七十七條 府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

第六十九條 府縣參事會ハ參事會中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ府縣ニ係リ出納ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ檢査ニハ府縣知事又ハ其ノ任命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第七十條 第四十四條第四十五條第四十九條及第六十二條ノ規定ハ府縣參事會ニ之ヲ準用ス

第七十一條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ

府縣參事會ノ會期ハ府縣知事之ヲ定ム

參考 (全文ニ關係)府縣制八五條一項三項

第七十二條 府縣參事會ノ會議ハ傍聴ヲ許サズ

第七十三條 府縣參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員半數以上出席スルニ非ザレハ會議ヲ開クコトヲ得

第六十八條第二ノ議決ヲ爲ストキハ府縣知事高等官參事會員ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得

府縣參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

會議ノ議決ハ之ヲ會議録ニ記載シ議長及參事會員二名以テ署名ス

委員ハ名譽職トス
委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ府縣會ノ議決ヲ經
內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

參考 (全文ニ關係) 府縣制八一條三項

第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程

第七十八條 府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス

府縣知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 府縣吏員ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
- 二 府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議
案ヲ發スル事

三 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之ヲ管理者アル
トキハ其ノ事務ヲ監督スル事

四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

五 證書及公文書類ヲ保管スル事

六 法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ使
用料手數料府縣稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事項

參考 土地收用法。森林會規則四條、五條、八條

第七十九條 府縣知事ハ議案ヲ府縣會ニ提出スル前之ヲ府
縣參事會ノ審查ニ付シ若シ府縣參事會ト其ノ意見ヲ異ニス

ルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ府縣會ニ提出ス
ヘシ

第八十條 府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職務ニ屬スル
事務ノ一部ヲ郡島ノ官吏吏員又ハ市町村吏員ニ補助執行
セシメ若ハ委任スルコトヲ得

府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職務ニ屬スル事務ノ一
部ヲ府縣吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十一條 府縣知事ハ府縣吏員ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ
コトヲ得其ノ懲戒處分ハ懲戒二十五圓以下ノ過怠金及解
職トス

府縣知事ハ府縣吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏
員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ支給セザルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ府縣ノ公職ニ
選舉セラレ若ハ任命セラレシムルコトヲ得ス

參考 (全文ニ關係) 三五年內令三號府縣吏員服務規
律

第八十二條 府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權
限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ
自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ
テ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議

ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メザルトキハ之ヲ取消スヘ
シ

前項取消處分ニ不服アル府縣會若ハ府縣參事會ハ行政裁
判所ニ出訴スルコトヲ得

府縣會若ハ府縣參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキ
ハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依
リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メザルト
キハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

參考 府縣制二二八條一項

第八十三條 府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ府縣ノ收支ニ關
シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見
ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議
ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メザルトキハ內務大臣ニ具狀シテ
指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ內
務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第八十四條 府縣知事ハ期日ヲ定メテ府縣會ノ停會ヲ命ス
ルコトヲ得

第八十五條 府縣會若ハ府縣參事會招集ニ應セス又ハ成立
セザルトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ
其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十四條第七

十四條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハザルトキ亦同
シ

府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決
セシムルハ府縣會ニ於テ其ノ招集前告示セラレタル事件ニ
關シ議案ヲ議了セザルトキハ前項ノ例ニ依リ

府縣參事會ノ決定若ハ議決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一
項第二項ノ例ニ依リ此ノ場合ニ於ケル府縣知事ノ處分
ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴訟及訴訟ヲ提起スルコ
トヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ府縣會若ハ府縣參事會
ニ報告スヘシ

第八十六條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急
施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムル
トキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ
府縣參事會ニ報告スヘシ

參考 (府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件) 府縣制六八條
二號ヲ含ム

第八十七條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ
依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十八條 官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律

市制町村制郡制府縣制

中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

參考 二六年初一六二號地方官官制

第八十九條 府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第九十條 府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九十一條 委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他府縣行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第九十二條 府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第三章 給料及給與

第九十三條 有給府縣吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム

第九十四條 府縣會議員名譽職等委員會其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲メ受ル費用ノ辨償ヲ受ケルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ府縣會議員ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若シテ之ノ許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ定ム

第九十五條 有給府縣吏員ノ退職料退職給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ前條第二項ノ例ニ依リテ之ヲ定ム

百

參考 三三年内令一四號退職料退職給與金等支給ニ關スル規定ノ件

第九十六條 退職料退職給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ府縣知事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

參考 (全文ニ關係)府縣制二二八條

第九十七條 給料旅費退職料退職給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ府縣ノ負擔トス

第五章 府縣ノ財務

第九十八條 府縣ハ積立金並等ヲ設ケルコトヲ得

第九十九條 府縣ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財產ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

參考 河川法四二條。三三年内令一四號小學校令施行規則一一五條。三三年初八一號府縣稅徵收ニ關スル件

防法二二條。一四條二項。一九條。二〇條。河川法二四條。二七條。三五條。三六條。行旅病人及行旅死亡人取扱法二三條。三三年初二七七號行旅病人死亡人等ノ引取費用辨償ニ關スル件。衆選一〇四條。同施行令二九條。三〇條。三三條。三三年初二五三號行政執行法同施行令二九條。三〇條。三三條。三三年初二七七號化感法二條。巡査守署退職料及遺族扶助法二四條。巡査守署治療給助料及治療給與令六條。傳染病預防法二三條。二四條。三三年初三〇號傳染病預防救治者ノ手当金ニ關スル件六條。歐疫預防法一六條。畜牛結核病預防法一六條。三三年初一三九號歐疫及畜牛結核病預防ニ關スル費用負擔區分ノ件。徵收令四條三〇條。小學校令五四條。五六條。中學校令二條。三條。高等女學校令二條。三條。師範教育令二條。四條。市町村立小學校教員退職料及遺族扶助法一四條。市縣廳除障防法九條。土地收用法六九條。七〇條。地方森林會規則一二條。一三條

第九十條 府縣稅及其ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外勅令ノ定ムル所ニ依ル

參考 府縣制一四一條。一三年初一六號地方稅規則

七條。府縣制二三三條二號。三三年初三一五號府縣制行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項ノ件

第八十條 此ノ法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手数料ニ關スル細則ハ府縣會議員ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料二圓以下ノ罰則ヲ設ケルコトヲ得

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ府縣知事之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

參考 (全文ニ關係)三三年初三一五號府縣制行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項ノ件

第九十一條 府縣ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ管附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

參考 府縣制二三三條三號。三三年初三一五號府縣制行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項ノ件

第九十二條 府縣ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令ハ從來ノ慣例ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

參考 府縣制ノ規定ニ依ル費用。一三年初二六號地方稅規則三條。三三年初八一號府縣稅徵收ニ關スル件

一四條二項。七條三項。無災救助基金法一條。二條。砂

市制町村制郡制府縣制

百一

使用料及手数料ノ徵收ニ關シテモ亦第一項及第三項ノ例ニ依ル

本條ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏及市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十六條 府縣稅ノ賦課ニ關シテ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日没マテノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅ニ懸檢シ又ハ標榜物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

府縣稅使用料手数料天役現品ニ代フル金錢過料其ノ他府縣ノ收入ヲ定期内ニ納メザル者アルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

參考 國稅徵收法一〇條乃至三三條 三三條八八號

府縣稅徵收ニ關スル件 三四年內令二六號管轄外ニ滯納處分遷托ノ件 府縣制一一二條二項 鉄道ノ場合ノ(夫役現品)本項ヲ適用セス 市制一一八條 町村制一一二條ニ依ル 民事關係ノ收入ニ本項ヲ適用セス民事訴訟法ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ハ國ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵實行及効力ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

參考 會計法一九條 租稅條例二五條乃至二九條 所

得稅法四六條

本條第二項ノ場合ニ於テ郡島ノ官吏及市町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

參考 府縣制二二八條一項乃至三項六項

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏及市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第百十七條 府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルキ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變等ノ爲メ必要アル場合ニ限り府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

府縣ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラズ府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

參考 (全文ニ關係)府縣制一三四條一號 三二年勅三一五號府縣行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セザル事項ノ件 利息制限法

第二款 歲入出豫算及決算

第百十八條 府縣知事ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前府縣會ノ議決ヲ經ヘシ

府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ 豫算ヲ府縣會ニ提出スルハ府縣知事ハ併セテ財產表ヲ提出スヘシ

參考 (全文ニ關係)會計法一條一項 三三年內令六號 府縣豫算調製式等ノ件 二四年內令一二號同上ノ件

第百十九條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第百二十條 府縣費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ナ期ヲテ施行スヘキモノ又ハ數年ナ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

參考 府縣制一三三條六號 三三年勅三一五號府縣郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セザル事項ノ件

第百二十一條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ府縣會ノ否決シタル數途ニ充ツルコトヲ得ス

第百二十二條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ內務大臣ニ

報告シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

參考 府縣制一三三條七號 三二年勅三一五號府縣郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セザル事項ノ件 豫算救助基金法 二四年文令七號小學校教員恩給基金管理規則一條 三二年勅四三五號教育基金令三條二項

第百二十四條 決算ハ翌翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ府縣會ニ報告スヘシ

府縣知事ハ決算ヲ府縣會ニ報告スル前府縣參事會ノ審査ニ付スヘシ若シ府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

決算ハ之ヲ內務大臣ニ報告シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十五條 豫算調製ノ式投資目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ內務大臣ノ決定ム

參考 三三年四月內令六號府縣豫算調製式等ニ關スル件 二四年內令一二號同上ノ件 三三年內令七號費目流用並財務ニ關スル件

第百二十六條 府縣吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規

第七章 附則

第三百三十七條 此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第三百三十八條 島嶼ニ關スル府縣ノ行政ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ特例ヲ設ケルコトヲ得

町村制ヲ施行セザル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

參考 (全文ニ關係三三二年勅令二二七號島嶼ノ府縣會議員選舉ニ關スル件) 三三二年勅令二二八號島嶼ニ關スル府縣行政ノ特別ノ特例ニ關スル件 町村制一三三二條

第三百三十九條 法律命令中別段ノ規定アルモノヲ除ク外此ノ法律ニ規定スル郡長ノ職務ハ島嶼ヲ區ケル島嶼ニ於テハ島嶼之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第四百十條 從前郡市經濟ヲ異ニシタル府縣ノ財產處分ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

特別ノ事情ノ有ル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市部郡部ノ經費ヲ分別シ市部會議部會市部參事會部會部參事會

ヲ設ケル府縣ノ件

參考 (別段ノ規定) 三三二年勅令八一號府縣稅徵收ニ關スル件 三三二年勅令二七六號府縣稅家屋稅ニ關スル件

第四百十二條 明治二十三年法律第三十五號府縣制ノ規定ニ依リ選舉セラレタル府縣會議員府縣參事會員ハ此法律施行ノ日ヨリ其ノ職ヲ失フ

本法發布後施行ノ日ニ至ルマテハ同ニ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ府縣會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス

第四百十三條 此ノ法律施行ノ際府縣會及府縣參事會ノ職務ニ關スル事項ニシテ急遽ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至

ルマテハ内務大臣之ヲ行フ

第四百十四條 此ノ法律施行ノ際議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ノ調製ニ關シ第九條乃至第十二條ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ選舉人名簿ハ選舉調製スル選舉人名簿確定ノ日マテ其ノ效力ヲ有ス

參考 三三二年勅令二二六號府縣會議員選舉人名簿ニ關スル件

第四百十五條 此ノ法律ニ定ムル直接稅ノ種類ハ内務大臣及大臣之ヲ告示ス

參考 三三二年內告六九號直接稅種類ノ件

第四百十六條 明治十三年第十五號布告府縣會規則明治十四年第八號布告區郡部會規則明治二十二年法律第六號府縣會議員選舉規則其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ其效力ヲ失フ

第四百十七條 此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

ヲ設ケ其ノ他必要ナル事項ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

參考 (全文ニ關係三三二年勅令二八五號市部會、郡部會等ノ特別ノ特例ニ關スル件) 三三二年內令二五號市部會郡部會ヲ設ケル府縣ノ件

第四百十一條 明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收法及地方稅ニ關スル從前ノ規定ハ此ノ法律ニ依リ變更シケルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルマテ其ノ效力ヲ有ス

參考 (別段ノ規定) 三三二年勅令八一號府縣稅徵收ニ關スル件 三三二年勅令二七六號府縣稅家屋稅ニ關スル件

第四百十二條 明治二十三年法律第三十五號府縣制ノ規定ニ依リ選舉セラレタル府縣會議員府縣參事會員ハ此法律施行ノ日ヨリ其ノ職ヲ失フ

本法發布後施行ノ日ニ至ルマテハ同ニ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ府縣會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス

第四百十三條 此ノ法律施行ノ際府縣會及府縣參事會ノ職務ニ關スル事項ニシテ急遽ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至

ルマテハ内務大臣之ヲ行フ

第四百十四條 此ノ法律施行ノ際議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ノ調製ニ關シ第九條乃至第十二條ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ選舉人名簿ハ選舉調製スル選舉人名簿確定ノ日マテ其ノ效力ヲ有ス

參考 三三二年內告六九號直接稅種類ノ件

第四百十六條 明治十三年第十五號布告府縣會規則明治十四年第八號布告區郡部會規則明治二十二年法律第六號府縣會議員選舉規則其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ其效力ヲ失フ

第四百十七條 此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 附則

第百三十七條 此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第百三十八條 島嶼ニ關スル府縣ノ行政ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設ケルコトヲ得

町村制ヲ施行セザル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

參考 (全文ニ關係) 三二年勅令二七號島嶼ノ府縣會議員選舉ニ關スル件。三二年勅令二二八號島嶼ニ關スル府縣行政ノ特例ニ關スル件。町村制二三三條

第百三十九條 法律命令中別段ノ規定アルモノヲ除外此ノ法律ニ規定スル郡長ノ職務ハ島嶼ヲ置ケル島嶼ニ於テハ島嶼之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ月長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第百四十條 從前郡市經濟ヲ異ニシタル府縣ノ財產處分ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市郡部ノ經費ヲ分別シ市郡會議部會市郡參事會郡部參事會

ヲ設ケ其ノ他必要ナル事項ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

參考 (全文ニ關係) 三二年勅令二八五號市郡會、郡部會等ノ特例ニ關スル件。三二年內令二五號市郡會郡部會ヲ設ケル府縣ノ件

第百四十一條 明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收法及地方稅ニ關スル從前ノ規定ハ此ノ法律ニ依リ變更シタルモノヲ除外勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルマテ其ノ效力ヲ有ス

參考 (別段ノ規定) 三三年勅令八一號府縣稅徵收ニ關スル件。三二年勅令二七六號府縣稅家屋稅ニ關スル件

第百四十二條 明治二十三年法律第三十五號府縣制ノ規定ニ依リ選舉セラレタル府縣會議員府縣參事會員ハ此法律施行ノ日ヨリ其ノ職ヲ失フ

本法發布後施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ府縣會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス

第百四十三條 此ノ法律施行ノ際府縣會及府縣參事會ノ職務ニ關スル事項ニシテ急遽ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至